

甲第六十八號甲第七十四號布達ヲ以テ第六條中改正

第四條 本會ノ旨趣ニ於テハ各人ノ常ニ勉勵シテ製産發賣スル品ヲ出陳セシムルモノナレハ該會ニ供スル爲メノミニ一時精良ノ品ヲ製シ以テ出陳スルコトヲ得ヘカラス

第五條 本會ノ出品ハ外國人及該品ノ取扱ヲ爲ス商人ノ類ヲ除クノ外ハ生絲茶繭ノ製造人タルモノハ何人ニテモ之レヲ出品スルコトヲ得ヘシ

第六條 本會ヘ出品スル生絲及茶トモ壹名又ハ一社ニ付一種五斤ヨリ百斤迄ヲ限リ繭ハ二升ヨリ五升迄ヲ限リトシ之レヲ輸送スルニ茶ハ七月十六日ヨリ同月三十一日迄生絲繭ハ九月十六日ヨリ同月三十日ヲ限リ會場ヘ到着セシムヘシ尤該品ト本會委員ヘ向ケ送致スヘキモノトス

但茶ハ列品中損傷ノ恐レアルヲ以出品ノ外審査用ニ供スル爲メ其同品ヲ一斤又ハ半斤箱入或ハ其他損害ヲ豫防スヘキ適當ノ用意ヲ爲シ必ラス添送スルヲ要ス

第七條 出品ヲ望ム者ハ申告書ヲ作り遲クトモ開場日限迄ニ本會委員宛ニテ郵送スヘシ但申告書書式ハ別ニ頒布スヘシ

第八條 出品往返ノ運費陳列費出品主ノ旅費等ハ自費タルヘク場内整頓及床代ハ總テ官費トス

第九條 本會ノ出品ハ委員ニ於テ成ルヘク保護スヘシト雖モ盜火風震等ノ類ノ如キ其力ノ及ハサル場合ニ於テ生スル所ノ損害ハ總テ出品人ノ損失タルヘシ

第十條 出品審査中ハ場外ヘ搬出スル事ヲ許サスト雖モ會中ニ於テ其品賣買ノ約定等ヲ爲スト勝手タルヘシ

第十一條 會場規則及審査規則等ハ追テ制定頒布スヘシ

○甲第五十一號 (五月二十八日)
(本文ハ山口縣土族村田一馬所有金祿公債證書發見ノ件畧ス)

○十九年大藏省告示第八十一號ヲ以テ本店ヲ愛知縣名古屋區傳馬町四丁目百五十三番邸ヘ移轉シ是迄ノ本店ヲ支店トス

○甲第五十二號 (五月二十八日)
(本文ハ神奈川縣土族川口正文所有金祿公債證書發見ノ件畧ス)

○甲第五十三號 (五月二十九日 輪廓附)
今般國立銀行條例ヲ遵奉シ左ノ場所ニ設立シタル國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トシ更ニ引換準備金ヲ置キ銀行紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治十年十月二十九號並ニ明治十一年七月第拾六號布告ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事

長崎縣下肥前國北松浦郡平戸村五百七拾貳番地 第九十九國立銀行
長崎縣下肥前國小城郡小城町千百貳拾九番地 第九十七國立銀行
靜岡縣下遠江國豐田郡二俣村百貳拾七番地 第三十八國立銀行
岐阜縣下美濃國土岐郡多治見村壹番地 第四十六國立銀行
愛知縣下尾張國知多郡半田村四百五拾四番地 第三百二十六國立銀行

以上

○甲第五十四號 (五月二十九日)
(本文ハ愛知縣土族增田貞雲所有金祿公債證書紛失ノ件畧ス)

○甲第五十五號 (五月三十一日)
(本文ハ堺縣土族中司義德所有金祿公債證書紛失ノ件畧ス)

○甲第五十六號 (六月二日 輪廓附 內務卿連署)
本年五月甲第五拾號ヲ以テ生絲繭茶共進會規則布達及ヒ置候處右ニ屬スル申告書書式別冊ノ通相定

明治十二年五月六月 大藏省 布達 甲第五十二號 甲第五十三號 甲第五十四號 甲第五十五號 甲第五十六號 (生絲繭茶共進會申告書書式)

業務沿革總說

附出品者履歷

△此項へハ開業ヨリ現今迄ノ 譬ハ明治何年何月社中幾名相謀リ上州富岡ノ蒸氣機械或ハ奥州二本
 松ノ製絲器械ヲ摸シ水車ヲ用ヒ器械ヲ裝置ス當初ハ工人何名ニシテ其技業熟練ナラサリシカ何
 年某氏ノ教授ニ依リ大ニ進歩シ翌何年ハ百斤ノ價格何程ニ販賣シ得ル線絲ヲ製スルニ至ル又何
 年何ノ誰發明ヲ以テ器械ヲ改補シ或ハ加巧シ一層便益ヲ得社中ノ利益月ヲ逐テ増加シ現社員何名
 ニ至ル尙明年ニ至リ何々ノ目的ヲ以盛業ヲ圖ル云々又起業ノ目的ハ社中某ノ資本ヲ專用シ以テ
 本業ヲ營マント謀リシニ何年何月某何々ノ事故ニ係リテ脱社シ或ハ何年ハ非常ノ乾水ニテ水車
 ノ運轉ヲ中止シ甚シキ損耗ヲ招キ困難ヲ極ムルニ際シ社中某ノ奮發或ハ誰ノ助力ヲ以テ何年ニ
 至リ漸ク回復スルヲ得爾來云々又余カ家代々製糸ヲ以業トスル既ニ何年其間何世ニ於テ何々ノ
 發明ヲ爲シ大ニ業務ヲ擴張ス爾來何年ノ頃何々ノ事故ニ依テ一回衰狀ヲ呈シ何年ニ至リ何々ノ
 方策或ハ勉勵ヲ以テ回復シ現今何々ノ景況云々(以上列文ニ隨ヒ成テ詳細ニ記帳ス)
 前書申告ノ件々相違無之候也

△明治十二年 月 日

△出品主

△何之誰 印

△前書之通相違無之段保證仕候也

物 名	繭	△使府縣管下何國何郡區町村番地 △族籍職業名 △何ノ誰 實印
	出品主	
名 稱	△此區ハハ繭ノ通稱ヲ記スヘシ △(尋ヘハ又肯鬼繭蠶盤ノ類)	
出 品 高	△此區ヘハ出品ノ數量ヲ記スヘシ △(尋ヘハ何升)	
培 桑 記スヘシ △此項ヘハ桑樹ノ種類及桑田培養等ノ一ヲ左ノ表面ノ區毎ニ 記スヘシ		
桑 ノ 名	桑田一反歩ニ付培養ノ量及 品種	培 養 季 節
△一年トカ十文字トカゴボレ トカ	△酒粕何百目 油粕何百目	△何月何日頃トカ △凡ソ何年位

極暑ノ熱度	極寒ノ冷度	桑苗仕立方	桑樹仕立方
△季候ニ付テ何十何度トカ	△全上	△根分ケトカ枝フセトカ買マキトカ	△新桑トカ二尺上ヨリ株トカ大木トカ
一反歩立木ノ數	植付ヨリ五年目一反ノ桑ノ盤	桑木ヨリ正葉ヲ得ル分合	
△何株トカ	△何駄位	凡何分位	
箇目	九	十	十一年
桑ノ相場	△何駄ニ付何圓何錢トカ	同上	同上
元種	△此項ヘハ蠶卵紙ノ由來及保存ノ方法ヲ記スヘシ △蠶ハ何年ニ何國何ノ誰ノ卵紙ヲ用ヒ何年ヨリ自製ノ卵紙トス或ハ年々何國何ノ誰製種ニ用ユトカ又保存方ハ秋風ノ起ルヲ俟テ桐ノ箱ニ入ル、トカ寒中何月頃水ニ浸シ發生ノ頃ハ何月何日頃ヨリ箱ノ中ヨリ取出シ上下掛ケ換ヘ置云々ノ類)		
養蠶法	△此項ヘハ左ノ表ノ如ク區毎ニ記スヘシ		
原種ノ紙數	成繭ノ數	繭立ヨリ搖落シ迄ノ日數	原紙一枚ニ付庭起ノ籠數又ハ蠶坐ノ數

△何拾何枚	上繭 玉繭 屑繭	△何石何斗 △何斗何升	△何十何日	△籠ハ長何尺 横何尺 何籠蠶坐圓徑何尺可枚
火力ヲ加ヘタル日數	吐絲前器一頭ノ量目	熱器ノ扱ヒ方	元種一枚ニ付成繭迄平均人	
△何日何夜	△何匁何分	△拾ヒ揚ケトカ熱器ニマアシスルトカ	△何人何分	
元種壹枚ニ付成繭迄平均ノ費用	元種一枚ニ付成繭迄桑ノ正目方			
△何圓何錢	△何駄トカ何貫目トカ			
養蠶ノ數 △此項ニハ出品ノ繭ニ拘ハラズ出品人何種ノ養蠶セシヲ左ノ表面ノ區毎ニ記ス尤モ製絲製種ノ分ヲモ加ヘテ販賣及ヒ費用トモ總計ヲ記ス可シ				
箇目	九	十	十一年	十二年
成繭ノ石數	△何石何斗	同上	同上	同上

販賣代價	△何百何十何圓	△同	上	△同
費用合計	△何十何圓	△同	上	△同

△検査表アルモノハ之レヲ添フヘシ

△前書申告之件々相違無之候也

△出品主

△何之誰實印

△年 月 日

△前書之通相違無之候段保證仕候也

△何管下何國何郡區何町戸長

△何之誰實印

名物	茶	出品
----	---	----

△使府縣管下何國何郡區町村番地

△族籍職業名

△何之誰實印

名稱	△此區へハ從來内國用製茶カ輸出向製茶ノ別及茶銘ヲ記スヘシ △譬ハ宇治製煎茶 銘 鳳凰山或ハ紅茶 銘 白毫等ノ類
----	--

出品高	△此區へハ出品ノ數量ヲ記スヘシ △〔何百何拾斤〕
-----	-----------------------------

茶樹培養法

△此項へハ茶樹培養ノ順序ヲ左ノ表面ノ區毎ニ記スヘシ

園圃ノ地形	氣 候	地 味 及 土 色	現 今 ノ 反 別
△山地カ平地カ或ハ山麓カ	△寒冷カ温暖カ常ニ雲霧ノ多少如何	△肥下カ瘠下カ燥地トカ濕地トカ黒下カ赤下カ	△何拾町何反
插付壺反ニ付	耕 耘 ノ 度	耕耘使役ノ人員及給料壺反ニ付	壺 反 ノ 肥 料
△論時ニテ何株下カ畦時ニテ畦間何尺下カ畑周リ(插付ルトカ)	△春蒔秋ニ何回ツ、何々ヲ爲ストカ	△男何人トカ一日給料何程トカ女壺反ニ付何程ニ當ルトカ	△米糠トカ油滓トカ何質目代價何程人糞ナラハ何荷生馬糞何荷其他云々
肥 養 ノ 人 夫	玉露園日罷ノ時及入費	摘 採 年 度	同 上 毎 年 ノ 順 序
△男何人一日給料何程凡壺反ニ付何程ニ當ルトカ	△何月何日若手此費年々ニ割合凡壺反何程ニ當ルトカ	△插付何ヶ年目ヨリ採摘シ今年何ヶ年目ニナルトカ	△壺養何月何日頃ヨリ何日頃ニ番芽何月何日頃ヨリ何日頃トカ

簡目	年 度		九 年		十 年		十 一 年		十 二 年	
	何々	何々	元價	斤量	元價	斤量	元價	斤量	元價	斤量
同	五等	何々	何	何	何	何	何	何	何	何
等級	銀出シ	何	何	何	何	何	何	何	何	何
茶名	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
同	粉 末	何	何	何	何	何	何	何	何	何
製 茶	總 計	何	何	何	何	何	何	何	何	何
製造費	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
此 賣 上 代 價	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
此 賣 先	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

業務沿革總說 附出品者履歷

△此項へハ開業ヨリ現今迄 (譬ハ祖業ヲ襲クル茲ニ何年其間何世ニ於テ製茶法ニ何々ノ發明ヲ爲シ大ニ業務ヲ擴張ス其後何年ノ頃何々ノ事故ニ依リ一回衰狀ヲ呈シ何年ニ至リ何々ノ方策勉勵ヲ以回復シ現今何々ノ景況云々又明治何年有志ノ者ヲ募リ一社ヲ創立ス相繼テ業ヲ營ムコト何年

其萎靡シテ振ハス明治何年大ニ方法ヲ整革シ廣ク同志ノ者ト協力シ更ニ社ヲ結ビ教師某氏ヨリ紅茶製傳習ヲ受ケ社中某ハ卒業免狀ヲ何年何月ニ受ク爾來大ニ進歩ノ現狀ヲ見ル今日ニ至リ社中何名ニシテ本社ノ商標何々ヲ記號トシタル裝箱ヲ以テ大ニ外國人ノ需用信憑ヲ得ルニ至レリ云々等ノ類 (已上ノ文例ニ准シ) 現様ヲ記スヘシ

△前書申告ノ件々相違無之候也

△明治十二年 月 日

△前書之通相違無之段保證仕候也

△出品主
△何之誰印
△何管下
△何國何郡區町村戸長
△何之誰實印

○甲第五十七號 (六月六日 輪附)

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ左ノ場所ニ設立シタル國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トシ更ニ引換準備金ヲ置キ銀行紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨布達候事
但右紙幣ノ儀ハ明治十年十月十二日第九十號並ニ明治十一年七月第十六號布告ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事

二十年大藏省告示
第七十九號參看

十四年大藏省甲第
百四十七號布達ヲ
以テ第三十二國立
銀行へ合併シ紙幣
ハ從前ノ通り通用
シム
十三年大藏省甲第
百四十號布達ヲ以
テ第六十七國立銀
行へ合併シ紙幣ハ
從前ノ通り通用セ
シム

甲第七十四號布達
ヲ以テ第一條改正
甲第九十九號達ヲ
以テ第一條但書追
加シ

明治十二年六月 大藏省 布達 甲第五十八號 甲第五十九號 甲第六十號 (生絲蘭茶共進會會場規則) 六九九

- 滋賀縣下近江國犬上郡彦根白壁町拾三番地 第三百二十三國立銀行
- 長崎縣下肥前國佐賀郡佐賀北堀端名貳千百三番地 第六百六國立銀行
- 新潟縣下越後國頸城郡高田吳服町四百廿五番地 第三百二十九國立銀行
- 千葉縣下下總國海上郡銚子荒野村百七拾六番地 第四百十二國立銀行
- 大坂府下東區唐物町二丁目貳拾四番地 第四百四十八國立銀行
- 山形縣下羽前國南村山郡山形十日町八拾壹番地 第四百四十國立銀行
- 以上

○甲第五十八號 (六月六日)
(本文ハ山口縣土族高橋尙介所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第五十九號 (六月九日)
(本文ハ大分縣土族加藤依永塚縣土族與村龜五郎記名金祿公債證書紛失並盜難ノ件略ス)

○甲第六十號 (六月九日 輪廓附 內務卿達書)
本年甲第五十號布達生絲蘭茶共進會會場規則審查掛規則及出品者心得別冊ノ通相定候條此旨布達候事

生絲蘭茶共進會會場規則

第一條 茶ハ本年八月一日ヨリ同月三十一日ニ至ルノ間毎日午前第八時ヨリ第十二時迄ヲ審查ノ時間ト爲シ第十二時ヨリ第五時迄ヲ入觀ノ時間ト爲ス又生絲蘭ハ本年十月一日ヨリ同月三十一日ニ至ルノ間毎日午前第八時三十分ヨリ第十二時迄ヲ審查ノ時間ト爲シ第十二時ヨリ第四時三十分迄ヲ入觀ノ時間ト爲ス

- 第二條 觀客ノ場中ニ入ル者ハ必ス通行札ヲ所持スヘシ尤一名一枚ニ限ル可シ但シ滿五歳以下ノ小兒ハ通行札ヲ要セス
- 第三條 通行札ハ一枚金五錢ト定ム但シ會場ニ入ル毎ニ必ス之ヲ門番ニ示スヘシ門番之レヲ收入ス
- 第四條 通行札ヲ所持スル者ト雖モ狂疾或ハ酩酊者ト見受クルトキハ入場ヲ許サス或ハ會場ヨリ立去ラシム可シ
- 第五條 手荷物ヲ提携シ又ハ犬類ヲ牽キテ入場スルヲ許サス但傘杖等ハ此例ニアラス
- 第六條 場内ニ於テ吸煙ヲ許サス
- 第七條 總テ看護人ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ擅ニ物品ニ觸ル、ヲ許サス
- 第八條 列品ハ閉會迄出場ヲ許サス因テ賣買約定ヲ爲ス者ハ證書ヲ取替ハセ置キ散會ノ期ニ至リ買主ヘ渡スヘシ尤右約定濟ノ物品ヘハ其事由ヲ記シタル小札ヲ附置ク可シ

生絲蘭茶共進會審查掛規則

第一條 審查掛員ハ審查掛長ニ從テ擔當ノ物品ヲ遺漏ナク査閱シ其優劣ヲ審ニシ褒賞ノ等級ヲ擬案シ掛長ノ議判ヲ得テ其緣由ヲ記載シタル考案書ヲ作り之ヲ勸農商務兩局長ニ差出ス可シ兩局長ハ協議審案シテ之ヲ裁定シ以テ內務大藏兩卿ニ呈ス可シ

第二條 審查掛員ノ考案ハ多數ニ由テ決スルヲ例トス若シ其考案相協ハスシテ多數ニ決スル能ハサル時ハ掛長其意見ヲ陳シ勸農商務兩局長之ヲ決ス可シ又既ニ多數ニ決シタル者ト雖モ兩局長其當ヲ得スト認ムル時ハ或ハ之ヲ再議セシメ或ハ之ヲ廢止シ或ハ之ヲ親決ス可シ

明治十二年六月 大藏省 布達 甲第六十號 (生絲蘭茶共進會審查掛規則) 六九九

第三條 褒賞ノ等級ハ左ノ目ニ基キ之ヲ定ム可シ

- 一 栽植ノ多數
- 一 培養ノ周到
- 一 製方ノ精良
- 一 製額ノ多數
- 一 需用ノ適當
- 一 貯藏ノ完善
- 一 發明
- 一 功勞

第四條 審査掛ニ撰マレタルモノ、出品ハ本人其審査ニ關カルヲ得サル可シ

共進會出品者心得

第一條

生絲繭茶共進會規則第六條に依り出品を本會の委員へ向け送るには左の手續に準據べし
 第一 出品を本會の委員へ向け直に送状を添輸送ものは其出品主又は代理人横濱へ出張其品の陳列方等を取計ふべし右送り状は別紙雛形の通するべし
 但し品物送送貨は會場へ到着迄の分は悉皆出品主より任拂置決して先拂あとの手續を以て輸送べからず
 送り状之事

生絲

何斤

一 繭
一 茶

何升
何斤

右は共進會荷物書面の通り差送り候條著の御御預り置(拙者)或は(代理何の誰)申出次第御渡有之度候也
 但し横濱町會所迄の運賃は拂濟
 代理人印影○

本人出張せず代理人より荷物渡一方の儀を該會の委員へ申立候節照合せの爲其印影を書式の通り捺印置べし

年 月 日

何國何郡何村何番地

誰

於横濱町會所

共進會委員御中

第二 出品主又は其代理人品物を携帶て出張ものは其出品を本會の委員へ差出一其指揮を受けて陳列方をなすべし

第三 横濱にて委託人を撰定出品を送り陳列方を委託ものは其委託人より該品を本會の委員に差出一其指揮を受けて陳列方をなすべし

但し出品者の便利を謀り横濱の生絲商人および茶商人などにて同所本町六丁目八十四番地生絲検査所に生絲繭茶出品委託引受所を設け出品の取扱ひを致候に付該引受所へ出品を輸送て委託は出品主の便宜とする所にまかすべし

第二條 該會の委員事務掛へ向直に送致し出品到着は包装のまゝ預り置出品主或は代理人申出次第之を引渡すべし尤も運送中損傷の兆効外包の上に顯れしものは運送を受負者へ戻し置べし

第三條 出品の荷を開き及び陳列方は出品主或は代理人の擔當するべきに付運くとも開場五六日前述に横濱へ參著該會の委員へ申出指揮を受べし

第四條 出品を陳列し付用ふべき棚檯は該會の委員設け置べし尤も出品主の望を以て別に飾檯などを自製し設置んとする者は其旨を前以て該會の委員へ申出設置べき場所の許可を受べし

第五條 陳列品は出品主の商標(繪模標家名などの印)及び賣品非賣品を別立に賣價(非賣品は假に賣價を定む)を記すべし

第六條 従前内外の博覽會又は他の事由にて褒賞を得たる品には必ず褒詞の寫し或は賞牌の模型を附し

第七條 開場後出入便利の爲出品主又は代理人委託人へは門鑑札壹枚つゝ渡し置べし但し他人へ貸與へからず

第八條 開場中賣買の約定を爲す者は證書を取替せ置き散會の期に至り買主へ渡すべし尤も約定済の品物へは其事由を記したる小札を附置べし

甲第七十四號布達ヲ以テ第九條改正

第九條 閉會後十五日限り出品主或は代理人は其品物を場外へ搬出すべし右之通相定候事

年 月 日

○甲第六十一號 (六月十六日)

(本文ハ愛知縣士族柳山儀助所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第六十二號 (六月十六日)

(本文ハ愛知縣士族久野賢宗所有秩祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第六十三號 (六月十八日)

(本文ハ長野縣士族早田萬三郎外一名所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第六十四號 (六月十八日)

(本文ハ石川縣士族脇本佐治右衛門所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第六十五號 (六月二十日)

(本文ハ廣島縣士族近藤忠彦記名金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第六十六號 (六月二十一日)

(本文ハ山形縣士族今井半兵衛所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第六十七號 (六月二十六日)

(本文ハ島根縣下工藤八十次所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第六十八號 (六月三十日 輪廓附 内務卿連署)

本年甲第五十號布達生絲繭茶共進會規則第六條中左ノ通改正候條此旨布達候事

生絲繭茶共進會規則

明治十二年六月 大藏省 布達 甲第六十一號 甲第六十二號 甲第六十三號 甲第六十四號 甲第六十五號 甲第六十六號 甲第六十七號 甲第六十八號

第六條 (二種五斤)ヲ(二種一斤)ト改ム

○甲第六十九號 (六月三十日)

(本文ハ石川縣土族脇本左次右衛門所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第七十號 (七月七日)

(本文ハ鹿兒島縣土族黒木卯斐波所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第七十一號 (七月七日)

(本文ハ愛媛縣土族増田貞雲所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第七十二號 (七月七日 輪廓附)

今般國立銀行條例ヲ遵奉シ左ノ場所ニ設立シタル國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トシ更ニ引換準備金ヲ置キ銀行紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治十年十二月第九拾號並明治十一年七月第拾六號布告ノ品ト同一ニ付別段見本相

添ヘサル事

- △千葉縣下總國印旛郡八街村四十七番地 第四百十三國立銀行
- △東京府第三十國立銀行 第三百三十二國立銀行
- △銀行ハ合併シ紙幣ハ從前ノ通り通用セシム 第三百三十七國立銀行
- △十六年大藏省第七十一號告示ヲ以テ東京府下日本橋區兜町三番地へ移轉 第四百一十一國立銀行
- △兵庫縣下丹波國多紀郡笹山二階町六拾八番地 第四百十五國立銀行
- △愛媛縣下伊豫國新居郡西條町百七拾九番地 第四百四十六國立銀行
- △鹿兒島縣下日向國臼杵郡延岡中町四百九拾八番地 第四百四十四國立銀行
- △廣島縣下安藝國廣島區播磨屋町八拾四番邸
- △鹿兒島縣下日向國那珂郡那肥本町五拾九番地

二十一年大藏省告示第百十五號

青森縣下陸奥國三戸郡八戸廿八日町十四番地

第百五十國立銀行

○甲第七十三號 (七月八日)

(本文ハ山形縣土族朝田定昌所有金祿公債證書流失ノ件略ス)

○甲第七十四號 (七月八日 輪廓附 內務卿連署)

本年甲第五十號布達生絲繭茶共進會規則第三條第六條中及甲第六十號布達生絲繭茶共進會會場規則第一條並ニ共進會出品者心得第九條中別紙ノ通改正候條此旨布達候事

生絲繭茶共進會規則

第三條 (茶ハ本年八月一日ヨリ同月三十一日迄生絲繭ハ十月一日ヨリ同月三十一日迄)ヲ(茶ハ本年九月十五日ヨリ十月十五日迄生絲繭ハ十一月一日ヨリ同月三十一日迄)ト改ム

第六條 (茶ハ七月十六日ヨリ同月三十一日迄生絲繭ハ九月十六日ヨリ同月三十一日迄)ヲ(茶ハ八月二十五日ヨリ九月十日迄生絲繭ハ十月十日ヨリ同月二十五日迄)ト改ム

生絲繭茶共進會會場規則

第一條 (改正)

茶ハ本年九月十五日ヨリ十月十五日ニ至ルノ間毎日午前第八時ヨリ第十二時迄ヲ審査ノ時間ト爲シ第十二時ヨリ第四時三十分迄ヲ入觀ノ時間ト爲ス又生絲繭ハ本年十一月一日ヨリ同月三十一日ニ至ルノ間毎日午前第八時三十分ヨリ第十二時迄ヲ審査ノ時間ト爲シ第十二時ヨリ第四時迄ヲ入觀ノ時間ト爲ス

共進會出品者心得

第九條 (閉會後十五日限リ)ヲ(閉會後十日限リ)ト改ム

明治十二年七月 大藏省 布達 甲第七十三號 甲第七十四號

○甲第七十五號 (七月十四日)
 (本文ハ三重縣土族勝矢榮藏所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第七十六號 (七月十五日)
 客年第十六號ヲ以テ公布相成候銀行紙幣見本五圓札壹枚青森縣ニ於テ紛失ノ旨本年二月甲第二十五號ヲ以テ及布達置候處今般發見候旨同縣ヨリ届出候條此旨布達候事

○甲第七十七號 (七月三十日)
 (本文ハ近江國甲賀郡岩室村共有外二名所有起業公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第七十八號 (七月三十一日)
 (本文ハ愛知縣土族羽山儀助所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第七十九號 (七月三十一日)
 (本文ハ島根縣土族岡村佐次郎所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第八十號 (八月二日)
 (本文ハ山形縣土族今井半兵衛所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第八十一號 (八月四日)
 (本文ハ鹿兒島縣土族草野善藏所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第八十二號 (八月四日)
 (本文ハ鹿兒島縣土族黒木卯斐斐所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第八十三號 (八月六日)
 (本文ハ愛知縣土族小林久太郎高知縣土族前田勝衛記名金祿公債證書遺失並盜難ノ件略ス)

○甲第八十四號 (八月十八日)

○甲第八十五號 (八月十八日)
 (本文ハ福島縣土族青田敦陳所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第八十六號 (八月二十八日)
 (本文ハ兵庫縣土族林金秋所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第八十七號 (九月四日)
 (本文ハ兵庫縣土族駒崎秀喬所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第八十八號 (九月十三日)
 (本文ハ東京府土族秋山正永所有金祿公債證書所在不分明ノ件略ス)

○甲第八十九號 (九月十六日)
 (本文ハ東京府土族矢部直高長崎縣土族竹藤仙藏記名金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第九十號 (九月十六日)
 (本文ハ長崎縣土族荒木鹿六所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第九十一號 (九月二十四日)
 (本文ハ岐阜縣土族井上爲繼所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第九十二號 (九月二十四日)
 (本文ハ東京府土族瀬田周吉新潟縣下松原彌惣外一名記名金祿公債證書盜難並遺失ノ件略ス)

○甲第九十三號 (九月二十六日 輪廓附)
 (本文ハ三重縣土族松平定孝所有金祿公債證書遺失ノ件略ス)

○甲第九十四號 (九月二十六日 輪廓附)
 今般國立銀行條例ヲ遵奉シ左ノ場所ニ設立シタル國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トシテ更ニ引換準備金ヲ置キ銀行紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利息ト海關

稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治十年^{十二}第九拾號並ニ明治十一年^七第拾六號布告ノ品ト同一ニ付別段見本相添ヘサル事

二十一年大藏省告示第百十九號參看

鹿兒島縣下鹿兒島郡鹿兒島築町拾九番地 第百四拾七國立銀行
熊本縣下肥後國熊本區新壹町目四拾七番地 第百五拾壹國立銀行

以上

○甲第九十四號 (九月二十七日)

(本文ハ兵庫縣土族儀塚朝次郎東京府土族福島正發愛媛縣下井原福次郎記名金祿公債證書盜難

竝所在不分明ノ件畧ス)

○甲第九十五號 (十月二日)

(本文ハ東京府土族秋山正永外一名所有金祿公債證書發見ノ件畧ス)

○甲第九十六號 (十月三日)

(本文ハ廣島縣土族近藤忠彦記名金祿公債證書發見ノ件畧ス)

○甲第九十七號 (十月三日)

(本文ハ東京府土族福島正發所有金祿公債證書發見ノ件畧ス)

○甲第九十八號 (十月六日)

(本文ハ廣島縣土族儀與一外一名記名金祿公債證書盜難ノ件畧ス)

○甲第九十九號 (十月六日 輪原附 內務卿專署)

本年甲第拾六號布達生絲蘭茶共進會場規則第一條へ左ノ通但書追加候條此旨布達候事
但本會事務ノ都合ニ寄リ臨時入觀ヲ停止シ又ハ入觀ノ時間ヲ伸縮スルコアルヘシ

○甲第百號 (十月七日)

(本文ハ鹿兒島縣土族栗屋市郎八所有金祿公債證書盜難ノ件畧ス)

十六年第十五號布達ヲ以テ廢止

造幣ノ爲メ輸入スル金銀地金ノ儀内外人民ノ便利ヲ謀リ別紙規則ニ從ヒ大藏省内造幣局出張所ニ於テ受取候條此旨布達候事

但地金受取方日限ノ儀ハ追テ可及布達候事
(別紙)

造幣地金受取方規則

第一條 出張所ニ輸入スル金銀地金ハ輸入人立會ノ上出張所詰長官直ニ之ヲ受取鑄解シテ品位ヲ

試驗シ其實價ノ内ヨリ第四條ノ費用(貨幣鑄造料ヲ除クノ外ハ)ヲ引去リ第六條ノ日限ニ依リ貨

幣(金ハ金貨銀ハ)ヲ以テ拂渡ス可シ

但試驗鑄解減ハ輸入人ノ持テタル可シ

第二條 地金受取定高金地金ハ其高五拾オンス(凡四百銀地金ハ五百オンス(凡四百)不純粹金銀

地金舊金銀貨幣及ヒ金銀混合地金ハ價格貳百圓以上タル可シ

第三條 地金ハ左ニ表出スル日ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ正午十二時迄ニ受取ル可シ

每日曜日	臨時	祭休	暇日
一月一日ヨリ	三月一日ヨリ	六月十六日ヨリ	十二月廿五日ヨリ
八月十五日マテ	八月十五日マテ	十一月三十日マテ	十一月三十日マテ

第四條 地金ノ種類ニ應シ左ノ費用ヲ出張所ニ受取ル可シ
金地金ノ精製分析ヲ要セサルモノ及精製分析ヲ要スルモノ

試驗鑄解料 原量五百オンス未滿 金壹圓

十三年大藏省甲第
十四號布達參看

試験分析料

同	五百オンス以上	金 貳 圓
	以上之ニ準シ金壹圓ヲ増ス	
原量	五百オンス未滿	金 貳 圓
同	五百オンス以上	金 四 圓
	千オンス未滿	
	以上之ニ準シ金貳圓ヲ増ス	

貨幣鑄造料

百分ノ壹	金 六 拾 五 圓
------	-----------

運賃並保險料

價格壹萬圓ニ付	金 六 拾 五 圓
---------	-----------

但大阪ニ於テ價格拂渡シテ願フキハ半額ヲ受取ル可シ

但不純粹金地金ハ本文費用ノ外所含純金拾オンスニ付金壹圓三拾七錢七厘ノ精製分析料ヲ受取ル可シ此場合ニ於テハ試驗鑄解料ハ受取ラサル可シ

試驗鑄解料

原量	千オンス未滿	金 壹 圓
同	千オンス以上	金 貳 圓
	以上之ニ準シ金壹圓ヲ増ス	
原量	千オンス未滿	金 壹 圓
同	千オンス以上	金 貳 圓
	以上之ニ準シ金壹圓ヲ増ス	

試驗分析料

原量	千オンス未滿	金 壹 圓
同	千オンス以上	金 貳 圓
	以上之ニ準シ金壹圓ヲ増ス	

貨幣鑄造料

百分ノ壹	金 六 拾 五 圓
------	-----------

運賃並保險料

價格壹萬圓ニ付	金 六 拾 五 圓
---------	-----------

但大阪ニ於テ價格拂渡シテ願フキハ半額ヲ受取ル可シ

十三年大蔵省布達
甲第百一號ヲ以
テ削除追加

但不純粹金地金ハ本文費用ノ外所含純銀拾オンスニ付金貳拾壹錢三厘ノ精製分析料ヲ受取

ル可シ此場合ニ於テハ試驗鑄解料ハ受取ラサル可シ

舊金銀貨幣及ヒ金銀混合地金ノ精製分析ヲ要スルモノ

試驗分析料

原量	千オンス未滿	金 貳 圓
同	千オンス以上	金 四 圓
	以上之ニ準シ金貳圓ヲ増ス	

但試驗鑄解及ヒ試驗分析ノ後其儘地金返却ヲ乞フキ或ハ精製分析ニ不適當ナル地金ニシテ

輸入ハニ返却スルキハ試驗分析料ノ外地金原量千オンス未滿ハ金壹圓千オンス以上貳千

オンス未滿ハ金貳圓千オンス以上之ニ準シ試驗鑄解料ヲ受取リ地金ヲ返却ス可シ

精製分析料

千分中	金百分	所含	純金拾オンスニ付	金 三 圓 貳 拾 三 錢
未滿	地金ハ	同	純銀同	金 貳 圓 九 拾 錢 三 厘
百分	未滿	地金ハ	純銀同	金 壹 圓 九 拾 錢 四 厘
同	金貳百分	以上	純銀同	金 拾 貳 錢 八 厘
			純銀同	金 拾 貳 錢 七 厘
			純銀同	金 八 錢 五 厘

但右ハ都テ千分中雜物百分未滿ノモノトス若シ雜物百分以上ヲ含有スル地金ハ右費用ノ外左ノ増手敷料ヲ受取リ貳百分以上ハ倍數ヲ受取ル可シ但雜物貳百五拾分以上ノ地金ハ受取ラサルヘシ

貨幣鑄造料

其所含ノ	純銀同	所含純銀	共百分ノ壹	金 六 拾 五 圓
------	-----	------	-------	-----------

運賃並保險料

價格壹萬圓ニ付	金 六 拾 五 圓
---------	-----------

但大阪ニ於テ價格拂渡シテ願フキハ半額ヲ受取ル可シ

品位詳明ノ金地金ニシテ試驗銘解ヲ要セサルモノ
但外國金銀貨幣ハ大阪造幣局ニ限り受取ルヘシ尤試驗銘解ノ上輸入センコトヲ望ムキハ出張

所ニ於テモ受取ルコアル可シ
照試驗分析料 金銀地金試驗分析料ニ同シ
貨幣鑄造料 銀共百分ノ壹
運賃並保險料 價格壹萬圓ニ付 金六拾五圓

但大阪ニ於テ價格拂渡シテ願フキハ半額ヲ受取ル可シ
第五條 地金輸入高工程ニ超過スルキハ受取方ヲ拒ム事アル可シ

第六條 試驗分析シテ地金ノ品位定マリタル上ハ左ノ日割ヲ以テ價格ヲ拂ヒ渡スヘシ尤舊金銀貨
幣ハ試驗済ノ日ヨリ成ル可ク速ニ價格ヲ拂渡ス可シ
試驗済ノ日ヨリ休暇ヲ除キ

造幣適當金銀地金 二十五日目
不純雜金銀地金 二十八日目
及金銀混合地金 五十日目
同 千圓以上 三十日目
同 同 三十二日目
同 五千圓以上 三十五日目
同 壹萬圓以上 四十日目

但右日數ヲ待タズ貨幣渡方ヲ望ム者ハ一日壹萬圓ニ付金壹圓ノ割ヲ以テ殘日數ニ乘シ之ヲ
引去リ渡方ヲ爲ス可シ
第七條 地金中含有ノ金銀ヲ除クノ外他ノ雜物ハ渾テ返却セサル可シ

○甲第百二號 (十月十日)

(本文ハ長崎縣土族豊永密治記名金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第百三號 (十月十一日)

(本文ハ鹿兒島縣土族草野善藏所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百四號 (十月十六日)

(本文ハ愛媛縣土族中村トヨ所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第百五號 (十月二十二日)

(本文ハ岐阜縣土族井上爲繼所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百六號 (十月三十一日)

(本文ハ青森外三縣土族成田キャン外四名記名金祿及秩祿公債證書紛失並盜難ノ件略ス)

○甲第百七號 (十月三十一日)

(本文ハ長崎縣土族藤仙藏所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

○甲第百八號 (十一月七日)

(本文ハ高知縣土族澤邦吉所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第百九號 (十一月十三日)

(本文ハ新潟外二縣土族森澤平次外四名記名金祿公債證書紛失並所在不分明ノ件略ス)

○甲第百十號 (十一月十四日)

(本文ハ石川縣土族岩佐平造所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第百十一號 (十一月十四日)

(本文ハ青森縣土族成田キャン所有金祿公債證書發見ノ件略ス)

- 甲第百十二號 (十一月十八日)
(本文ハ愛媛縣下井原福次郎所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百十三號 (十一月十九日)
(本文ハ新潟縣下松原彌惣外一名記名金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百十四號 (十一月二十二日)
(本文ハ三重縣土族桑名藤馬記名秩祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
- 甲第百十五號 (十一月二十二日)
(本文ハ山口縣土族兼國慶藏所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第百十六號 (十一月二十二日)
(本文ハ山口縣土族原田方輔外二名記名金祿公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第百十七號 (十一月二十二日)
(本文ハ福島縣土族青田敦陳所有金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百十八號 (十一月二十七日)
(本文ハ兵庫縣土族本山勝馬記名秩祿公債證書所在不分明ノ件略ス)
- 甲第百十九號 (十一月二十八日)
(本文ハ第四十四國立銀行岩橋輔輔東京府土族中村由承外一名記名金祿公債證書盜難並所在不分明ノ件略ス)
- 甲第百二十號 (十一月二十八日)
(本文ハ福岡縣土族熊井作太郎所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第百二十一號 (十一月二十八日)

十八年大藏省第百六十九號告示ヲ以テ京都府第十一國幣兌換會所シ紙幣ハ從前ノ通り通用セシム

- (本文ハ長崎縣土族豐永密治記名金祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百二十二號 (十二月二日)
(本文ハ岡田悖佑外二名分無記名起業公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第百二十三號 (十二月三日)
(本文ハ東京府土族布施田高久外一名記名金祿公債證書盜難並紛失ノ件略ス)
- 甲第百二十四號 (十二月三日)
(本文ハ長崎縣土族北條新三郎三重縣土族酒井秀雅記名金祿及秩祿公債證書發見ノ件略ス)
- 甲第百二十五號 (十二月十日)
(本文ハ東京府下渥美繁所有舊公債證書紛失ノ件略ス)
- 甲第百二十六號 (十二月十三日 輪廓附)
今般國立銀行條例ヲ遵奉シ京都府下上京區第二十二組錦砂町二百八十五番地ニ設立シタル第百五十三國立銀行ニ於テ公債證書ヲ抵當トシ更ニ引換準備金ヲ置キ銀行紙幣ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債證書ノ利足ト海關稅ヲ除ノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨布達候事
- 甲第百二十七號 (十二月十三日)
(本文ハ和歌山縣土族川口嘉助所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)
- 甲第百二十八號 (十二月十三日)
(本文ハ石川縣土族涌島照太郎所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

明治十二年一月 大藏省 達 甲第百二十九號 甲第百三十號 甲第百三十一號 甲第百三十二號
乙第百一號 甲第百三十三號 甲第百三十四號 甲第百三十五號

○甲第百二十九號 (十二月十三日)

(本文ハ秋田縣土族石山慎助所有金祿公債證書盜難ノ件略ス)

○甲第百三十號 (十二月十八日)

(本文ハ東京府土族伊賀氏理外二名記名秩祿並金祿公債證書紛失並所在不明ノ件略ス)

○甲第百三十一號 (十二月十八日)

(本文ハ東京府土族中村由承外一名記名金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第百三十二號 (十二月十八日)

(本文ハ長野縣土族松澤力三郎所有金祿公債證書紛失ノ件略ス)

○甲第百三十三號 (十二月二十三日 輪廓附)

舊貨幣新貨ト交換並公納ノ儀明治十一年十二月當省甲第六十七號布達ヲ以本年十二月迄延期候處
尙詮議ノ次第有之追テ相達候迄令延期候條此旨布達候事

但交換代金ノ儀ハ作明治十一年九月當省乙第四拾貳號達ノ通候事

○甲第百三十四號 (十二月二十三日)

(本文ハ千葉縣土族山路壽富所有金祿公債證書所在不明ノ件略ス)

○甲第百三十五號 (十二月二十五日)

(本文ハ愛媛縣土族田岡小輔島根縣土族矢泉とよ記名金祿公債證書盜難並遺失ノ件略ス)

○乙第一號 (二月十日 輪廓附)

今般當省中商務局ヲ置キ從前內務省勸商局ノ事務ハ自今該局ニ於テ取扱候條此旨相達候事

十四年大政官第二十六號達ヲ以テ商務局廢止

○乙第二號 (二月十三日 輪廓附)

是迄內務省於テ取扱候英佛兩郵船減價乘込切手渡方ノ儀自今當省ニテ取扱候條明治九年內務省乙第百十四號十年同省乙第九號十一年同省乙第五號達ニ準シ請取方當省へ可申出此旨相達候事

○乙第三號 (二月十五日)

昨十一年第十七號布告ヲ以郡區編制ノ儀被仰出候ニ付テハ右編制施行ノ上ハ區畫名稱等詳細可届出此旨相達候事

○乙第四號 (二月十七日 輪廓附)

明治十年十二月第八十一號公布中酒類賣買ノ儀ニ付同月當省乙第四十五號ヲ以テ飲食店等ニテ酒類ヲ買入レ置キ云々相達候處自今ハ來客ノ自ラ提攜セルノ外酒類ヲ來客ニ供スル飲食店等ハ總テ酒類賣買鑑札爲相受可申此旨相達候事

○乙第五號 (二月十八日 輪廓附)

郡區長郡區書記ヘ他ノ官吏ヨリ轉任又ハ郡區長郡區書記ヨリ他ノ官吏ヘ轉任ノ節月俸ハ明治七年五月第六十一號公達月俸規則第四條ニ照準其月十七日在職ノ方ニ於テ支給シ滿年賜金ハ其際打切支給可致此旨相達候事

但適宜法已ニ施行スト雖モ本文ニ背馳ノ向ハ引直候儀ト可相心得事

○乙第六號 (二月二十一日 輪廓附 內務卿達)

明治五年第三百壹號公布ニ因リ石代改正增加高間金凡貳割ヲ目途トシ下渡候分其他勸業並凶荒豫備等資本ノ爲メ府縣應限リ致委託下渡候分實地使用ノ景況並費目精算書相添毎半年六月限り可届出候且又右類似ノ金筋ニテ從來舊藩ヨリ引繼居候分ハ六年大藏省第百四十九號ヲ以相達候旨モ有之此節迄開申不相成向ハ無之答ニ候得共萬一調洩ノ分モ有之候ハ、此際至急取調可申出候此旨相達

明治十二年一月 大藏省 達 乙第二號 乙第三號 乙第四號 乙第五號 乙第六號

十七年大藏省第十

六號達二十三

十九年內務省令第

十六號ヲ以テ內務

省ハ報告ノ分廢止

十六年大政官第

十七年大政官第

十六號達ヲ以テ中

務ヲ農商務省ニ屬

ス

十三年第四十號布

告ニ依リ消滅

十六年第七號布告

十七年大政官第

十六號達ヲ以テ中

務ヲ農商務省ニ屬

ス

十三年第四十號布

告ニ依リ消滅

候事

但本文委託金無之向ハ其旨可届出候事

十四年大藏省七第

二十五號達ヲ以テ

國稅領收順序更正

減

十四年大政官第六

十一號達ニ依リ消

○乙第七號 (二月二十一日 諭附)

今般國稅金領收ノ順序相定候ニ付テハ各郡區長へ租稅局長ヨリ直ニ相達候儀モ可有之候條兼テ郡

區長へ相達置可申候此旨相達候事

○乙第八號 (二月三十一日)

神社經費ノ儀ハ十一年度決定高ヨリ賜餼料ヲ控除セシ金員ヲ以當分据置候條賜餼料減額取調可申

出候就テハ神社豫算帳ノ儀モ追テ相達候迄差出ニ不及候此旨相達候事

○乙第九號 (二月十日)

國立銀行指傷紙幣交換方ノ儀ニ付テハ兼テ相達置候趣モ有之候處今般各國立銀行へ別紙ノ通相達

候條自今不及交換候此旨相達候事

但本文ノ趣明治八年當省乙第七拾四號達ニ準シ管下人民へ普ク諭達可致候事

(別紙)

各國立銀行

國立銀行指傷紙幣交換ノ儀自今他店ノ發行紙幣アリトモ其所持主請求次第各國立銀行本支店ニ於

テ無差支互ニ交換可取計此旨相達候事

但ソ本文交換セシ他店ノ紙幣ハ適宜取纏メ其發行銀行へ相送り其代リ金並右遞送ニ屬スル費用

ハ勿論更ニ手数料トシテ交換金高千圓ニ付貳圓ツ、該銀行ヨリ償還可爲致就テハ交換請求人ヨ

リ別段手数料切賃等一切受取候儀不相成候事

明治十二年二月十日

大藏卿大隈重信

十四年大藏省七第
二十五號達ニ依リ
消滅
以テ別紙中更正附
補

○乙第十號 (二月十三日 諭附)

昨十一年月十二當省乙第七十二號ヲ以テ相達候國稅金領收順序ニ添タル納稅切符ノ儀ハ地稅ノミ相

示シ有之ニ付酒類稅其他諸稅ニ用ユル納稅切符雜形及ヒ其時々收入スル諸稅領收順序別紙ノ通相

定候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

一酒造營業稅 但稼續之者

一酒類釀造稅

一酒類受賣稅 但稼續之者

一煙草營業稅 同

一船 稅 同

一車 稅 同

一牛馬賣買免許稅同

一賣藥營業稅 同

右ニ掲クル諸稅ハ各種毎ニ別紙第一號雜形ノ甲乙納稅切符ヲ以テシ其領收順序等ハ昨十一年月十二

當省乙第七十二號達シノ通リタルヘシ

一地券證印稅

一官 祿 稅

一新規 酒造營業稅

一酒類受賣稅

一同 煙草營業稅

一煙草印紙稅

一 證券印紙稅
 一 訴訟用紙稅
 一 新規船稅
 一 同 車稅
 一 國立銀行稅
 一 株式取引所稅
 一 米商會社稅
 一 銃獵稅
 一 新規牛馬賣買免許稅
 一 度量衡稅
 一 板權免許料
 一 海外旅券其他免許手數料
 一 新規賣藥營業稅
 一 諸鑑札料同手數料

右ニ掲ケル諸稅ノ内其地方廳ヘ直ニ收入スルモノハ一稅毎ニ税金預ケ書ヲ作リテ之ヲ税金預リ人ヘ相預ケ預リノ證印ヲナサシメ一週日毎ニ取纏メ之ニ納證書ヲ添ヘテ其廳ヨリ直ニ收稅委員ヘ送付シ領收證ヲ得テ昨十一年^{十二}當省乙第七十二號達書未項ノ通取計フヘシ其郡區役所ヘ納メシムルモノハ本人ニ於テ別紙第二號雛形ノ如キ書面ヲ作リテ其税金ヲ税金預リ人ヘ相預ケ預リノ證印ヲ受ケテ后郡區役所ヘ納ムヘシ郡區長ハ之ニ領收證書ヲ與ヘ而シテ右ノ税金預ケ證書ハ一週日毎ニ取纏メ之ヲ收稅委員ニ送付スル等ハ右達書第九項以下ノ通タルヘシ

但本條ニ列記スル諸稅ト雖モ戶長ノ手ヲ經テ納ムルモノハ昨十一年^{十二}第七十二號達シ第五項但書ニ照準シ前條同様取計ヘシ

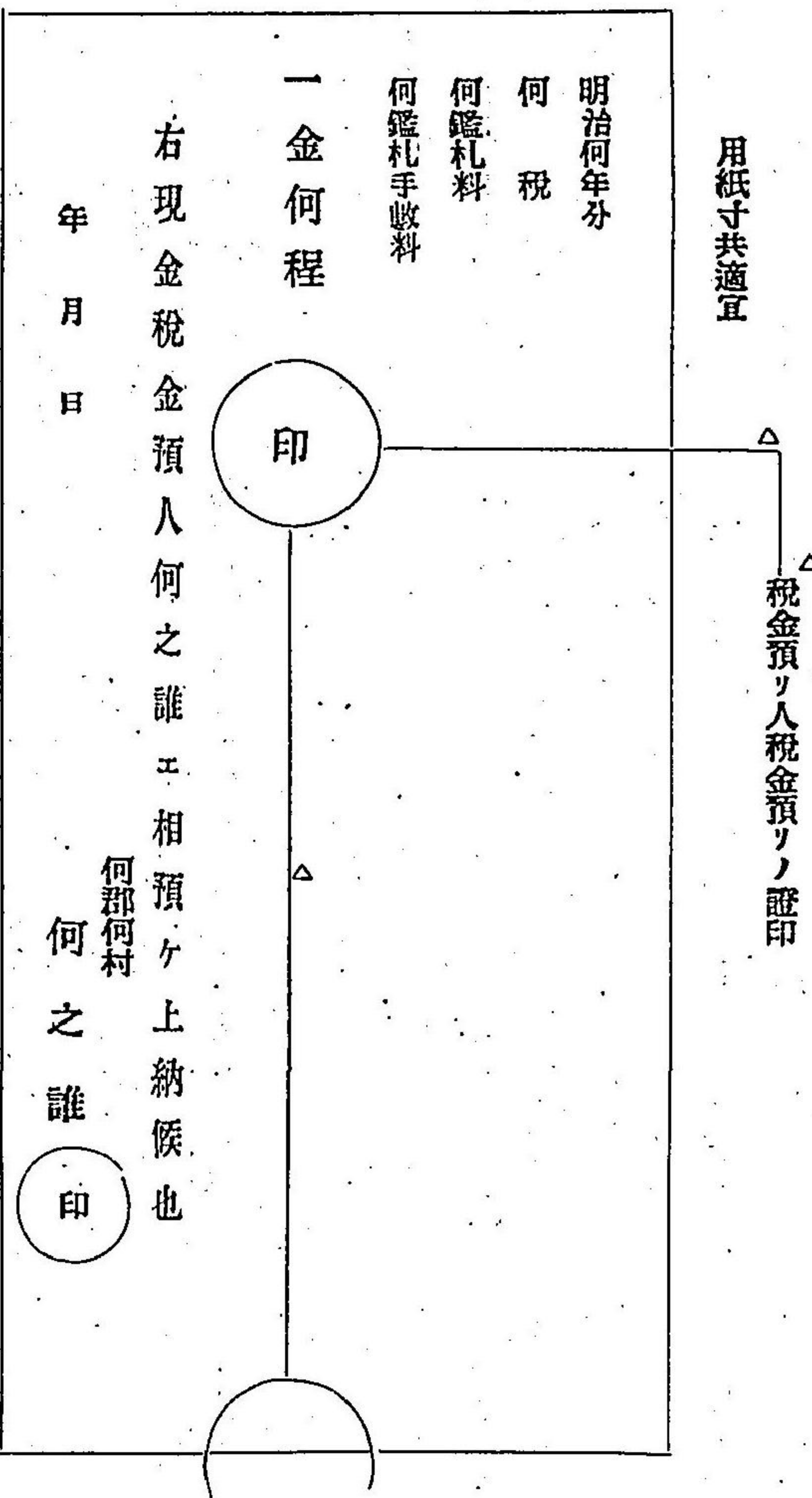
第壹號納稅切符雛形

切符面ニアル證印押切印等ハ都テ地稅ノ通ソタルヘシ

(印章ニ△印ハ朱)

明治何年分何稅 納期何年何月何日限 何郡何村 戶長 納人何之誰 (印)		所 郡 印 役 金 何 程 之 領 郡 印 收 長 右 可 相 納 候 也 明 治 何 年 何 月 何 日
明治何年分何稅 納期何年何月何日限 何 郡 何 村 分 右 現 金 何 月 何 日 税 金 預 リ 人 何 之 誰 へ 相 預 ケ 則 上 納 候 也 明 治 何 年 何 月 何 日 何 郡 何 村 戶 長 何 之 誰 (印)		所 郡 印 役 金 何 程 之 領 郡 印 收 長

第貳號雜形



○乙第十一號 (二月十八日 諭附)

舊金銀貨幣交換ノ儀昨年九月當省乙第四拾貳號ヲ以テ右代リ金貨貿易銀ニテ可相渡旨達置候處猶又今般便宜ノ爲メ價格貳百圓以上ノ舊金銀貨幣ヲ大阪國債局出張所ニ齎シ候ハ、造幣局精製分析所ニ於テ携帶人立會溶解ノ上試驗分析ノ順序除メ日限ヲ期シ難シト雖モ休ヲ經テ該地金中ヨリ鑄造手數料金銀トモ一ヲ引去リタル殘量ヲ成貨ニ積算シ改鑄工業ノ日限ニ不拘金分ハ金貨銀分ハ貿易壹圓銀ヲ以テ速ニ國債局出張所ニ於テ立替可相渡候條此旨相達候事

十五年大藏省第六號達參看二十一年同省令第十六號ニ依リ消滅

乙第三十三號達參看十三年第四十號布告ヲ以テ酒類稅則廢止

但試驗分析料及ヒ精製分析料ハ其依頼人ヨリ直ニ精製分析所ニ拂フヘシ此金種類ハ金貨貿易銀ニ限ラサルモノトス

○乙第十二號 (三月二十六日 諭附 內務卿達參)

從來酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ハ賣藥免許證札下付致來候向モ有之候處右ハ醫藥ニ供スル別紙記載ノ品類ヲ除クノ外酒類ヲ和シ飲料ニ供スルモノハ假令藥品ヲ配伍スト雖モ總テ酒類稅則ニ據リ課稅可致就テハ是迄下付致居候證札ハ返納致サセ可申此旨相達候事

但證札返納ノ上ハ其品目內務大藏兩省ニ届出ツ可シ

(別紙)

- | | | | | | | |
|----------|----------|-----------|--------|-----------|--------|----------|
| 酒精 | 再留酒精 | ホフマン氏鎮痛液 | 甘鹽精 | 甘硝石精 | 礮砂精 | 礮砂加阿魏精 |
| 複方白芷精 | アチース精 | 芳香精 | 芳香礮砂精 | 複方アルモラシア精 | カヤフーテ | |
| 精 | 龍腦精 | コロハフォルム精 | 桂皮精 | 枸櫞皮精 | 山荷葉精 | 蟻精 |
| 複方杜松子精 | ラーヘンデル精 | 複方ラーヘンデル精 | 薄荷精 | ミールシア精 | 樟櫞精 | 複方マスチツク精 |
| 英國縮葉薄荷精 | 椒性薄荷精 | 芥子精 | 雙鸞菊精 | 莫荳精 | 肉豆蔻精 | 迷迭香精 |
| 石鹼精 | セルヒルリ精 | 番木鱉精 | アルニカ花精 | コロシクム實精 | 橙皮精 | 實荳荳利精 |
| 沃斯精 | 高苜精 | 丁 幾 | | | | |
| 亞爾藤丁幾 | 複方亞爾藤丁幾 | 芳香酸丁幾 | 雙鸞菊丁幾 | 蘆薈丁幾 | 複方蘆薈丁幾 | |
| (蘆薈沒藥丁幾) | 苦味丁幾 | ホーメ氏苦味丁幾 | アルニカ丁幾 | 芳香丁幾 | 阿魏丁幾 | |
| 幾 | 亞的兒製阿魏丁幾 | 橙皮丁幾 | 新鮮橙皮丁幾 | バルサム丁幾 | 荳荳丁幾 | 安息 |

香丁幾 複方安息香丁幾 ビニッコ丁幾 泥薑丁幾 コロンボ丁幾 複方龍腦丁幾
 亞的兒製龍腦丁幾 荳蔻丁幾 亞的兒製荳蔻丁幾 胡椒丁幾 益智丁幾 複方益智
 丁幾 カスカリルラ丁幾 亞的兒製カスカトル丁幾 カナダ産カスカトル丁幾 シピリア産
 カストル丁幾 阿仙藥丁幾 褐色機那丁幾 赤色機那丁幾 複方機那丁幾 キノイシ
 子丁幾 キラタ丁幾 複方コロロホルム丁幾 黃色機那丁幾 桂皮丁幾 コーシ子
 ール丁幾 コルシクム丁幾 コロシント丁幾 失鳩答丁幾 サフラン丁幾 墨澄茄丁
 幾(キユベバ丁幾) 榲桲丁幾 石鹼丁幾 複方アルモラシヤ丁幾 シキタリス丁幾
 亞的兒製シキタリス丁幾 續隨子丁幾 醋酸鐵丁幾 鹽化鐵丁幾 亞的兒製鹽化鐵丁幾
 林檎酸鐵丁幾 沒食子丁幾 ゲンチアナ丁幾 複方ゲンチアナ丁幾 癩瘡木丁幾
 揮發性癩瘡木丁幾(砒砂加癩瘡木丁幾) 綠黎藍丁幾 ヘレニー丁幾 忽布丁幾 ヒ
 オス丁幾 ヨシウム丁幾 複方ヨシウム丁幾 脫色ヨシウム丁幾 吐根丁幾 ヤーラ
 ツバ丁幾 複方ヤーラツバ丁幾 キノ丁幾 ラタニア丁幾 ラリシス丁幾 複方ラー
 ヘンデル丁幾(ラーヘンデル丁幾) 檸檬丁幾 ロベリア丁幾 亞的兒製ロベリア丁幾
 リユプリニア丁幾 肉豆蔻丁幾 亞的兒製肉豆蔻丁幾 麝香丁幾 沒藥丁幾 揮發鹽
 化鐵丁幾(ベスチユヘフ氏神經丁幾) 番木甞丁幾 阿片丁幾 安息香阿片丁幾 舍電華
 謨氏阿片丁幾 單阿片丁幾 脫臭阿片丁幾 砒砂精加阿片丁幾 地榆丁幾 複方松芽
 丁幾 ビレトリユム丁幾 括失亞丁幾 規尼涅丁幾 砒砂精加規尼涅丁幾 ヤーラツ
 パ脂丁幾 大黃丁幾 水製大黃丁幾 酒製大黃丁幾 大黃加旃那丁幾 サヒナ丁幾
 麒麟血丁幾 海葱丁幾 加里加海葱丁幾 麥奴丁幾 遠志丁幾 旃那丁幾 セル
 ペンタリア丁幾 複方スピランチヌス丁幾 蔓陀羅華丁幾 亞的兒製馬錢子丁幾 琥珀丁

十四年大藏省甲第
七十五號布達案

十七年大藏省第一
號達ニ依リ消滅

幾 シュンブル丁幾 チュヤ丁幾 トリユタナ丁幾 トキシコデンドリ丁幾 續草丁
 幾 亞的兒製續草丁幾 砒砂精加續草丁幾 プアニルラ丁幾 生姜丁幾 強生姜丁幾
 亞的兒製荳蔻丁幾 亞的兒製失鳩答丁幾 亞的兒製非沃斯丁幾 亞的兒製龍腦丁幾
 白黎藍丁幾
 酒劑
 蘆薈酒 苦味酒 芳香酒 橙皮酒 龍腦酒 機那酒 コロシクム酒 コロシクム
 根酒 コロシクム實酒 麥奴酒 鐵酒 枸橼酸鐵酒(枸橼酸アンモニア鐵酒) 吐根酒
 ペプシ子酒 大黃酒 海葱酒 アンチモニ酒 煙草酒 酒石酸加里鐵酒
 ○乙第十三號 (二月二十八日 輪廓附) 府 縣
 明治十年六月當省乙第貳拾壹號ヲ以テ相違候紙幣交換規則第九條末項左ノ通改正候條此旨相違
 候事
 數位勘合印其他ノ印章存在ストモ大藏卿印中字體ヲ不認モノ
 ○乙第十四號 (三月一日 輪廓附) 府 縣
 諸縣預ケ金ノ内電信渡取扱順序別冊ノ通相定候條此旨相違候事
 但四月一日ヨリ施行候儀ト可相心得候事
 (別冊)
 預ケ金電信渡取扱順序
 第一條 電信ヲ以渡金ヲナスハ非常或ハ止ムヲ得サルノ事故アルニ非サレハ決シテ施行スヘカラ
 ス
 第二條 此電信渡ハ預ケ金アル縣エハ勿論各省局出張所或ハ他ノ府縣其他一時出張ノ官員等ヘモ
 明治十二年二月三月 大藏省 達 七第十三號 七第十四號 七二五

此渡金ヲナスコアルヘシ

第三條 此渡金ヲナスキハ出納局長ヨリ第一圖 預ケ金アル縣へ渡スノ文例ニヨリ電信ヲ以其渡金ヲナス所ノ縣令へ通達スヘシ

第四條 此電信ハ必ス暗號ヲ用ユルヲ例トス故ニ此暗號ハ令及書記官ノ外佗見ヲ禁スルモノトス但暗號ハ出納局長ヨリ通達スヘシ

第五條 出納局於テ右電信ヲ以通達ヲ爲シ尙其後成規ノ預ケ金仕拂切符ヲ製シ第二圖 縣へ渡セシハ甲號其ノ如ク裏面へ渡シ濟ノ旨ヲ記載シ渡シ嚮へ交付スヘシ

第六條 縣ニ於テ右ノ電信ヲ得ハ之ニ據リ通常本拂ノ手續ヲ以渡シ金ヲナシ而シテ第四圖 預ケ金アル縣へ渡セシハ甲號ノ如ク電信ヲ以テ渡濟ノ旨出納局へ報告スヘシ此電信渡ハ預ケ金アル縣ハ追テ仕拂切符到着マテ電信ヲ證據ト爲スヘシ其渡嚮各省局出張所或ハ他ノ府縣其他一時出張ノ官員等ナレハ渡金ノ際第三圖ノ如ク假證書ヲ取出スヘシ此假證書ハ各省局出張所或ハ他ノ府縣ナレハ其長官其他一時出張ノ官員等ナレハ受取金ヲナス當人ノ證書ニ限ルヘシ

但暗號ニ不審アルキハ暗號電信ヲ以明瞭マテ何ケ度ニテモ通問スヘシ

第八條 右ノ渡シ金ヲ爲シタル後成規ノ預ケ金仕拂切符到着スレハ彙ノ電信ニ照查シ成規ノ受取證書ヲ製シ出納局へ差出スヘシ其渡シ嚮各省局出張所或ハ他ノ府縣其他一時出張官員等ナレハ出納局仕拂切符引換ニ假證書ヲ返却スヘシ

第一圖

アツケキンノウチヨリソノケン。ナニヒトシテナンマンエン。ワタス。

乙

アツケキンノウチヨリ、ナンマンエン。ナニシヨウ或ハ何局出張エ。ワタスヘシ

第二圖

預ケ金仕拂切符裏面

表書之金何程ハ何月何日電信ヲ以相渡候分ニ有之候也

年月日 出納局長氏名印

渡嚮宛

乙

表書之金何程ハ何月何日電信ヲ以相渡候分ニ付此仕拂切符ハ速ニ何縣ニ差出シ彙ニ差入之證書ト引換可被申候也

年月日 出納局長氏名印

渡嚮宛

出納局長氏名

出納局長氏名

預ケ金仕拂切符裏面

第三圖

假證

一金何程 右金正ニ受取候也

年月日

縣令氏名宛

追而出納局仕拂切符ト引換可申分

受取人印

第四圖

甲 ナンニテ。テンタツノ。ナンマンエン。ホンジツ。アツカリキンヨリ。ハライダス
出納局長宛 縣令

乙 ナンニテ。デンタツノ。ナンマンエン。ホンジツ。アツカリキンヨリ。ワタシタリ
出納局長宛 縣令 府 縣

○乙第十五號 (三月五日 輪傳附)

經費豫算確定後實際仕拂ノ都合ニ據リ各大科目ノ金額彼是流用ノ儀伺出候節ハ爾後別紙書式ニ做
ト任譯書調成可差出此旨相達候事

(別紙)

何年度

額外常費 臨時費 大科目流用任譯書

本支廳 官國幣社 款

仕拂見込高金

一金

何費不足

但何々之事由ニテ不足相生申候

但何費ヨリ流用

十四年大政官第三
十三號達ニ依リ消

外 金

豫 算 高

仕拂見込高金

一金

何費不足

内 金

何費ヨリ流用

但事由前ニ同シ

外 金

豫 算 高

豫算高金

一金

何費殘額

但何々之事由ニテ殘額相生申候

外 金

但何費エ流用

豫算高金

一金

仕拂見込高

但豫算確定後費額組換及流用或ハ増減等コレアル分ハ其金員内書ニ區分掲出スヘシ以下做之

一金	何費殘額
金	何費エ流用
内金	同
金	全ク殘
但事由前ニ同シ	
外	仕拂見込高
右之通	
年號何月	廳 名

○乙第十六號 (三月十三日 輪廓附)

租稅其他ノ上納金出納局及出張所へ納附スルキハ必ス納附申牒書ヲ添へ年度納譯納嚮主廳名等ヲ判明可致儀ハ九年七月太政官七拾六號公達改正金錢受渡順序ノ通ニ有之候處在々納附申牒書ヲ添へス亦ハ年度脱漏或ハ納譯判然不致分モ有之候條猶亦左款ノ通相心得納附申牒書へ判然記載候樣可致此旨相達候事

一凡テ假納金ハ必ス其府縣長官若クハ代理書記官ヨリ出納局長亦ハ同局出張所書記官へ宛タル納附申牒書ヲ添付ス可シ便宜ヲ以テ現金ハ爲換方等ヨリ直ニ納附セシムルモ申牒書ハ必ス送附スルヲ例トス

一毎年度歳入豫算中ノ金額ヲ納附スルキハ申牒書ニ必ス其年度暨ヒ納譯納嚮主廳名(納嚮主廳名ヨリ大藏卿へ直接納入スル金額ニ非ス即チ諸稅納ノ租稅局長ヲ經テ貸金返納ノ)ヲ判然記載ス可國債局長ヲ經テ賸餘金ノ司法省ヲ經ルカ如キ其間接ノ納主任ヲ謂フモノナリ)

十七年大藏省第四十一號達十九年附令第三號ニ依リ消滅

十四年大藏省七第十號達ヲ以テ更正

七第三十四號達ヲ以テ文中改正

一歳入外別途ニ上納(亦ハ返納)ス可キ金額亦ハ臨時爲換金ノ納入等ハ申牒書ニ歳入外別途納亦ハ臨時爲換金等ノ明文ヲ掲ケ猶納譯納嚮主廳名ヲ記載ス可シ

一既ニ假納濟ノ金額ニ年度別(亦ハ歳入)納譯等誤謬アルヲ發見セルキハ曩ニ納附セシ場所ニ拘ハラズ總テ出納局長へ宛其段通報ス可シ

但誤謬ヲ通報セシキ出納局ニ於テハ簿記ヲ更ムルマテニテ假納證書ヲ更メサルカ故曩ニ交附セシ假納證書ヲ以テ更正ノ年度へ納入スルモ妨ケナシトス

○乙第十七號 (三月十四日 輪廓附)

明治十一年十二月乙第七拾貳號ヲ以テ相達候國稅金領收順序附錄別紙ノ通相定候條此旨相達候事

國稅金領收順序附錄

一納稅期限ニ至リ若シ稅金皆納シ能ハサル者アルトキハ別紙納稅切符第一雜形ニ示セル如ク戶長ニ於テ其納金額ノ傍エ現ニ上納ス可キ金額ヲ内書ニシ未納金額ヲ外書ニシ成規ノ順序ヲ經テ郡區役所エ上納ス可シ別紙納稅切符第一雜形トハ國稅金領收順 郡區長ハ之ヲ得テ先ツ其未納金額ヲ別紙第四雜形ノ通未納額帳ニ登記シ之ト別紙第一雜形甲切符ノ右側ニ(イ)印ノ如ク割印ヲ捺シ而シテ其現納金額ヲ納額元帳ニ記入シ其納稅切符ノ納金額ニ對シ領收ノ證印ヲ捺シ甲切符ハ戶長ニ附與シ乙切符ハ收稅委員ニ送付ス可シ而シテ更ニ別紙第二雜形ノ通未納稅甲乙納切符ヲ製シ式ノ如ク金員ヲ記入シ之ヲ戶長ニ附與シ成規ノ順序ヲ以テ上納セシム可シ

一納稅期限後三十日ニ至テ尙ホ皆納シ能ハス内納ヲ爲ス者アルキハ別紙第二雜形ニ示セル如ク戶

明治十二年三月 大藏省 達 七第十七號 (國稅金領收順序附錄)

長ニ於テ其未納金額ノ傍ヘ現ニ上納ス可キ金額ヲ内書ニシ不納金額ヲ外書ニシ成規ノ順序ヲ經テ郡區役所エ上納シ且其不納ニ係ル稅目住所姓名事由ヲ詳記シテ郡區長ニ告知ス可シ郡區長ハ之ヲ得テ先ツ其不納金額ヲ別紙第五雜形ノ通不納額帳ニ登記シ之レト別紙第二雜形甲切符ノ右側ニ「ロ」印ノ如ク割印ヲ捺シ而シテ其現納金額ヲ未納額帳ニ記入シ其納稅切符ノ納金額ニ對シ領收ノ證印ヲ捺シ甲切符ハ戶長ニ附與シ乙切符ハ收稅委員ニ送附ス可シ

一其不納者ノ處分ヲ爲シテ徵收シタル稅金ハ戶長ニ於テ別紙第三雜形ノ通り切符ヲ作り其金額ヲ預リ人エ相預ケ預リノ證印ヲ受ケテ郡區役所へ上納ス可シ郡區長ハ之ヲ得テ其金額ヲ不納額帳ニ記入シテ領收證ヲ交付シ切符ハ收稅委員ニ送付スヘシ

第四雜形

表	明治何年
紙	何稅未納額帳
	何區郡

此帳簿ハ一郡區限ニ編製シ一村町毎ニ見出ヲ付ス

納稅期限後三十日間ニ未納額ヲ納ムルキハ金員ノ傍エ何月何日納ト記入ス内納スルキハ之ヲ内書ニシ其金員ノ下ヘ何月何日納ト記入シ殘ル員額ヲ傍ヘ掲ケ三十日ニ至テ納メサルモノハ不納ト記入ス

何郡

七第三十號達ヲ以テ更正

表	明治何年
紙	何稅不納額帳
	何區郡

未納稅切符ト割印	納稅切符ト割印
地稅第何期納ノ内未納	
又ハ何稅何月何日納	
一金何程	何之誰分
內	
金何程	何月何日納
若殘金不納ナレハ	
殘金何程	不納
不納額帳ニ記入	
第五雜形	

此帳簿ハ未納額帳ト體裁ヲ同シ各稅納期後三十日ヲ過キ全ク不納金額ヲ揭クルモノナリ
公賣處分等ニテ不納金額ヲ徵收セシトキハ金員ノ傍ヘ何月何日處分濟收入ト記入ス
若シ處分濟ノ上不納金額ニ不足ヲ生セシキハ内書ニ徵收ノ員額ヲ揭ケ其下ヘ何月何日處分濟收入
ト記入シ差引不足ノ金員ヲ傍ヘ揭ケ

一金何程

但地稅第何期納ノ内何々ノ事故ニテ不納
亦ハ何稅何月何日納

何月何日處分濟收入

何郡

何之誰分

何之誰分

(印章竝ニ△印ハ未)

<p>第壹號雛形</p> <p>△印</p> <p>郡役</p> <p>所 郡</p> <p>印 役</p> <p>第何期納何年何月何日限</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>右可相納候也</p>		<p>第何期納何年何月何日限</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>右現金何月何日稅金預人何之誰ニ相預ケ則上納候也</p> <p>何郡何村</p> <p>何之誰</p> <p>○</p>	
<p>第何期納何年何月何日限</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>右可相納候也</p>		<p>第何期納何年何月何日限</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>右現金何月何日稅金預人何之誰ニ相預ケ則上納候也</p> <p>何郡何村</p> <p>何之誰</p> <p>○</p>	

乙第十七號逓ヲ以
更正

<p>第貳號雛形</p> <p>△印</p> <p>郡役</p> <p>所 郡</p> <p>印 役</p> <p>第何期納何年何月何日限</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>右可相納候也</p>		<p>第何期納何年何月何日限</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>右現金何月何日稅金預人何之誰ニ相預ケ則上納候也</p> <p>何郡何村</p> <p>何之誰</p> <p>○</p>	
<p>第何期納何年何月何日限</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>右可相納候也</p>		<p>第何期納何年何月何日限</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>右現金何月何日稅金預人何之誰ニ相預ケ則上納候也</p> <p>何郡何村</p> <p>何之誰</p> <p>○</p>	

十四年大蔵省第三十三號達ニ依リ消滅

十三年大蔵省第七十四號達ニ依リ消滅

十六年大蔵省第四十五號達ニ依リ消滅

明治十二年三月四月 大蔵省 達 七第十八號 七第十九號 七第二十號 七第二十一號

七三六

○乙第十八號 (三月二十四日)

歳入出金現收支期限割合書調製年々三月限出納局長へ差出候様客年當省乙第六拾八號ヲ以テ相達置候處其後國稅領收順序更定候ニ付租稅金收納ノ割合書ハ不及差出候此旨相達候事
但稅外納立支出金割合書ハ同號達ノ通可相心得事

府 縣

○乙第十九號 (三月二十七日 輪廓附 內務卿專署)

大蔵省收稅委員ニ於テ領收致候稅金遞送ノ節途中又ハ宿泊中巡查ヲシテ護衛ノ儀收稅委員ヨリ可及協議候ニ付都テ不都合無之様可取計此旨相達候事
但護衛人員ノ儀ハ其都度收稅委員ヨリ可及通知候事

府 縣

○乙第二十號 (四月二日 輪廓附)

明治八年三月當省乙第三拾號ヲ以相達候流通不便金銀貨幣交換手續書第七條算則比例ノ内第二節左ノ通改正候條此旨相達候事
一 磨損或ハ焚燒 貿易壹圓銀壹枚
此量七匁壹分七厘六毛 但定量ヨリ減却セサルモノト見做ス
實地ニ於テハ多少減量アルヘシ

府 縣

三厘五毛八八 千分ノ五再鑄費用

殘量七匁壹分四厘〇壹貳

此通貨九拾九錢五厘 但貿易壹圓銀定量七匁壹分七厘

六毛ヲ以テ殘量ヲ除ス 但増量貿易銀モ亦此例ニ準ス且其殘量ハ貿易壹圓銀ノ定量ヲ以テ除スヘシ

○乙第二十一號 (四月五日)

府 縣

借區明細表差出方ノ儀明治八年三月當省乙第七拾壹號ヲ以テ相達置候處本年以降ノ分ハ差出ニ不及候條此旨相達候事

○乙第二十二號 (四月七日 輪廓附)

府 縣

英佛郵船へ減價乘込方ノ儀本年乙第貳號ヲ以テ相達置候處今般右乘込手續書更ニ別冊ノ通相定候條此旨相達候事

(別冊)

英佛郵船へ減價乘込手續

第一條 佛郵船會社ノ名ハ「メッサセリ」マルチームト云ヒ英郵船會社ノ名ハ「ペニンシュラ」メン

ド、ヨリエントナル、スチームナビゲーション、コンパニート云フ

第二條 佛郵船會社ト減價乘込ヲ約定セシ地方ハ左ノ如シ

横濱	香港	港	パタピヤ	柴	根	新嘉坡
ガルカッタ	マドラス	セイロン	ボンジセリ	ア	デ	ン
スエズ	イスマリヤ	ポルトサイド	チーブルス	マル	セル	ル
其他						

右地方ノ所在ハ附録略圖ニ就テ参照ス可シ

第二條 英郵船會社ト減價乘込ヲ約定セシ地方ハ左ノ如シ

明治十二年四月 大蔵省 達 七第二十二號 (英佛郵船へ減價乘込手續)

七三七

参照卷

横 濱	セーロン	メルボルン	シドニー	アリンデシ
ウヘニス	ソウサンプトン			

右同上

第四條 英郵船ニシテ第三條約定外ノ寄泊ス可キ地方ハ左ノ如シ

香 港	新 嘉 坡	ヘ ナ ン	カルカッタ	マ ド ラ ス
ボンベール	ス エ ズ	アレキサンドリヤ	マ ル タ	ジアララタ
ア ン コ ナ	其他			

右同上

第五條 減價ニテ乗込ム可キ者ハ博覽會ノ公用ニ關スル者及ヒ一般ノ公用ニ屬スル者ニシテ即我カ政府ノ官員政府所雇ノ内外國人及ヒ官費留學生ニ限ル可シ

但官費留學生ハ一般ノ公用ニ準スルモノトス

第六條 減價ニテ乗込ム可キ者アラハ本人ノ長官ヨリ左ノ三項ヲ明記シテ大藏省ニ照會ス可シ

第一 公用ノ大旨

第二 本人ノ姓名役名

但姓名ハ讀違ヒ書違ヒノ恐レアルニ因リ本邦人名ハ假名外國人名ハ原字ヲ附スヘシ

十四年大政官第二十六號達ヲ以テ事務ヲ農商務省ニ屬ス以下概之

第三 何地迄往返又ハ何地迄往ノ片道又ハ何地ヨリ返ノ片道

第七條 大藏省ハ右ノ照會ニ據リ其往返ノ者ニハ一名ニ付切手二葉ヲ交付シ片道ノ者ニハ一葉ヲ交付ス可シ

第八條 往返トモ乗込ム可キ本人ハ横濱ニ在ル英佛郵船會社ニテ乗船手形買取ノ節豫テ大藏省ヨリ受取リタル切手二葉ヲ同會社ニ差出ス可シ同會社ニ於テハ右二葉ノ内一葉ヲ留置キ一葉ニ加筆檢印シテ返付ス可キ就キ本人ハ此切手ヲ所持シテ其郵船ニ乗込ミ歸朝ノ期ニ至ラハ之ヲ其乗込ム可キ地方ニ在ル同會社ノ本店又ハ支店ニ差出ス可シ

但代人ヲシテ乗船手形ヲ買取リ及ヒ切手ヲ差出サシムルハ固ヨリ妨ケナシトス以下第九條第十條モ此例ニ同シ

第九條 往ノ片道ノ乗込ム可キ本人ハ横濱ニ在ル郵船會社ニテ乗船手形買取ノ節往ノ片道ナル旨ヲ述ヘ切手ヲ差出ス可シ

第十條 返ノ片道ノ乗込ム可キ本人ハ出立ノ前横濱ニ在ル郵船會社ニ赴キ返ノ片道ナル旨ヲ述ヘ切手ヲ差出ス可シ同會社ニ於テハ之ニ加筆檢印シテ返付ス可キ就キ本人ハ此切手ヲ所持シテ他船ニ乗込ミ歸朝ノ期ニ至ラハ之ヲ其乗込ム可キ地方ニ在ル同會社ノ本店又ハ支店ニ差出ス可シ

第十一條 切手ハ其面ニ記載シタル箇條ノ外都テ流用ス可カラサルモノトス

第十二條 公用ノ都合假設ハ歸降馬耳塞ヨリ乗込ム切手ヲ所持セシニ變シテ「カルカッタ」ヨリ乗込ミ或ハ全ク切手ヲ有セスシテ乗込等ニ因リテハ第二條又ハ第三條中ノ甲地ヨリ乙地ヘ臨時ニ乗込ムコトヲ得ヘシ

第十三條 第十二條ノ場合ニ於テ英郵船ハ第三條ニ掲ケタル地方ヨリ第四條ニ掲ケタル地方ニ乗込ムコトヲ得可カラズ

第十四條 第十二條ノ場合ニ於テ乗込ムニハ其乗込ム可キ地方ニ在ル本店又ハ支店ニ赴キ我カ政府ノ公用ナル旨ヲ述ヘ通常ノ船賃ヲ拂ヒ第十五條ニ掲ケタル受取書ヲ請ヒ受ク可シ或ハ所持シタル切手ヲ紛失セン時モ亦此例ニ倣フ可シ

第十五條 船賃受取書ニハ必左ノ四項ノ明記アラント要ス此四項ノ内一項ヲ缺クモ受取書ノ効無キモノトス

第一 乗込人ノ姓名

第二 拂ヒタル船賃ノ額及ヒ等級

第三 船賃受取人ノ姓名

第四 年月日

第十六條 船賃受取書ハ本人歸朝ノ上其長官ニ差出ス可シ而シテ長官ハ此受取書ニ左ノ三項ヲ證明シタル書面ヲ添ヘ大藏省ニ照會ス可シ

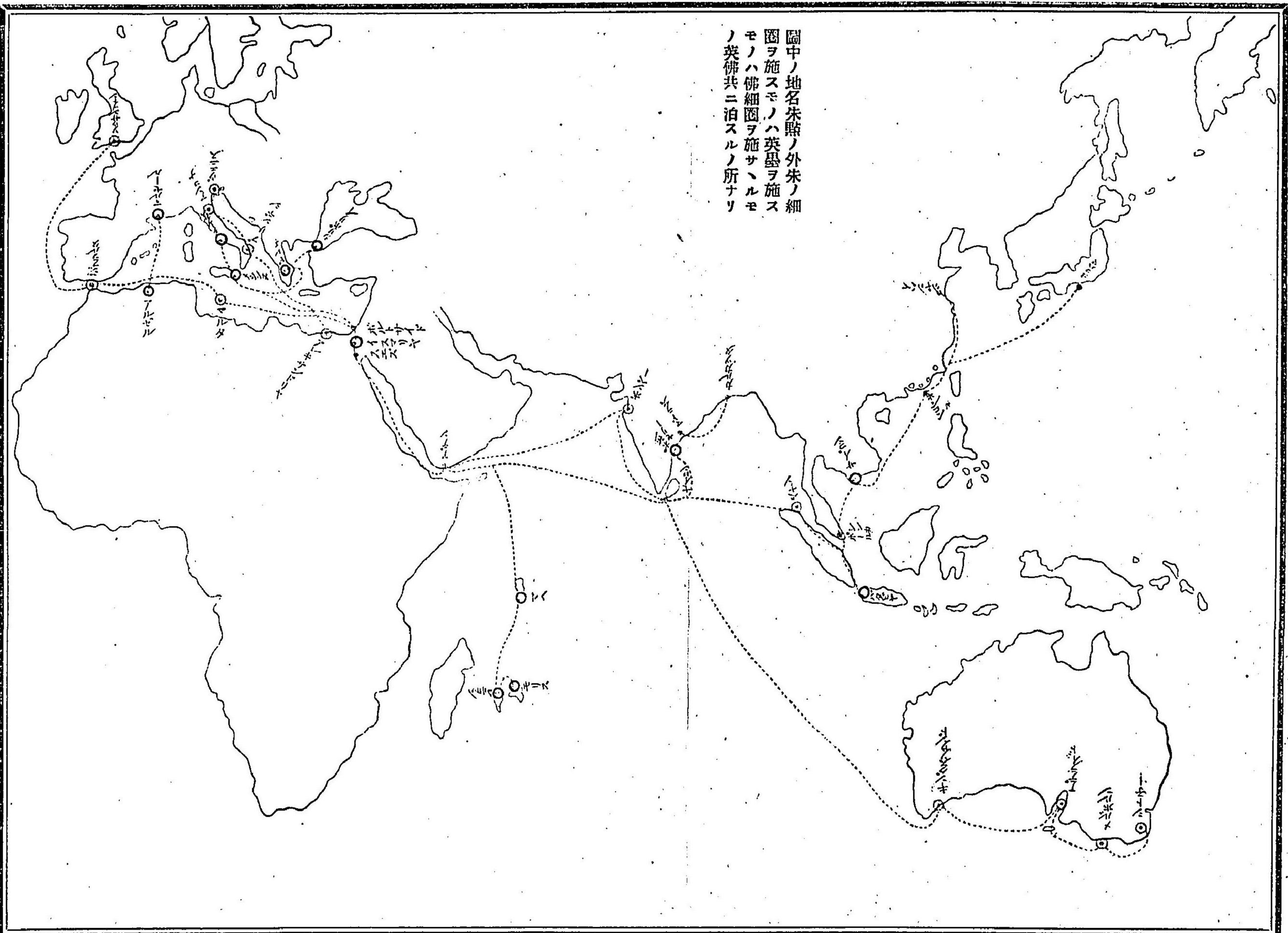
第一 公用ノ大旨

第二 本人ノ姓名役名

第三 何用ニテ何地ヨリ何地迄乗込ミシ旨

第十七條 大藏省ハ右ノ受取書等ニ據リ横濱ニ在ル郵船會社ニ照會シ其減ス可キ金額ヲ取戻シ之ヲ本人ノ長官ニ返付ス可シ

(別紙)



圖中ノ地名朱點ノ外朱ノ細圈ヲ施スモノハ英島ヲ施スモノハ佛細圈ヲ施サハルモノハ英佛共ニ泊スルノ所ナリ

〔參照〕○明治二十二年四月十二日農務省報告

今般佛英獨各汽船會社ト取回ノ商議ヲ經且ツ外務省ト協議ノ末該會社汽船ニ乘組ミ海外渡航ノ官吏若クハ官費留學生等
ヘ當省ヨリ交付シ來レル減價乗込切符ヲ廢止シ自今右ノ渡航者ハ會社ニ至リ乘船切符ヲ買取ル節其携帶スル海外旅券ヲ
示シテ官吏若クハ官費留學生タルヲ證スレハ會社ハ旅券面ノ官名ニ憑據シ從前ノ通り減價スルト爲シ又此際米汽船會
社(西東洋汽船會社及太平洋汽船會社(橫濱代理店)ノ請求ヲ容レ佛英獨各社ノ例ニ準シ同社汽船ニ乘組ム前記ノ渡航者其
携帶スル旅券ヲ示シ身分ヲ證スルハ普通公用タルト博覽會用タルト問ハス種派桑港間通常ノ船費ヨリ二割ヲ減スル
ノ約ヲ定メ共ニ五月一日ヨリ施行スルト爲セリ
右報告ス

十六年大藏省第三十八號達參看

○乙第二十二號 (四月十九日 輪廓附)

府 縣

府縣廳爲換方給料及直取扱費用ノ儀ニ付テハ當省七年六月乙第六拾貳號八年三月乙第三拾八號達ノ趣
モ有之候處客歲十月乙第七拾貳號達ノ通國稅領收順序施行相成候上ハ是迄取扱ノ金錢受拂並預ケ
金爲替金高等隨テ減少候儀ニ付國稅領收順序實施稅金預所開設ノ翌月ヨリ左ノ通改正可致此旨相
達候事

但從前爲換方ヘ下渡有之命令書第十六條改正ノ上更ニ下渡其旨可相届出事

一爲換方給料ハ一ヶ月年五百圓ノ割ヲ以テ從前ノ通定額常費ヨリ支給可致事

一府縣廳ニ於テ直取扱ニ係ル一切ノ費用ハ前同斷五百圓ヲ目途トシ該額ヨリ超過不相成候事

○乙第二十四號 (四月二十二日 輪廓附)

府 縣

地方税金爲換方命令書ノ儀ハ十年第五拾號公達命令書案ニ照準シ施行ノ上可届出候此旨相達候事

○乙第二十五號 (四月二十六日 輪廓附)

府 縣

明治八年十一月乙第百五拾六號ヲ以テ相達候預ケ金出納規則別冊ノ通改正候條此旨相達候事

但國稅金領收順序未改正ノ縣々ハ從前ノ通可相心得候事

十三年大藏省第十七號達參看
改正

明治二十二年四月 大藏省 達 乙第二十三號 乙第二十四號 乙第二十五號

(別冊)

諸縣預ケ金出納順序

第一條 此預ケ金ハ收税ノ都合ニヨリ收税委員ヲ以テ預ケ入ルヘシ
 第二條 此金預ケ入ル時ハ委員ヨリ第一圖ノ書面ヲ添ヘ引渡スヘシ然ルキハ此委員ヘ對シ第二圖ノ預リ證書ヲ差出スヘシ
 第三條 此預リ證書ハ出納局ニテ國税金ノ内ヘ領收スルキハ第三圖ノ如ク裏書ヲ爲シ其預ヘキ縣ヘ遞送スヘシ
 第四條 此裏書證書其縣ニ到著スルキハ更ニ第四圖ノ預リ證書ヲ製シ出納局ヘ遞送スヘシ最此預リ證書ハ裏書證書到著即日休暇日或ハ退廳ノ後ナレハ其翌日必差立ヘシ
 第五條 此預ケ金アル縣々ハ常費臨時費ヲ論セス大概此預ケ金ノ内ヨリ交付スヘシ又大藏省ノ都合ニヨリ各廳ノ費用ニモ任用スルコアルヘシ
 第六條 此預ケ金ノ任拂ハ出納局長ヨリ證明アル第五圖ノ如キ任拂切符ヲ交付スヘシ故ニ此切符引換ニアラサレハ些少ノ金員タリモ決テ任用スヘカラス最電信渡ノ金員ハ其規則ニヨルヘシ
 第七條 此預ケ金ハ大藏省ノ都合ニヨリ預高悉皆又ハ其内何程款ヲ臨時還納セシムヘシ然ルキハ出納局長ヨリ第六圖ノ如キ書面ヲ以テ通達スヘシ
 第八條 此預ケ金ハ既ニ交付爲シタル金員ト混淆セサル様別ニ帳簿ヲ設ケ出納ヲナスヘシ最現金ノ保護等ハ舊規則明治七年五月大藏省第四十號達ニ附屬ノ規則ヲ云第十四條ノ通心得ヘシ又爲換方等ヘ預ルトキハ明治七年十月乙第十一號達ノ通心得ヘシ
 第九條 此預ケ金決算順序ハ明治十年五月番外達ニ據ルヘシ最以來ハ毎年兩度ノ決算ヲ廢シ六月ニノミ決算ヲ爲スト心得ヘシ

第一圖 用紙通常野紙

記

一金何程

右者御預ケ金ノ見込ニ付假ニ及御引渡候條御預證書御差出可有之候本預ケノ儀ハ追テ出納局長ヨリ可申進管ニ候也

年 月 日

縣 令 宛

收税委員官氏名印

第二圖 用紙西ノ内八ツ切

一金何程

右金相預リ候也

年 月 日

縣 令 氏 名 印

收 税 委 員 宛

第三圖 即二圖ノ裏面ナリ

表書之金何程更ニ當局ヨリ及御

預候也

年 月 日

出 納 局 長 氏 名 印

縣 令 宛

六月十日番外達參

第四圖 用紙梓野紙

證
一金何程
右金相預リ候也
年月日
縣令氏名印
出納局長宛

第五圖 用紙出納局仕拂切符

證書番
渡
溜
一金何程
但何々
右ニ書載之金高此證書引換ニ可相渡候也
年月日
出納局長氏名印
縣令宛

第六圖 用紙通常野紙

一金何程

右者御預ケ金ノ内前書之金高當地へ向ケ出張所等へ送送ヲ要スルハ其地出張所 御還納可有之仕拂切符ハ著金ノ上御同シ可申候最右金遞送方ハ便宜ヲ以御差送可有之候也

年月日

縣令宛

出納局長氏名印

七第三十六號達
第三十八號達
第四號達
大藏省
達ヲ以テ廢止

七第四十三號達
第十三號達
第二十七號達
大藏省

十四年大藏省第六
十四號達ニ依リ消
滅

○乙第二十六號 (五月七日 輪附)

府 縣
稅外收入及ヒ諸返納金其他經費殘餘ノ還納等大藏省へ上納相成候分ハ國稅金領收順序ニ準擬納方
可取計此旨相達候事

但勘定組ノ儀ハ從前ノ通可相心得事

○乙第二十七號 (五月二十九日)

府 縣
諸收入金勘定帳ニ對シ決算證及檢査證交付ノ節豫テ出納局ヨリ受取候天號證速ニ返還可致ノ處免
角延滞ノ向有之不都合ニ付以來決算證及檢査證到着ノ日ヨリ三日ヲ限り其地差立檢査局へ返還可
致此旨相達候事

但東京府ハ此限ニアラス

○乙第二十八號 (六月七日)

府 縣
明治十年度所屬出納ノ儀本年九月ヲ以鎖閉候條納拂金員有之向ハ同月二十日迄ニ當地著ノ積ヲ以
無遺漏取調可申立此旨相達候事

但沖繩縣ハ此限ニアラス

○乙第二十九號 (六月十八日 輪附 內務卿達)

府 縣
明治十一年七月乙第三拾八號達行文同上月數ノ食費ノ下(及ヒ日給金壹錢若シ備工錢ニテ食
ルハ日給金ヲ不給食費ヲ引去リ)ノ數字ヲ挿入シ但書左ノ通り改正増補候條此旨相達候
殘餘並錢ニ不充ハ其儘之ヲ給ス)ノ數字ヲ挿入シ但書左ノ通り改正増補候條此旨相達候
事

但役限二等以下殊藝ノ者ハ其備工錢ヨリ上中下級ノ區分ヲ以テ日給ヲ給與シ殘餘ノ分ハ他ノ備
工錢へ加入スヘシ且本文日給金給與方ノ儀ハ日給之レヲ給與スルモ又一ヶ月乃至一ヶ年或ハ滿
期放免ノ節ニ至リ束テ給與スルモ該地方ノ便宜ト役因ノ情願ニ任ス尤終身懲役ノ囚ニハ滿期

明治十二年五月六月 大藏省 達 七第二十六號 七第二十七號 七第二十八號 七第二十九號

雜入及ヒ雜部ノ項ヲ此大科目ニ換ヘ總テ内譯細目ヲモ記載スヘシ

但從來勘定帳ニ掲出セシ科目ハ本文ノ通り更正シタルモノト心得ヘシ

一 森林ニ屬スル收入豫算内務省直轄ハ府縣ヨリ申牒スルノ例規ヲ改メ總テ内務省ニ於テ調製スル
トス故ニ稅外收入豫算内譯簿ノ内之カ員額ハ編入スルニ及ハス尤實際ノ收額ハ本年五月當省乙
第二十六號達ノ順序ニ因リ當省ヘ納付シ勘定仕上ヲナスヘシ

官有物ニ屬スル收入及ヒ雜入科目

(大科目)

一 森林收入

但該目ハ官有森林ニ屬スル收入ヲ類聚スル科目ニシテ則 森林地拂代 立木竹枯木損木楡ノ
實漆ノ實松茸松露晚箭竹ノ皮落葉下草等ノ拂代及ヒ刈取伐透シ等ヲ請負ヒ年々或ハ年中納
額定リタル料金等ノ種類ヲ分ツテ細目トス

一 官有物拂下代

但該目ハ森林ニ屬セサル官有物品ノ拂代ヲ類聚スル科目ニシテ則 枯木損木障得木鳥魚水草
蓮根等拂代 建物船艦器械書籍藥種不用品等拂代ノ種類ヲ分ツテ細目トス

一 官有物貸下料

但該目ハ森林ニ屬セサル官有物品ノ貸下料ヲ類聚スル科目ニシテ則 田畑宅地河岸場温泉場
山野等種々ノ需用ノ爲メ貸下ケ年々或ハ年中納額定リタル料金ノ類官倉官庫船艦器械等ノ
貸下料並ニ藏敷料外國人官倉官庫拜借料等ノ種類ヲ分テ細目トス

一 開港場官地貸下料

但該目ハ居留地外國人ヘノ貸地料ヲ類聚スル科目ニシテ則 外國人ヘノ貸地料ヲ以テ細目
トス

一 雜入

但該目ハ前項大科目ニ當ラサル收入ヲ類聚スル科目ニシテ則 罰俸料追徵金盜伐木等ノ追
他紛失盜難等ノ金具アリテ追徵ヒシ分ハ其損失ヲ受ケシ元額ヘ償戻スヘシト雖 正 決算後戻入
其年度ノ勘定帳算後カ又ハ追徵ヲ以テ補填ヒシ後收入シシ分ハ此部ヘ編入ス
金相當年度ノ出納閉年度後追納額後ニ係ルモノ等ノ種類ヲ分テ細目トス

○ 乙第三十二號 (七月九日 輪廓附)

府 縣

明治十一年乙第七拾貳號ヲ以テ相達候稅金預リ所ノ儀大藏省爲替方ト相稱候條此旨相達候事

府 縣

○ 乙第三十三號 (八月二十一日 輪廓附 内務卿達)

府 縣

本年二月乙第拾貳號ヲ以テ酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ノ取扱方相達置候處右達書ニ掲載セル品
目外ノモノニシテ酒類ヲ和スト雖モ全ク藥性ヲ浸出スルニ止マルモノハ酒類稅則ノ限ニアラス其
種類ニ依リ製藥又ハ賣藥ノ免許ヲ可爲受儀ト可相心得此旨相達候事

但酒造營業人及酒類受賣營業人於テ酒精或ハ再餾酒精ヲ蒸餾シ又ハ販賣スル者ハ酒類稅則中燒
酎ノ明文ニ據リ課稅スヘシ

府 縣

○ 乙第三十四號 (九月四日 輪廓附)

府 縣

昨十一年乙第七拾貳號本年乙第拾號同月乙第拾七號同月乙第二拾號達書中別紙ノ廉々刪正
增補候條此旨相達候事

(別紙)

一 明治十一年乙第七拾貳號達國稅金領收順序中
第二項ヲ左ニ更正ス

明治十二年七月八月九月 大藏省 達 七第三十二號 七第三十三號 七第三十四號

十四年大藏省第二十五號達ニ依リ消
告ヲ以テ酒類稅則
廢止

十四年大藏省第二十五號達ニ依リ消
告ヲ以テ酒類稅則
廢止

十七號達參看十七年第七號布告ニ依リ消滅

七第四十四號達參看二十一年大藏省告示第四百八十八號ヲ以テ金祿公債證券保護手續廢止

十三年大藏省七第二十七號達ニ依リ消滅

民有地ニシテ公衆ノ爲メ用惡水路及ヒ溜池井溝等ノ興起ヲ許可候分ハ其敷地ニ係ル地租減除ノ儀委任候條事由ヲ具シ其時々可届出此旨相達候事 府 縣

○乙第四十二號 (十一月十三日 輪廓附 内務卿連署) 明治十一年九月九日内務大藏兩省布達金祿公債證券保護手續第二條及ヒ第三條中買上ニ關スル件ハ總テ本年十二月限り相廢止候條此段金祿公債證券相渡候者へ可及布達此旨相達候事 府 縣

○乙第四十三號 (十一月十五日) 諸收入金ニ對スル天號證書返還ノ節ハ一季節勘定帳ニ可屬分ヲ區別シ該證書ノ枚數並合金高ヲ記載セル添書ヲ以返還可致ノ處往々證書ノ送達ノ分有之右ハ以後書面相添検査局へ返還候様可致此旨相達候事 府 縣

○乙第四十四號 (十一月二十日 輪廓附) 本年乙第四拾貳號ヲ以金祿公債證券買上ノ儀本年十二月限相廢止候ニ付テハ右代金受取方及決算ノ期限左ノ通可相心得此旨相達候事 府 縣

一 本年十二月迄ニ買上方願出タル公債證券ノ代金ハ來ル十三年一月十日迄ニ府縣地發遞受取方申出ヘシ

一 右購收セシ公債證券ハ十三年二月十五日限り府縣地ヲ發遞國債局へ送付スヘシ若シ同日迄ニ發遞難致モノハ其事由ヲ申出ヘシ

一 右購收公債證券國債局へ到達ノ日ヨリ一週間ノ内ニ證書ヲ送付スヘシ該證書其地へ到達ノ日ヨリ五日間ニ結尾ノ勘定帳ヲ整備シ其地ヲ發遞國債局へ差出スヘシ

一 本年十一月十二兩月中買上願出タル公債證券ノ總額へ種類ヲ區分シ右翌月五日限り電信ヲ以テ國債局へ報告スヘシ

十五年大藏省第十七號達第十八號達ニ依リ消滅

○乙第四十五號 (十二月八日 輪廓附 地租改正事務局總裁連署) 府 縣 荒地帳明治十年十月十日地租開墾地録下半年取調帳同十一年二月二十日荒地起返屆同年四月廿日大差出方ノ儀雛形ヲ以テ追追相達置候趣モ有之候處右ハ何レモ郡區限ノ區分ヲ要シ候條總テ該區分ヲ内譯ニ取調差出候儀ト可相心得事

但改租初年ノ荒地帳及開墾録下半年取調帳既ニ進達済ノ分ハ本年十二月中迄ノ増減ヲ加除訂正シタル現額ヲ以更ニ郡區限ニ取調明治十三年一月三十一日迄ニ大藏省へ可差出事

荒地起返屆ノ儀翌年ニ至リ稅帳一同差出來リ候分以來期明ノ年三月三十日迄ニ可差出事 右相達候事 府 縣

○乙第四十六號 (十二月十九日 輪廓附) 今般當省中議案課ヲ廢シ更ニ書記議案ノ兩局ヲ置キ租稅局ノ上ニ列シ候條此旨相達候事 府 縣

○乙第四十七號 (十二月二十六日) 十一年度酒造検査費ノ儀ハ當省租稅局員派出ノ上協議ヲ遂ケ定額常費ヲ以テ難仕賄分ニ限り増費受取方申出租稅局ヨリ別途渡方取計候儀ニ付酒造検査費ニ充ツヘキ定額常費ノ不足ハ總テ該金額ヲ以テ填補可致答ノ處尙増費ノ儀申出候向モ有之候條本年度ノ儀ハ右等不都合無之様可取計此旨豫テ相達置候事 府 縣

○乙第四十八號 (十二月二十八日 輪廓附) 今般太政官第四拾六號ヲ以テ徵兵令改正公布相成候ニ付テハ徵兵入費定則別冊ノ通相定候條改正徵兵令施行ノ日ヨリ右ニ照準可取計候尤受取方ノ儀ハ其季節前概算ヲ以テ申請候儀ト可相心得此旨相達候事 (別冊)

十五年大藏省第八號達ヲ以テ廢止

徵兵入費定則

第一條 入營ノ節徵兵ニ附添戸長或ハ郡區書記等ノ旅費ハ地方長官適宜決定ノ旅費ヲ以テ官費支給スヘシ

第二條 徵兵ハ各自居住ノ町村ヨリ検査所及抽籤場等ヘ往復ノ旅費ハ官ヨリ之ヲ給セサルヘシ

第三條 前條徵兵各自ノ旅費ハ近方片道三里未滿ハ之ヲ不給三里以上六里未滿ハ日當ノ半數六里以上十一里未滿ハ一日ノ日當ヲ給ス若シ一泊セシムルハ三里以上一日ノ十里以外ノ端里數ハ一里以上六里未滿ハ日當ノ半數六里以上ハ全數ヲ給スヘシ

第四條 検査所ヨリ直ニ抽籤場ニ至ル徵兵ハ甲乙丙ノ里程ヲ通計シ第二條ノ旅費ヲ給スヘシ

第五條 抽籤又ハ検査所等ニ於テ自己ノ情實ヲ申立テ免除ニ屬スル者ノ旅費並ニ滞在日當ハ給セス

第六條 徵兵其府縣管外ニ在ル營所ヘ入營ノ旅費ハ十里詰日當金四拾錢ヲ給スヘシ尤近方三里以上六里未滿並ニ滞在日當及管内ノ營所ニ至ル旅費ハ第二條及三條ニ准スヘシ

第七條 地方徵兵醫員ハ其術業ノ優劣ヲ以テ四等ニ分チ第一等一日金一圓第二等金七十五錢第三等金五十錢第四等金三十錢ヲ給シ若シ軍醫ニ從ヒ他郷ニ出ルルハ一般旅費定則第十七章ノ相當ヲ以テ旅費ヲ給スヘシ

但下検査ノ費用ハ第十六條ニ准ス

第八條 筆生ハ記録ノ開削ニ因テ一日金三十錢ヨリ多カラサル給料ヲ以テ適宜支給シ都合ニ因リ甲所ヨリ乙所ニ要スルキハ前同斷ノ旅費ヲ給スヘシ

第九條 用使ハ徵兵署及検査所ニ各二人ヲ要ス尤檢丁三百人以上ハ壹人ヲ増スヘシ右雇料トシテ一日金拾五錢ヨリ多カラサル金員ヲ適宜給スヘシ

第十條 検査所ヲ社寺ニ設クルルハ其廣狹ニ應シ一日金五十錢ヨリ多カラサルノ雇料ヲ適宜給スヘシ

第十一條 徵兵署及検査所固有品ハ別紙物品表ノ通相心得徵兵解署ノ上ハ其府縣ニ預リ若翌年ニ至リ自然毀損アルルハ修復ヲ加フヘシ若又一時ノ假借ニテ辨給スルルハ相當ノ借料ヲ給スヘシ

第十二條 徵兵署並ニ各所検査所ニ於テ徵兵使或ハ副使ヨリ定則外ノ物品ヲ要スルルハ其旨明細表備考ニ記載スヘシ

第十三條 徵兵入營及検査抽籤場途中川留雪支病氣等ニテ延滞ノ節ハ其所戸長ノ證書及醫師ノ診斷書アルモノハ増日數ノ分滞留日當ヲ給ス且疾病足痛等ニテ步行難相成モノハ醫師ノ診斷書及其地通運會社ノ受取證書ヲ添テ申出ルルハ車駕籠賃ヲ給スヘシ尤藥種料醫師ノ謝儀等ハ自辨タルヘシ

第十四條 右入費勘定仕上ハ十年十月検査局豫算法附例費目ノ部第九號ニ照准シ勘定帳及明細表ハ十一年乙第五號當省達ノ通相心得調製スヘシ

第十五條 前條ノ通定ナルト雖モ各廳ノ便宜ニヨリ此定則ニ基キ金額適宜減少ノ方法ヲ設ルハ若シカラス

第十六條 徵兵支署ニ係ル諸費ハ各廳ノ定額常費ヲ以テ前條ノ法ニ據リ適宜ニ支給スヘシ
但徵兵事務官ノ旅費ハ陸軍省ヨリ給ス

徵兵署及検査所物品表		徵兵署		検査所	
品目	数量	品目	数量	品目	数量
人別検査表板木	六	身幹度尺	一	茶器具	一
テール	十	寝室並蒲團枕	一	水洗桶	一
椅子	二十	テール	四	茶洗桶	一
墨硯箱	八	脚	四	茶器具	一
朱硯箱	五	但六人掛	十	茶洗桶	一
小火鉢	十	十五年	十五	茶洗桶	一
朱肉鉢	二	年	年	茶洗桶	一
水鉢	八			茶洗桶	一
糊入	五			茶洗桶	一
狀刺	四			茶洗桶	一
符	四			茶洗桶	一
茶器具	四			茶洗桶	一

品目	数量	品目	数量	品目	数量
西ノ内紙	二	茶器具	一	茶洗桶	一
半紙	二	水洗桶	一	茶洗桶	一
鐵簿	二	茶洗桶	一	茶洗桶	一
墨	八	茶洗桶	一	茶洗桶	一
朱墨	五	茶洗桶	一	茶洗桶	一
筆	四	茶洗桶	一	茶洗桶	一
炭	四	茶洗桶	一	茶洗桶	一
茶	二	茶洗桶	一	茶洗桶	一

備考
一 固有品ノ保存年數ハ各地品物ノ精粗ニ從テ異ナルアリト雖モ豫メ年數ヲ立テ其長短ハ是ヲ實際ニ觀ル
一 消耗品ハ總テ百人ヲ以テ比較シ百人以上ノ端數二十五人迄ハ四分ノ一ニ十五人以上五十人迄ハ半數五十人以上ヨリ全數ヲ給ス百人以内ノ時モ此例ニ准ス

○一月十五日 山口縣
其縣於テ複式記簿法施行ノ儀出張官吏ヨリ申出ノ趣モ有之候間右所用ノ帳簿別記ノ通致下付候此

旨相達候事

但以下各府縣へハ施行ノ下候ニ付テハ、五字ヲ挿入シ、ノ儀以下十七字ナシ (但以下朱書)

- 長崎縣ハ 二月廿五日達 愛媛縣ハ 三月三日達
- 石川縣ハ 三月四日達 愛知縣ハ 三月十一日達
- 山形縣ハ 同上 三重縣ハ 三月十四日達
- 福岡縣ハ 三月十七日達 大坂府ハ 三月十八日達
- 鹿兒島縣ハ 三月廿五日達 熊本縣ハ 四月七日達
- 大分縣ハ 四月廿九日達 島根縣ハ 五月五日達
- 茨城縣ハ 五月六日達 秋田縣ハ 五月八日達
- 和歌山縣ハ 五月十二日達 京都府ハ 五月九日達
- 長野縣ハ 五月十三日達 岐阜縣ハ 五月十六日達
- 堺縣ハ 五月廿八日達 靜岡縣ハ 五月三十日達
- 兵庫縣ハ 六月三日達 新潟縣ハ 六月十七日達
- 岩手縣ハ 同上 山梨縣ハ 同上
- 青森縣ハ 六月廿一日達 栃木縣ハ 六月廿一日達
- 千葉縣ハ 六月廿八日達 宮城縣ハ 六月三十日達

○一月二十日

- 東京府 神奈川縣 千葉縣
- 埼玉縣 群馬縣 茨城縣
- 栃木縣

明治十一年十二月當省乙第七十二號ヲ以國稅金領收順序相達尙同月乙第七十三號ヲ以著手方ノ儀

十四年大藏省七第
二十五號達ニ依リ
續

相達置候處來ル三月二十日ヨリ其縣下へ收稅委員ヲ派遣シ稅金領收ノ順序爲取扱候條管下各郡區役所へ兼テ相達置不都合無之樣可取計此旨相達候事 (京都以下朱書)

- 京都府 大坂府 兵庫縣 高知縣 四月十四日達
- 山根縣 和歌山縣 高知縣 七月十四日達
- 愛媛縣 山形縣 秋田縣 九月十三日達
- 宮城縣 山形縣 岩手縣 九月十三日達
- 青森縣 山形縣 秋田縣 十月十三日達
- 新潟縣 長野縣 石川縣 十一月九日達
- 長崎縣 鹿兒島縣 大分縣 十一月九日達
- 熊本縣 鹿兒島縣 大分縣 十一月九日達
- 滋賀縣ハ 岐阜縣 十二月三日達
- 三重縣 愛知縣 岐阜縣 十二月三日達
- 靜岡縣 山梨縣 十二月三日達
- 埼玉縣ハ 十二月三日達

○一月二十九日

囚獄徵役場ノ位置並右ニ關スル諸費別紙ノ廉々調査上要用ニ付往復ヲ除クノ外日數十日限り調製可差出此旨相達候事 (△印ハ朱書)

(別紙)

△用紙常用野紙

- 箇所地名
- 同 獄

明治十二年一月 大藏省 達 無號

懲役場
授産場
何所
右書式ニ倣ヒ本年一月一日ノ現狀ヲ記載スヘシ

囚獄費ノ内諸雇給
懲役費ノ内諸雇給
囚人諸費ノ内囚人諸賄
懲役人諸費ノ内懲役人諸賄
右ハ各廳備置候勘定仕上明細表ノ書式ニ倣ヒ本年一月一日ノ實況ニ據リ一ケ年額ヲ計上スヘシ故
ニ守卒獄丁ノ如キ定式雇使ノ者給料ハ同日ノ現員ニ據リ飯米野菜ノ如キ一人別ニ給スル者ハ同日
ノ現囚ニ據リ尙同日ノ價格ヲ以テ積算スヘシ

○二月八日
今般當省官員ヲ令派出其縣下各所へ税金預所ヲ設置爲致候ニ付右設置ノ上ハ預リ所ニ存置セル金
庫等平常巡查ヲ以嚴重護衛可爲致候此旨相達候事
但巡查配置方等ノ儀出張官員へ協議ノ上取締無之權可取計候事
群馬縣 栃木縣

千葉 茨城 ノ二縣ハ 二月十三日達
神奈川縣ハ 二月二十四日達
岡山 島根 廣島 ノ四縣ハ 三月二十七日達
兵庫 大阪 和歌山 高知 ノ二府四縣ハ 四月十五日達

(千葉以下朱書)

七第三十二號達十
三年大藏省第七
十四號達參看

○二月十日
福島 宮城 岩手 秋田 青森 ノ九縣ハ 五月十六日達
山形 石川 新潟 長野 國立銀行

(本文ハ乙第九號達ノ別紙ニ同シ)

○二月二十日

金藏公債證書客年中發行ニ付テハ追々債主へ交付済ノ金券調帳ハ來ル三月ヲ限リ該地發程還納可
致此旨相達候事
府 縣 山梨縣
府 東京府 大阪府

但右期限迄還納之見込不相立分ハ事故可申立事

(△印ハ朱書)

○二月二十八日
△鹿兒島縣へハ冒頭舊佐土原外三藩ノ七字ヲ加へ東京府ハ該地發程ノ四字ヲ除ク

損壞紙幣交換濟ノ分出納局へ送納ノ節ハ大藏卿印輪廓雷紋ノミヲ殘シ置印中ハ悉皆打抜可申右手
數料トシテ紙幣千枚ニ付金三錢六厘ノ割合ヲ以テ支給可致候條交換手數料一同受取方可申出候尤
交換額難決分並燒損等ニテ打抜難出來分ハ是迄ノ通送納可致候此旨相達候事

但本文卿印ヲ打抜キ候上ハ不通用ノ品ニ付物品ト見做シ運送致ス可ク且又打抜候卿印ハ紙幣一
同ニ送納ノ儀ト可相心得且打拔手續等ノ儀ハ出納局長ヨリ可相達候事

○三月四日
東京府 大阪府

明治七年十一月二十日相達候改正貢米賣拂規則ノ儀ハ自今廢止候條此旨相達候事

○四月二十三日

新潟縣 茨城縣 栃木縣 三重縣 愛知縣
静岡縣 滋賀縣 福島縣 青森縣 山形縣
秋田縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣
和歌山縣 愛媛縣 高知縣 福岡縣 大分縣

明治十二年二月三月四月 大藏省 達 無號

七六一

十七年大藏省第七
號達ニ依リ消滅

熊本縣 鹿兒島縣

本年五月可相渡金祿公債證書利子ノ儀ハ預ケ金ノ内ヨリ可相渡管ニ有之候處自然取立金ノ都合ニ據リ右預ケ金ノ順序ヲ經實際配賦ニ不都合有之候ハ、右利子ニ限リ昨年十一月渡ノ振合ヲ以假ニ仕拂置引續預金順序ヲ以納受完結可致此旨相達候事

○五月十二日

府 縣 東京府 神戶縣

金祿公債證書十一年下半年季分利付ニテ(十二年五)本年五月廿八日迄ニ購收ノ内其地發遞送納中(丙)證其地(未)及未發遞ノ分トモ別紙雜形ニ倣ヒ取調五月三十一日限リ其地發遞可差出候此旨兼テ相達置候事

但本文取調書差出後公債證書員額入狂ヒ又ハ事故アツテ五月廿八日以後同利付買上候節ハ其時時雜形ニ倣ヒ取調可差出事

(別紙)

金祿公債證書十一年下半年季分利付買上未納高

何分利

一金祿公債證書高何圓

但十一年下半年季利付何年何月幾日ヨリ何年何月幾日迄買上何年何月幾日府縣地發遞送納中ノ分

(「中ノ文字ハ朱書」)

- 一但書送納中トハ府縣地發遞後國債局領收丙號證書府縣地へ未到達ノ分ヲ云フ
- 一府縣地發遞送納中ノ分數廉アラハ廉限リ公債證書高記載スヘシ
- 一十一年上半季利付買上未納ノ分之レアラハ前後書式ニ倣ヒ認加ヘ可シ

十三年大藏省七第
四十二號達ニ依リ
消滅

何分利

一金祿公債證書何圓

但十一年下半年季利付何年何月幾日ヨリ何年何月幾日迄買上府縣地未發遞ノ分何年何月限リ府縣地發遞見込ノ分

右ハ金祿公債證書十一年下半年季分利付買上未納ノ分相違無之候也

年號 月 日

府縣長官名印

大藏卿宛

○六月十日

- 新潟縣 茨城縣 群馬縣 栃木縣 三重縣
- 愛知縣 靜岡縣 山梨縣 滋賀縣 岐阜縣
- 長野縣 福島縣 岩手縣 青森縣 山形縣
- 秋田縣 石川縣 島根縣 岡山縣 廣島縣
- 山口縣 和歌山縣 愛媛縣 高知縣 福岡縣
- 大分縣 熊本縣 鹿兒島縣

本年四月乙第貳拾五號ヲ以相達候預ケ金出納規則中第貳圖用紙ノ儀ハ以來別紙ノ通相心得可申此旨相達候事

(別紙)

用紙取扱順序

- 一甲號ハ順次ニ綴リ縣廳ノ基券トスヘシ
- 一乙號ハ成規第二十五號出ノ通收稅委員ヘ差出スヘシ
- 一丙號ハ收稅委員ヨリ現金預リタル當日出納局長ヘ通知ノ爲遞送スヘシ

明治十二年六月 大藏省 達 無號

府下米商會所仲買人ノ内仲買人ニ非サル者等數人ヲ募リ結合シ何舍或ハ何組合ト唱ヘ竊ニ仲買營業候者モ有之趣右ハ豫メ取締上ニ關シ不都合ニ候條目下右等ノ營業致居候者ハ早々解社可爲致此旨相達候事

十五年大藏省第四十三號達ヲ以テ常平局廢止

十四年大藏省第五十四號達ヲ以テ豫備金廢止

府 縣 東京大阪ノ二府千葉茨城山梨神奈川四縣ヲ除ク

○六月二十日 從前常平局長ヘ報告致來候每一週間米價電報之儀自今上半ケ月分平均其月十六日ハ十七日下半ケ月分平均翌月一日ハ二日ニ是迄ノ振合ヲ以テ電報可有之且電信料ノ儀ハ豫備金ヲ以テ繰替仕拂置每三ケ月宛取廻メ同局ヘ請取方可申出此旨相達候事

但丑年米之相場ハ報告ニ不及候事

○七月十七日

府 縣 但神尾縣ヲ除ク

兼テ相達置候年金渡方手續概則ヘ別紙ノ通第十一款追加候條其旨相心得年金拜受者ヘ夫々可致告示此旨相達候事

(別紙)

年金渡方手續概則追加

第十一款 勳等年金拜受ノ者事故アリ姓名ヲ改メシキハ本籍戸長ノ與印アル届書ヲ本人所有年金證ニ添ヘ現受取場所ノ地方廳ニ出スヘシ地方廳ニ於テハ之ヲ認可シ該年金證ノ裏面ニ何年何月何日改姓名セシヲ簡明ニ記入シ長官之ニ名印シテ本人ニ却付ス而後地方廳ハ其事由ヲ賞勳局及ヒ大藏省ニ届出ヘシ

但年金拜受以來ノ改姓名ニ係ル者ハ都テ此手續ニ據ルモノトス

明治十二年六月

大藏省 太政官賞勳局

十三年大藏省第七十三號達ニ依リ

消滅

○七月二十六日

大阪府 神奈川縣 兵庫縣 長崎縣 新潟縣

外國船乘組規則中乘船證書手數料ノ儀ハ府縣稅ノ内ヘ編入スヘキ旨去ル九年四月中相達置候處昨十一年第三十九號布告ヲ以テ地方稅種類被定候ニ付テハ右手數料自今國稅ヘ編入セラレ候條十二年度ヨリハ海外旅券其他免許手數料ノ内ヘ組込納付取計候儀ト可相心得此旨相達候事

但シ右ニ屬スル費用ハ定額常費ノ内ヨリ支拂可申事

○八月十一日

府 縣 東京府神尾縣ヲ除ク

銀行檢査手續書金銀有高檢査ノ項中洋銀調査ノ一章刪除候條洋銀ノ儀ハ總テ外國貨幣地金銀同様調査候儀ト可相心得此旨相達候事

○九月二日

國立銀行

今般第三十一號ヲ以テ銀行當坐預リ金小切手ヘ稅印押捺ノ儀布告相成候ニ付テハ當省租稅局於テ稅印押捺相渡ス可ク候條稅金ノ儀ハ當省出納局ヘ現金相納メ同局預リ切符ヘ左ノ雜形ノ通り稅金上納證書ヲ副ヘ右小切手一同租稅局ヘ差出シ押印相受可申此旨相達候事

稅金上納證書雜形

用紙美濃紙罫紙

證

一金何程

但小切手印稅何葉分

右上納仕候也

年月日

租稅局長宛

銀行

府 縣 但沖繩縣

○九月二十日
豫テ相達置候勳等年金渡方手續概則へ別紙ノ通り第十二款追加候條其旨相心得年金拜受者へ夫々可致告示此旨相達候事

(別紙)
年金渡方手續概則追加

第十二款 勳等年金拜受ノ者水火災或ハ盜難ニ罹リ又ハ遺失等ニテ所有ノ年金證紛失ニ及フコトアラハ即時ニ該證ノ寫シ全文其寫シヲ所持ナキ者ハ何號何額ノ年金證如何ナル事由ニ依テ紛失ニ及ヒタル次第ヲ詳記シ代リ年金證請求方ヲ年金受取場所ノ地方廳へ願出スヘシ地方廳ニ於テ右ノ願書ヲ受取ルルハ其旨賞勳局へ申請シ且同時ニ紛失ノ旨大藏省へ届出スヘシ然ルトキハ賞勳局ニ於テ前證ニ代ニヘキ新證ヲ作り該地方廳ヲ經テ本人へ付與セシムヘシ尤新證ヲ付與セサル間ハ本人ノ年金渡方ヲ停止ス仍テ其間ニ相渡スヘキ年金ハ新證ヲ付與シタル次ノ拂渡期月ニ一同之ヲ相渡スヘシ

但本文紛失ノ年金證ハ發覺次第本人ヨリ其管轄廳へ差出シ該廳ヨリ之ヲ賞勳局へ差出スヘシ
明治十二年九月 大藏省 太政官賞勳局

○十月三日 國立銀行

振出手形之儀ハ自今左之通相心得發行可致此旨相達候事

- 第一 此手形ハ一枚ノ金額百圓以上タルヘシ
- 第二 此手形ハ振出シタル年月日及預ケ主ノ姓名ヲ記入シ授受ノ際ハ必ス裏書ヲ要スヘシ
- 第三 此手形ニ對シテハ利息ヲ付ス可カラス

十五年第五十七號
布告ニ依リ消滅

十三年一月十七日
大藏省達ヲ以テ但
書追加

十四年六月四日大
藏省達ヲ以テ但
手續改正

第四 此手形ハ發行店ノ外其仕拂ヲナス可カラス

但賣買割引ハ此限ニアラス

第五 此手形ハ銀行紙幣並ニ預リ金ノ準備トナスヲ得サルハ勿論金銀有高ニ算入ス可カラス
以上

○十月十四日

府 縣 東京大坂ノ二府長崎宮
城沖繩ノ三縣ヲ除ク

其府下當省爲替方抵當品ノ儀ハ出納局へ徵收可致等之處爲替方ノ便宜ニ據リ其府廳へ預ケ方出納局長ヨリ照會致候儀モ可有之候條其節ハ別紙手續書ニ照準預リ方可取計候此旨相達候事

(別紙)

當省爲替方抵當品廳預ケ手續

一爲替方於テ抵當品ヲ其地方廳へ納メ置度旨出願セントスルハ先ツ抵當品ノ明細仕譯書各租公
ニ限リ至急ヲ要スル等ノ事故アル時ハ又ハ現品寫等ヲ以テ出納局へ願出スヘキモノトシ然ルハ
其總金額ノミヲ記シ願出ルモアルヘシ

ハ其書面寫ヲ添ヘ同局ヨリ現品ヲ預ケ置ヘキ縣へ照會ヲ爲スヘシ
一關於テハ出納局ノ照會ヲ得テ爲替方ヨリ差出ス所ノ抵當品ヲ檢査シ左ノ價格ニ據リ之ヲ審算シ
同局ヨリ同付アル書面ニ照シ相達ナキトハ之ヲ受取リ別紙雛形ノ預リ證書ヲ爲替方へ交付シ置
キ其預リ證書寫ヲ以テ速ニ出納局へ報告スヘシ

抵當品價格

秩祿公債證書	百圓ニ付	實價百圓
新公債證書	同	同 七拾圓
金祿公債證書	同	同 百圓
利付同	同	同 八拾貳圓

明治十二年十月 大藏省 達 無號

十六年大藏省第三十八號達參看

又ハ 何之誰殿

各地大藏省爲換方

○十月二十日 當省爲換方之事務ニ係リ願伺届等ノ書面ハ命令書第一條之通出納局ノ指揮ニ隨フヘキ筈ニ付以來別紙書式ヲ以テ差出可申此段相達候事

(別紙)

書式

何々之儀ニ付(願)伺(御)届

何々銀行

何地大藏省爲換方

年月日

又ハ 何之誰

出納局長姓名殿

○十月二十二日

岡山縣 群馬縣 栃木縣 岐阜縣 滋賀縣
三重縣 石川縣 和歌山縣 山形縣

印紙罫紙賣捌所看板費用之儀地方稅ヨリ支辨スヘク旨及指示置候處右ハ更ニ官費ヲ以テ支給候義ト可心得此旨相達候事

各地大藏省爲換方

○十一月二十五日 命令書第三條第八條左ノ通改正候條此段相達候事

十六年大藏省第十
五號達參看

十四年大藏省第十
二十五號達ニ依リ
消滅

第三條 諸稅金錢ハ甲乙接續セル納稅切符ヲ添ヘ戶長又ハ其代理人持參スヘキニ付其金錢ノ眞贋ヲ鑑定シテ之ヲ受取^七金錢ハ明治九年大藏官第五其員數年度稅名及ヒ郡區町村戶長又ハ其代理人ノ姓名ヲ預リ金元帳ヘ記入シ而シテ其持參人ノ目前ニ於テ乙納稅切符金員ニ爲替方ノ證印ヲ捺シ尙元帳金員ヘ切符ト割印シテ預リ濟ヲ證シ切符ヲ持參者ニ返付スヘシ

第八條 預リ金ヲ上納セシムヘキハ大藏卿ノ命令ヲ以テ出納局長ヨリ相達スヘクニ付爲替方ハ其違書則チ配賦證票ヲ遵奉シテ爲替ヲ取組^三其爲替手形ハ收稅委員ヘ引渡スヘシ尙又金或ハ收稅委員ニ引渡シテ現金遞送ノ順序ヲナシ上納致スヘシ而シテ其爲替手形又ハ現金ヲ收稅委員ヘ引渡スヘキハ假請取證ヲ受クヘシ此ノ爲替又ハ現金送付嚮ヘ到達シ上納濟ノ上同委員ヨリ本請取證書ヲ交付スヘキニ付曩キノ假請取證ヲ返戻シ本請取證書ヲ保存シテ上納濟ノ證左トナスヘシ但シ出納局長ヨリ相達スル證票雛形及ヒ同局長印鑑收稅委員請取證書本假雛形及ヒ印鑑トモ豫テ大藏省ヨリ下付スヘシ

陸軍省

布達

十六年第四十六號
布告ニ依リ消滅

○布第一號 〇月八日 輪廓附
今般第四十六號布告徵兵令改正相成候付従前之第一後備軍ヲ豫備軍第二後備軍ヲ後備軍ト改稱右
在籍之者服役年期計算之儀別紙之通可相心得此旨布達候事

(別紙)

- 一 第一後備軍ヲ豫備軍ト改稱シ第一後備軍服役中ノ者ハ最初第一後備軍ヘ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ三ヶ年ノ役ニ服セシメ豫備軍満期ノ後成規ノ如ク後備軍ヘ編入スヘシ
- 一 但定期ニ非スシテ臨時第一後備軍ヘ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ三ヶ年ノ役ニ服セシメ豫備軍満期ノ後成規ノ如ク後備軍ヘ編入スヘシ
- 一 第二後備軍ヲ後備軍ト改稱シ第二後備軍服役中ノ者ハ最初第二後備軍ヘ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ四ヶ年ノ役ニ服セシムヘシ
- 一 但定期ニ非スシテ臨時第二後備軍ヘ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四ヶ年ノ役ニ服セシムヘシ

十六年第四十六號
布告ニ依リ消滅

○布第二號 (十一月十七日 輪廓附)

今般第四十六號布告徵兵令改正ニ付徵兵事務條例別冊之通相定候條此旨布達候事

(別冊)

徵兵事務條例目錄

第一章 徵兵事務順序

至自 第一條

明治十二年十一月 陸軍省 布達 布第一號 布第二號 (徵兵事務條例)

府縣管地ノ廣狹及ヒ檢丁ノ多寡ニ應シ一ヶ所概テ二百人乃至五百人ノ見込ヲ以テ集合便宜ノ地ニ之ヲ設クヘシ

但徵兵檢査所ヲ數所ニ設ケ或ハ管内ノ總員ヲ悉ク一ヶ所ニ集合スルハ實地ノ適宜ニ任ス

第八條 徵兵檢査所ハ檢丁ヲシテ暫時裸體ナラシメ眼色耳孔ヨリ全體ヲ檢査シ遂ニ四支ノ運動ニ及ホスヲ以テ官舎或ハ社寺等ノ與行八九間間口五六間以上ノ家屋ヲ撰ヒ之ヲ設クヘシ

第九條 徵兵令第九條但書ノ使府縣徵兵區內徵兵下檢査ノ事務ヲ調理スル爲メ使府縣廳內或ハ管内適宜ノ地ニ一ノ場所ヲ設クヘシ之ヲ使府縣徵兵支署トス

第十條 使府縣徵兵區內ノ郡區ヲ分チ身體下檢査ヲ施行スル爲メ若干ノ場所ヲ設クヘシ之ヲ使府縣徵兵下檢査所トス

但本條下檢査所ハ概テ檢丁ノ一日間ニ往復ヲ爲シ得ヘキ里程內ノ地ニ之ヲ設クヘシ

第十一條 前諸條ノ官署ハ徵兵事務施行中ノ之ヲ開クモノニシテ該事務全ク竣ルルハ之ヲ閉ツヘシ

第三章 徵兵各自届出

第十二條 徵兵令第六十一條ノ徵兵各自届出ヲ爲スニ方リ同令第二十七條第一項ニ當ル癡疾不具等ノ者ハ其届書ニ第一書式ノ最寄地方醫師診斷書ヲ添ヘ又第二項ニ當ル處刑ノ者ハ其届書ニ刑名宣告書寫ヲ添ヘ戸長ヘ差出スヘシ

第十三條 徵兵令第二十八條項目中第五項ニ當ル者ハ各自届書ニ事由ヲ記シタル詳細書ヲ添ヘ又第六項及ヒ第八項ニ當ル者ハ辭令書等ノ寫ヲ添ヘ戸長ヘ差出スヘシ

第十四條 徵兵令第二十九條項目中第二項及ヒ第三項ニ當ル者ハ各自届書ニ事由ヲ記シタル詳細書ヲ添ヘ又第四項及ヒ第九項ニ當ル者ハ免狀寫ヲ添ヘ又第五項乃至第八項及ヒ第十項ニ當ル者

ハ證書寫ヲ添ヘ戸長ヘ差出スヘシ

第十五條 徵兵令第三十條項目中第一項第三項乃至第八項及ヒ第十項ニ當ル者ハ事由ヲ記シタル詳細書或ハ學校卒業證書等ノ寫ヲ添ヘ又第五項ニ當ル者ハ第一書式ノ最寄地方醫師診斷書及ヒ同郡區徵兵ノ戶主タル者二人以上ノ保證書ヲ添ヘ戸長ヘ差出スヘシ

第十六條 徵兵各自届出ヲ爲スニ方リ本人戸主ニシテ外國寄留又ハ旅行等ニテ自ラ届出ヲ爲ス能ハサルキハ其事由ヲ記シ親族ノ者ヨリ戸長ヘ届出ヘシ

第十七條 他ノ使府縣ヘ寄留スル者ハ戸主(本人戸主ナレハ即チ自身)或ハ親族ノ者ヨリ定期ノ如ク本籍戸長ヘ届出ヘシ

但全戸寄留ニシテ寄留地ノ徵集ニ應セント欲スル者ハ徵兵令第六十三條ノ手續ヲ爲スニ及ハス寄留地ノ徵集ニ應スヘキ旨ヲ本籍並ニ寄留地戸長ヘ届出ヘシ

第十八條 徵兵各自届出ヲ終ルノ後身上ニ異動ヲ生スルキハ事由ヲ詳カニシ戸主(本人戸主ナレハ即チ自身)或ハ親族ノ者ヨリ速カニ戸長ヘ届出ヘシ

第十九條 徵兵各自届出ヲ終ルノ後他ノ使府縣ヘ轉籍スルキハ速カニ舊住地及ヒ新住地雙方戸長ヘ届出ヘシ

第四章 徵兵下檢査準備

第二十條 徵兵令第六十條及ヒ同令第六十一條ノ各自届出ヲ爲スルハ戸長之ヲ調査シ國民軍籍ニ入ル者ト徵兵相當ノ者トヲ分チ徵兵相當ノ者ハ各自姓名ノ頭ニ記載シタル箇條並ニ事由書或ハ證書等ヲ審査シ而シテ徵兵令第二十七條第二項同令第二十八條第二十九條ニ當ル者及ヒ身體下檢査ヲ受クヘキ者ヲ區別シ國民軍入籍者ノ届書ト共ニ毎年九月二十五日限リ郡區長ヘ差出スヘシ

但本條屆書ノ審査ヲ爲スニ方リ徵兵令第二十八條第一項第三項及ヒ第四項但書並ニ同令第二十九條第一項但書ニ當ル戸主嗣子承祖ノ孫及ヒ相續人ハ一層綿密ニ審査スヘシ
第二十一條 第十七條ノ他ノ使府縣ヘ寄留スル者ヨリ本籍戸長ヘ届出ルルハ戸長之ヲ郡區長ヘ差出スヘシ

但本人調査ノ事ハ郡區長ヨリ寄留地郡區長ヘ依託スヘシ

第二十二條 郡區長ハ戸長ヨリ差出ス所ノ各自届書並ニ諸書類ヲ點檢シ之ヲ一郡區ニ取經メ徵兵相當ノ者ハ左式ノ如ク簡條ヲ區別シ壯丁名簿ヲ製シ又徵兵令第三十條第二項第五項及ヒ第九項ニ當ル者ヲ除クノ外徵集ヲ猶豫スヘキ者ト見認ル者ハ徵集部ノ冊尾ヘ騰記シ各自姓名ノ頭ニ其簡條ヲ摘載シ徵兵各自ノ届書並ニ國民軍入籍者ノ届書ト共ニ毎年十月十日限り徵兵支署ヘ差出スヘシ

壯丁名簿書式(各部別冊ニ作ル)

徵集之部

何町 族職業

戸主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)

年號月日生 何 某

何村 族職業

同 年號月日生 何 某

以下倣之

合計幾人

平時免役相當之部

戸主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)

(△印ハ朱書)

何町 族職業△嗣子

同 年號月日生 何 某

何村 同

△年刀日入役
△陸軍士官學校生徒

同 同

何村 同

△年刀日
△公立某中學校ニ於テ卒業

同 同

合計幾人

以下倣之

國民軍之外免役相當之部

何町 族職業△何村戸長

戸主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)

年號月日生 何 某

何村 同

△父四十八歳陸軍

同 同

何村 同

△父五十九歳

同 同

合計幾人

處刑之部

何村 族職業△懲役何年

戸主名何男(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)

年號月日生 何 某

以下做之

合計幾人

第二十三條 徵兵令第六十三條ノ寄留地ニ於テ徵集ニ應スル者ハ該郡區内徵集ノ部ト混セサル爲メ別簿ニ記載シ又同令第二十七條乃至第三十條ノ項目ニ當ル者ハ寄留地ニ於テ名簿ヲ作ルニ及ハス

第二十四條 第十八條ノ徵兵各自届出ノ後身上ノ異動ヲ届出ルキハ戶長之ヲ調査シ郡區長ヲ經テ徵兵支署又ハ下検査所ヘ届出ヘシ

第五章 徵兵支署開設

第二十五條 徵兵支署ハ毎年十月十日以前之ヲ開設シ徵兵令第十六條第十九條第二十一條及ヒ第二十二條ノ徵兵事務官使府縣徵兵事務官地方徵兵醫員及ヒ筆生此ニ出席シ徵兵下検査ノ事務ヲ調理ス

第二十六條 第二十二條ノ郡區長ヨリ壯丁名簿並ニ徵兵各自届書ヲ徵兵支署ヘ差出スキハ徵兵事務官使府縣徵兵事務官ハ徵兵令第二十七條乃至第三十條ノ項目ニ適スルヤ否ヲ審査シ又之ヲ翌年徵兵ニ當ルヘキ國民軍名簿ニ照較スヘシ

第二十七條 前條壯丁名簿ヲ國民軍名簿ニ照較スルニ若シ同簿中ニ其姓名無ク或ハ之レアルモ壯丁名簿ニ其姓名ナキハ本人又ハ親族等ニ其事由ヲ糺スヘシ

第二十八條 徵兵支署ニ於テ壯丁名簿ノ調査竣レハ身體下検査ヲ受ヘキ人員ヲ計リ徵兵令第三十八條ノ八別表ヲ各自ニ葉宛ニシテ支署ヨリ郡區長ヘ渡スヘシ郡區長之ヲ戶長ヘ渡シ戶長ハ二葉共成規ノ如ク記註シ之ヲ一町村ニ取纏メ再ヒ郡區長ヘ差出スヘシ郡區長ハ身體下検査前之ヲ使府縣徵兵事務官ヘ差出スヘシ

第二十九條 壯丁名簿ノ調査竣レハ檢丁ノ多寡及ヒ土地ノ廣狹ニ從ヒ下検査所並ニ巡回ノ日割ヲ定メ徵兵事務官及ヒ使府縣徵兵事務官連署シ使府縣廳ヘ開申スヘシ

第三十條 前條下検査所並ニ巡回日割已ニ定ルキハ使府縣廳ヨリ所管鎮臺ヘ通牒シ又各郡區徵兵事務官ヘ達スヘシ

第三十一條 徵兵下検査巡回ノ期限ハ概テ十月十五日ヨリ始メ十一月三十日迄ニ之ヲ竣ルヲ目的トスヘシ

第六章 徵兵下検査

第三十二條 第三十條ノ使府縣廳ヨリ下検査所並ニ巡回日割ノ達アルキハ郡區徵兵事務官ハ速ニ其郡區内前年送ノ者並ニ徵兵令第六十七條ニ相當スル者ハ勿論本年身體下検査ヲ受クヘキ者ヘ達スヘシ

第三十三條 徵兵令第二十七條第二項ニ當ル罪科アリ終身除役ニ屬スル者同令第二十八條ノ項目ニ當ル國民軍ノ外免役ニ屬スル者同令第二十九條ノ項目ニ當ル平時免役ニ屬スル者及ヒ同令第三十條第一項第三項第四項第六項乃至第八項及ヒ第十項ニ當ル徵集猶豫ニ屬スル者ヲ除クノ外ハ悉ク下検査所ニ召集シ地方徵兵醫員ヲシテ身幹及ヒ骨格ヲ検査セシム

第三十四條 身體下検査著手ニ先タテ使府縣徵兵事務官ハ第二十八條ノ郡區長ヨリ差出シタル八別表ニ基キ徵兵令第二十九條ノ検査表中朱書ノ如ク檢丁ノ姓名住所其他戶主ノ名等筆生ヲシテ壯丁一人ニ付二葉宛ヲ謄寫セシメ下検査ノ席ニ備ヘ置クヘシ

第三十五條 身體下検査ヲ爲ス時ハ徵兵事務官使府縣徵兵事務官及ヒ郡區徵兵事務官列坐スヘシ第三十六條 身體下検査ヲ爲ス時ハ地方徵兵醫員壯丁名簿中徵集ノ部ニ記載シタル順序ニ檢丁ヲ呼出シ身幹及ヒ骨格ヲ検査シ而シテ身幹五尺以上ノ者ハ其寸尺及ヒ骨相ヲ検査表ニ記註シ又徵

兵令第二十七條第一項ニ當ル終身除役ニ屬スル者及ヒ同令第三十條第九項ニ當ル身幹五尺未滿ノ者ハ骨相ヲ記セスシテ病名或ハ寸尺ノミヲ記註シ之ニ捺印スヘシ

但身幹五尺未滿ト雖モ第八十二條乃至第八十四條ノ輜重輸卒看病卒及ヒ職工ニ適當ノ見込アル者ハ検査表ニ骨相ヲ記註シ且地方醫員審査體質ノ區畫ニ(輜重輸卒適當)(看病卒適當)等其見込ノ要領ヲ記註スヘシ

第二十七條 徵兵令第二十七條第一項ニ當ル終身除役ニ屬スル者及ヒ同令第三十條第九項ニ當ル身幹五尺未滿ノ者(第八十二條乃至第八十四條ノ輜重輸卒)ハ徵兵事務官及ヒ使府縣徵兵事務官下検査所ニ於テ之ヲ判決シ本検査ヲ要セサルヲ以テ最モ綿密ニ審査スヘシ就中終身除役ニ屬スルモノハ第十二條ノ各自屆書ニ添ヘ差出シタル最寄地方醫師診斷書ト照較シ相違ナキハ地方徵兵醫員之ニ與書證印シ若シ意見アルキハ其意見書ヲ添ヘ使府縣徵兵署開設ノ時之ヲ同署ニ送ルヘシ

第二十八條 檢丁中下検査所ニ於テ癲癇狂病、白痴、夜盲、聾、嚔、遺尿等ノ如キ自覺症ヲ訴ル者ハ平素其病症ヲ熟知スル近鄰ノ戶主二人以上ヲシテ之ヲ證セシメ其證書ト共ニ使府縣徵兵署開設ノ時之ヲ同署ニ送ルヘシ

第二十九條 檢丁ノ身體検査竣ル毎ニ徵兵事務官及ヒ使府縣徵兵事務官ノ面前ニ呼出シ人別表ニ由リ本人姓名住所族職業及ヒ父兄ノ名等ヲ尋問シ相違ナキヤ否ヲ糺スヘシ

第四十條 前條人別表照查ノ後徵兵事務官ハ検査表ニ由リ筆生ヲシテ人別表中身幹尺度ノ區畫ニ各自ノ寸尺ヲ記註シ又痠疼不具或ハ身幹五尺未滿ノ者(第八十二條乃至第八十四條ノ輜重輸卒)ハ備考區畫ニ(何事故翌年廻)(終身除役)等其要領ヲ記註セシムヘシ

第四十一條 凡前年送ノ者及ヒ徵兵令第六十七條ニ相當スル者身體下検査ノ扱ハ本年始テ下検査

ヲ受クル者ト異ナルコトナシ

第四十二條 身體下検査全ク竣レハ徵兵事務官及ヒ使府縣徵兵事務官ハ人別表並ニ検査表ヲ點檢シ然ル後壯丁名簿前年送名簿入營延期前年送名簿及ヒ前年送先入兵名簿中各自姓名ノ頭ニ(後年送)(定式未滿後年送)等其要領ヲ記註シ第二書式ノ徵兵下検査身幹表ヲ調整スヘシ

但人別表及ヒ検査表ハ使府縣徵兵事務官ヨリ徵兵検査前ノ之ヲ徵兵副使ヘ差出スヘシ

第四十三條 檢丁中下検査召集ノ時ニ當リ病氣或ハ已ムヲ得サル事故ヲ生シ出頭シ難キ者ハ其趣ヲ詳記シ戶長之ニ證印シ又病氣ノ者ハ第一書式ノ最寄地方醫師診斷書ヲ添ヘ速カニ下検査所ヘ届出ヘシ

但病氣ノ者ハ時宜ニ由リ其家ニ就キ之ヲ診斷シ或ハ診斷書ニ由リ他ノ下検査所ニ於テ之ヲ検査シ又ハ徵兵検査ノ時ニ出頭セシムル等徵兵事務官及ヒ使府縣徵兵事務官協議ノ上之ヲ處分スヘシ

第四十四條 檢丁中徵兵令第廿七條第一項ニ當ル痠疼或ハ不具等ニシテ兵役ニ堪ユ可ラサル徵候アル者ト雖モ身體検査ヲ受ルノ後ニ非レハ除役ス可ラサルヲ以テ務テ下検査所ヘ出頭シ除役當否ノ處分ヲ受クヘシ

但起居自在ナラサル疾患ニシテ車駕等ヲ用ユルモ出頭シ難キ者ハ徵兵事務官使府縣徵兵事務官及ヒ地方徵兵醫員其家ニ就キ之ヲ審査スルコトアルヘシ

第四十五條 前條痠疼或ハ不具等ニシテ終身兵役ニ堪ユ可ラサル者ニシテ其原因天然又ハ不幸ニ出ルニ非ス徵集規避ノ爲メ故ラニ身體ヲ毀傷シタル嫌疑アル者ハ意見書ヲ作り本人ト共ニ使府縣徵兵署開設ノ時之ヲ同署ニ送ルヘシ

第七章 徵兵下検査簿冊調整

第四十六條 徵兵下検査全ク竣ルノ後使府縣徵兵支署ニ於テ左ノ名簿ヲ作ルヘシ

第一項 除役名簿

第二項 免役名簿

第三項 第二豫備徵兵名簿

第四項 翌年同名簿

第五項 入營延期翌年同名簿

第六項 先入兵名簿

第七項 徵集名簿

第四十七條 除役名簿ハ徵兵令第二十七條ノ項目ニ當ル者ヲ以テ集成シ第三書式ニ準シ騰記スヘシ

第四十八條 免役名簿ハ徵兵令第二十八條ノ項目ニ當ル者ヲ以テ集成シ第四書式ニ準シ騰記スヘシ

第四十九條 第二豫備徵兵名簿ハ徵兵令第二十九條ノ項目ニ當ル者ヲ以テ集成シ第五書式ニ準シ

騰記スヘシ

第五十條 翌年同名簿ハ徵兵令第三十條ノ項目(第二項第五項及ヒ第九項ニ當ル疾病中或ハ病後ノ

第五十一條 入營延期翌年同名簿ハ徵兵令第五十六條但書ニ當ル者ヲ以テ集成シ第六書式ニ準シ

騰記スヘシ

第五十二條 先入兵名簿ハ徵兵令第六十七條ニ當ル者ヲ以テ集成シ第六書式ニ準シ騰記スヘシ

第五十三條 徵集名簿ハ壯丁名簿徵集ノ部中身體下検査ヲ遂ケ本検査ヲ受クヘキ者及ヒ一時ノ疾

病又ハ已ムヲ得サル事故ニテ下検査所へ出頭セサル者ヲ以テ集成シ部類ヲ分チ第七書式ニ準シ

騰記スヘシ

第五十四條 徵兵令第六十二條ノ寄留地ニ於テ徵集ニ應スヘキ者ノ名簿ハ寄留地使府縣ニ於テハ

他ノ使府縣ヨリ寄留ノ部ト題シ又本籍使府縣ニ於テハ他ノ使府縣ニ寄留ノ部ト題シ之ヲ區別シ

テ騰記スヘシ

第五十五條 凡名簿騰記ノ法ハ一郡區ニ合計シテ餘白ヲ存シ之ヲ使府縣徵兵區(兩師管ニ當ル者ハ每師管)ニ

總計シ連名ノ順序ハ他町村ノ者ト混セサル爲メ甲村ノ者ヲ書シ終ルノ後乙村ニ及ホシ終ニ之ヲ

一郡區ニ集成スヘシ

第五十六條 第四十六條ノ諸名簿ハ各二部ヲ作り卷末ニ徵兵事務官及ヒ使府縣徵兵事務官署名押

印シ使府縣廳へ差出シ而シテ一部ハ使府縣廳ノ原簿トシ一部ハ之ニ第二書式ノ徵兵下検査身幹

表ヲ添ヘ毎年十二月二十五日限り使府縣廳ヨリ所管鎮臺へ差出スヘシ

第五十七條 前條諸名簿鎮臺へ送達ノ節使府縣徵兵署設置ノ地名並ニ徵兵検査所及ヒ各検査所召

集ノ人員且徵兵署及ヒ各検査所間ノ里程ヲ詳記シ差出スヘシ

第五十八條 徵兵諸名簿整頓ノ後壯丁ノ身上ニ異動ヲ生スルハ之ニ筆削ヲ加ヘヌシテ別ニ異動

名簿ヲ作り各自其事由ヲ詳ニシ第五十六條ノ諸名簿送達同時ニ使府縣廳ヨリ所管鎮臺へ送達シ

又名簿送達以後ニ係ル者ハ徵兵使到著ノ節直ニ同使へ差出スヘシ

第八章 國民軍名簿調整

第五十九條 徵兵支署ニ於テ徵兵諸名簿整頓シ使府縣廳ニ差出ヌノ後ハ第二十二條ノ郡區長ヨリ

差出ヌ所ノ國民軍入籍者ノ届書ヲ以テ第八書式ノ國民軍名簿ヲ調整スヘシ

但名簿騰記ノ法ハ第五十五條ノ例ニ準ス

第六十條 前條國民軍名簿整頓ノ後徵兵事務官及ヒ使府縣徵兵事務官之ニ署名押印シ使府縣廳へ

差出スヘシ

第六十一條 國民軍名簿ハ徵兵諸名簿調査ノ原簿ト爲スヘキヲ以テ之ヲ使府縣廳ニ備ヘ置キ其年
齡二十歳ニ至ル迄ハ身上ノ異動アル毎ニ筆削ヲ加ヘ常ニ明瞭ナラシムヘシ

第九章 徵員調査

第六十二條 毎年徵集スヘキ人員ハ陸軍省ヨリ第九書式ノ徵集人員表ヲ布達スヘキヲ以テ其人員
ヲ定ムル爲メ各聯隊(聯隊ヲ爲サハル隊ニ在
テハ大隊又ハ中隊)ニ於テ十二月一日ノ現員中翌年四月定例豫備軍ヘ
編入スヘキ人員並ニ其以後在營スヘキ人員及ヒ再役志願ノ者ヲ調査シ十二月十日限り之ヲ鎮臺
ヘ報告スヘシ

第六十三條 鎮臺ニ於テハ前條各隊ヨリ報告スル所ノ人員ニ由リ第十書式ノ表面ヲ作り十二月二
十五日限り之ヲ陸軍省ヘ開申スヘシ

第十章 徵兵署開設

第六十四條 第五條ノ軍管徵兵署ハ概テ二月一日ヨリ之ヲ開設シ徵兵令第十二條乃至第十五條及
ヒ第十七條ノ徵兵使徵兵副使徵兵醫官徵兵副醫官及ヒ徵兵書記等此ニ出席シ同令第二十三條ノ
使府縣巡行ノ準備ヲナスヘシ

第六十五條 軍管徵兵署開設ノ後鎮臺司令官ハ第九書式ノ徵集人員表並ニ第五十六條及ヒ第五十
七條ノ使府縣ヨリ差出ス所ノ徵兵諸名簿及ヒ里程書ヲ徵兵使ヘ附與スヘシ

第六十六條 徵兵使ハ前條徵集人員表並ニ徵兵諸名簿等受領ノ後其名簿ノ成規ニ適スルヤ否ヲ審
査シ然レ後徵集人員表中步兵ニ在テハ一師管徵兵區内ノ徵集名簿總人員ヲ率トシ他ノ兵種ハ一
軍管徵兵區内ノ徵集名簿總人員ヲ率トシ之ヲ使府縣徵兵區内ノ徵集名簿人員ニ配當シ第十一書
式ノ徵員配當表ヲ作り鎮臺司令官ノ許可ヲ得テ其軍管管下使府縣ヘ通牒シ又鎮臺ヨリ之ヲ陸軍

省ヘ開申スヘシ

但徵兵令第三條ノ輜重輸卒看病卒並ニ職工ノ志願者ニテ不足スルキハ之ヲ一軍管徵兵區内ニ
配當スヘシ

第六十七條 前條徵員ノ配當已ニ竣レハ使府縣巡同ノ爲メ徵兵副使並ニ徵兵醫官等ノ分行ヲ定ム
ヘシ其法ハ師管徵兵區ヲ一行トシ之ヲ分テ二派トス其一ハ專ラ検査ノ事ヲ掌リ其一ハ抽籤或ハ
番號制符符與等ノ事ヲ掌ル

第六十八條 前條巡同ノ分行已ニ定ルキハ分行ノ副使ニ徵兵諸名簿ヲ附與シ又使府縣徵兵署並ニ
徵兵検査所ノ遠近及ヒ檢丁ノ多寡ニ應シ召集ノ人員一日凡幾人其他抽籤ノ時日等ヲ定メ第十二
書式ノ巡回日割表ヲ作り鎮臺司令官ノ許可ヲ得テ之ヲ使府縣廳ヘ通牒スヘシ

第十一章 徵兵検査事務

第六十九條 第六十八條ノ徵兵使ヨリ巡回日割ノ通牒アルキハ使府縣廳ニ於テハ之ヲ管内郡區徵
兵事務官ヘ達スヘシ

第七十條 郡區徵兵事務官ハ前條ノ達アルキハ直ニ其擔當ノ郡區内徵兵検査ヲ受クヘキ者ヘ達シ
戶長ヲシテ檢丁ヲ引纏メ其指定スル日限及ヒ場所ヘ出頭セシムヘシ

第七十一條 徵兵副使ハ徵兵検査以前ニ於テ第四十二條但書ニ示シタル人別表及ヒ検査表ヲ使府
縣徵兵事務官ヨリ受領シ検査表ハ直ニ徵兵醫官ニ渡シ又人別表中記註ノ件々成規ニ適スルヤ否
ヲ調査スヘシ

第七十二條 徵兵醫官ハ當日ノ検査終レハ検査表ヲ徵兵副使ニ渡シ副使ハ合格者ノ検査表及ヒ人
別表ヲ第七十三條乃至第八十四條ニ照シ各自身幹及ヒ職業ニ應シ兵種ヲ區別スヘシ又徵集名簿
前年送名簿入營延期前年送名簿及ヒ先入兵名簿中事故アリ翌年同或ハ除役免役トナセシ者ハ本

人姓名ノ頭ニ(翌年回)(除役)(免役)等其要稱ヲ記註スヘシ

第七十二條 砲兵ニ編入スヘキ者ハ體格最健全ニシテ視力清明ナル者ヨリ之ヲ撰フヘシ例ハハ機關工、彫刻工、時計匠等ノ如キ職業ニ從事セシ者ハ近視ヲ發症スヘキ患アルヲ以テ之ヲ採用スヘカラス

第七十四條 砲兵ノ身幹ハ五尺四寸以上ヲ定尺トスト雖モ若シ此定尺ノ者ニテ徵員充實セサルハハ五尺三寸以上ノ者ヲ採用スヘシ

第七十五條 騎兵ニ編入スヘキ者ハ成ルヘク居常馬匹ヲ使用スルニ慣レタル者ヨリ之ヲ撰フヘシ

第七十六條 騎兵ノ身幹ハ五尺三寸以上ヲ定尺トスト雖モ若シ此定尺ノ者ニテ徵員充實セサルハハ五尺二寸以上ノ者ヲ採用スヘシ

第七十七條 工兵ニ編入スヘキ者ハ務テ木工、石工、竹工、船工、車工、鍛工、鞴工、桶工、泥工、馬具職屋根職茅屋根職、木挽職、指物職、建具職、穴藏職、棒削職、飾職、袖職等ヨリ之ヲ撰フヘシ

第七十八條 工兵ノ身幹ハ五尺三寸以上ヲ定尺トスト雖モ若シ此定尺ノ者ニテ徵員充實セサルハハ五尺二寸以上ノ者ヲ採用スヘシ

第七十九條 輜重兵ニ編入スヘキ者ハ成ルヘク居常馬匹ヲ使用スルニ慣レ且讀書算術ヲ爲シ得ル者ヨリ之ヲ撰フヘシ

第八十條 輜重兵ノ身幹ハ五尺三寸以上ヲ定尺トスト雖モ若シ此定尺ノ者ニテ徵員充實セサルハハ五尺二寸以上ノ者ヲ採用スヘシ

第八十一條 歩兵ニ編入スヘキ者ハ職業又ハ技能ノ有無ニ拘ハラズ身幹五尺以上ニシテ兵役ニ堪ユヘキ者ハ悉ク之ヲ採用スヘシ

第八十二條 輜重輸卒トシテ徵集スル者ハ僅少ノ疾患アルモ輸卒ノ勤務ニ支障ナキ者ハ之ヲ採用スヘシ

第八十三條 看病卒トシテ徵集スル者ハ僅少ノ疾患アルモ成ルヘク讀書算術ヲ爲シ得且容貌温和ナル者ヨリ之ヲ撰フヘシ

第八十四條 職工トシテ徵集スル者ハ僅少ノ疾患アルモ該職業ニ從事セシ者ヨリ之ヲ撰フヘシ

第八十五條 凡一検査所ノ検査全ク竣レハ徵兵副使ハ第七十二條ノ諸名簿ヲ點檢シ第十三書式ノ検査報告ヲ作り名簿ト共ニ抽籤以前時日ヲ刻シ使府縣徵兵署ヘ送ルヘシ

第八十六條 檢丁中事故アリ徵兵検査所ニ於テ戸主或ハ親族ノ願書ニ郡區長及ヒ戸長ノ添書ヲ以テ免役或ハ徵集猶豫出願ノ者アルハ徵兵副使及ヒ使府縣徵兵事務官之ヲ商議シ其願書ニ意見書ヲ添ヘ前條諸名簿送達同時ニ使府縣徵兵署ヘ送ルヘシ

第十二章 徵兵抽籤事務

第八十七條 徵兵使ハ徵兵検査全ク竣リ第八十五條ノ徵兵副使ヨリ送ル所ノ諸名簿並ニ検査報告等成規ニ適スルヤ否ヲ調査シ然ル後第十一書式ノ徵員配當表ニ基キ兵種ヲ區別シ兵種毎ニ徵兵令第四十五條乃至第四十九條ノ抽籤ヲ施行スヘシ

但一使府縣ノ管地兩師管ニ跨ルハ毎師管ニ各兵種ノ番號ヲ起スヘシ

第八十八條 抽籤施行ニ先キテ徵兵令第四十八條ノ籤丁名簿ヲ作り抽籤ノ節呼出シノ用ニ供スヘシ此名簿ハ使府縣徵兵區内(兩師管ニ跨ル者ハ每師管ニ跨ル)合格ノ壯丁ヲ一郡區ニ纏メ各自姓名ノ頭ニ其郡區町村ヲ附記スヘシ

第八十九條 抽籤施行ノ後徵兵令第四十八條ノ籤簿ヲ作ルヘシ此籤簿ハ兵種ヲ分チ當籤番號ノ順序ヲ以テ第十四書式ニ準シ之ヲ附記シ二部ヲ作り卷末ニ籤簿掛署名押印スヘシ

但落籤者ノ籤簿ハ別ニ一部ヲ作ルヘシ

第九十條 抽籤全ク竣ルノ後常備並ニ補充當籤ノ者ハ徵兵令第五十條ノ籤札ト番號割符ト引換ヘ渡シ落籤ノ者ハ追テ第一豫備徵兵編入ノ時軍管徵兵署ヨリ其番號割符ヲ附與スヘシ

第九十一條 徵兵令第五十六條但書ニ當ル入營延期前年送ノ者及ヒ同令第六十七條ニ當ル徵集規避ノ者並ニ定規ノ届出ヲ怠ル者ハ抽籤以前其人員ニ應シ第九十七條及ヒ第九十八條ノ順序ヲ以テ常備第一番ヨリ番號ヲ附著スヘシ

第九十二條 籤丁中常備軍服役志願ノ者ハ本人並ニ戸主ノ願書ニ戸長證印ノ上抽籤以前出願スルキハ使府縣徵兵署ニ於テ詮議ヲ遂ケ常備番號以內ノ籤ヲ抽カシムヘシ

但常備軍服役志願者ノ中兵種ヲ撰テ者ハ其身幹或ハ職業等ニ因リ詮議ノ上許可スヘシ

第九十三條 徵兵令第四十五條ノ各自便宜ニ依リ總代人ヲシテ抽籤セシムルキハ籤丁ノ姓名ヲ每郡區ニ纏メ美濃紙半葉ニ任所ヲ肩書シ三名若クハ四名籤丁名簿ノ順序ニ應記シ抽籤ノ席ニ備ヘ置キ抽籤總代人ヲ呼出シ籤丁名簿ノ順序ニ抽籤セシメ然ル後其籤札ヲ本人姓名ノ頭ニ貼附シ徵兵署ノ印ヲ捺シ一人毎ニ之ヲ截切り番號割符ト共ニ抽籤總代人ニ附シ本人ハ傳與セシムヘシ

第九十四條 前條番號割符及ヒ籤札ヲ抽籤總代人ニ附與シ左式ノ證書ヲ出サシムヘシ

右當籤ニ付番號割符並ニ籤札御渡相成正ニ致領收直ニ本人共ヘ可相渡候也

常備	補充	落籤
姓	姓	姓
名	名	名

年號月日

何使(府)(縣)徵兵署

御 中

姓 名 印

何使(府)(縣)何郡(區)抽籤總代

第九十五條 抽籤已ニ竣ルノ後自己ノ便宜ニ依リ籤ノ互換ヲ願フ者ハ使府縣徵兵區(兩師管ニ跨ル者ハ延師管)內ノ親族間ヲ限リ本人並ニ雙方戸主ノ願書ニ戸長證印ノ上出願スルキハ詮議ノ上之ヲ許可スヘシ

但使府縣徵兵署解散ノ後ハ本條ノ限ニ非ス

第十三章 常備兵編入順序

第九十六條 常備兵ニ編入スル者ノ順序左ノ如シ

第一項 徵兵令第六十七條ニ當ル徵集規避ノ者並ニ定期ノ届出ヲ怠ル者

第二項 徵兵令第五十六條但書ニ當ル入營延期ノ者

第三項 本年常備當籤ノ者

第四項 本年補充當籤ノ者

第九十七條 第九十六條第一項ニ當ル者ハ年長ノ者ヨリ又同年齡ノ者ハ誕生日ノ順序ニ從ヒ之ヲ編入スヘシ

第九十八條 第九十六條第二項ニ當ル者ハ同條第一項ノ者ニ次キ年長ノ者ヨリ又同年齡ノ者ハ誕生日ノ順序ニ從ヒ之ヲ編入スヘシ

第九十九條 第九十六條第三項ニ當ル者ハ同條第二項ノ者ニ次キ當籤番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編入スヘシ

第百條 第九十六條第四項ニ當ル補充兵ヲ常備軍ニ編入スルハ步兵ニ在テハ師管徵兵區内他ノ兵種ハ軍管徵兵區内ヲ平均シ當籤番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編入スヘシ

但步兵徵員若シ師管徵兵區内ニ於テ充實スル能ハサルキハ之ヲ軍管徵兵區内ニ平均シテ編入スヘシ

第百一條 補充兵ノ缺員ハ徵兵令第四十九條但書ノ落籤者ヨリ番號順序ニ從ヒ第百條ノ例ニ準シ之ヲ充實スヘシ

第百二條 軍管徵兵區内ニ於テ徵集人員不足スルキハ他ノ軍管ヨリ補缺スルヲ以テ其鎮臺ヨリ之ヲ陸軍省ヘ開申スヘシ

第十四章 徵兵簿冊並ニ表面調整

第百三條 徵兵使ハ抽籤竣ルノ後使府縣徵兵署ニ於テ徵兵令第五十三條ノ兵卒明細名簿及ヒ兵卒檢査名簿各二部ヲ調整スヘシ此名簿ハ當籤番號ノ順序ニ從ヒ常備補充ヲ分チ步兵ニ在テハ一師管他ノ兵種ハ一軍管ニ集成スヘシ

但落籤者ノ人別表及ヒ檢査表ヲ以テ本文名簿調整同時ニ第一豫備徵兵名簿二部ヲ作ルヘシ

第百四條 徵兵使ハ徵兵令第六十四條ノ免役料ヲ上納スル者アルキハ鎮臺款名ノ野紙ニ其金額及ヒ住所姓名ヲ附記シ免役料上納名簿ヲ作ルヘシ

第百五條 徵兵使ハ第五十六條ノ使府縣廳ヨリ差出ス所ノ諸名簿中筆削ヲ加フヘキ者ハ本簿ニ筆削ヲ加ヘ否ラサルモ亦共ニ其卷末ニ署名押印スヘシ

第百六條 徵兵使ハ前年送名簿入營延期前年送名簿及ヒ先入兵名簿並ニ本年徵集名簿中徵兵檢査所ニ於テ檢査ノ時各自姓名ノ頭ニ記註シタル要稱ヲ點檢シ其要稱ナキ姓名ノ頭ニ兵種並ニ常備補充落籤等ノ文字ヲ記註シ然ル後本簿ノ卷末ニ各自要稱ノ種類ヲ分チ合計ヲ掲ケ署名押印スヘシ

第百七條 徵兵使ハ前年送ノ者入營延期前年送ノ者及ヒ徵兵令第六十七條相當者ノ中ヨリ除役免役第二豫備徵兵又ハ徵集猶豫ノ者トナシ或ハ前年送及ヒ入營延期前年送ノ者ノ中ヨリ徵兵令第六十七條ニ相當スル者ノ如キハ各該簿ノ卷末ニ追加シ各自姓名ノ頭ニ其由ヲ詳記スヘシ

但除役免役及ヒ第二豫備徵兵ニ相當スル者ハ本年該簿ノ卷末ニ追加スヘシ

第百八條 徵兵使ハ使府縣巡同竣ルノ後第六十六條ニ示シタル徵員配當表ニ照較スルニ若シ徵員不足スル使府縣アルキハ第百條及ヒ第百一條ニ準シ補充並ニ落籤ノ者ヨリ之ヲ補ヒ名簿修正ヲ行フヘシ

但落籤者ヲ以テ補缺スルヲ要セサルキハ其落籤者ヘ軍管徵兵署ニ於テ徵兵令第五十條ノ番號制符ニ準シ第一豫備徵兵ノ番號制符ヲ作り使府縣廳ニ送達シ本人ヘ傳與セシムヘシ

第百九條 徵兵使ハ使府縣徵兵事務全ク竣ルノ後軍管徵兵署ニ於テ第十五第十六及ヒ第十七書式ノ表面ヲ作り徵兵令第五十三條及ヒ第五十四條ノ諸名簿並ニ書類ト共ニ第十八書式ノ書類目錄ヲ添ヘ之ヲ鎮臺司令官ヘ呈スヘシ

第百十條 鎮臺司令官ハ第百九條ノ徵兵使ヨリ差出ス所ノ書類ヲ受領シ其書類中兵卒明細名簿兵卒檢査名簿籤簿第一豫備徵兵名簿第二豫備徵兵名簿免役名簿免役料上納名簿及ヒ第十五第十六第十七書式ノ表面ヲ五月一日限リ陸軍省ヘ進達スヘシ

第十五章 新兵入隊前ノ扱

第百十一條 鎮臺司令官ハ徵兵令第五十五條ノ常備新兵入營ノ期ニ先タチ兵卒明細名簿兵卒檢査名簿及ヒ籤簿ヲ各師管後備軍司令官ニ送致シ又入營スヘキ人員及ヒ日限場所等ヲ管下使府縣廳ヘ通牒スヘシ

第百十二條 後備軍司令官ハ新兵入營ノ期ニ際シ前條鎮臺司令官ヨリ領收スル所ノ諸名簿ヲ其聯隊(聯隊ヲ爲サハル隊ニ在テハ大隊又ハ中小隊ニ在)ニ送附シ其聯隊ニ於テハ入營ノ期日ニ至リ兵卒検査名簿及ヒ鐵簿ヲ以テ各自ノ骨相並ニ所持ノ番號制符ト對照シ然ル後入營セシムヘシ

第百十三條 新兵入營已ニ竣レハ其聯隊(聯隊ヲ爲サハル隊ニ在テハ大隊又ハ中小隊ニ在)ニ於テ前條名簿中所要ノ件々ヲ謄寫シ其名簿ヲ直ニ後備軍司令官ヘ返附スヘシ又後備軍司令官ハ兵卒検査名簿ヲ鎮臺ヘ返附シ其他ノ名簿ハ後備軍本部ヘ備ヘ置クヘシ

第百十四條 第百十一條ニ示シタル如ク鎮臺ヨリ入營日限及ヒ場所等使府縣廳ヘ通牒アルトモ使府縣廳ニ於テハ最寄ヲ分テ其人員及ヒ場所ニ應シ附添人ニ名若クハ三名ヲ附シ一郡或ハ二郡トシ鎮臺或ハ營所ヘ交付スヘシ尤豫メ到著スヘキ時日ヲ鎮臺或ハ營所ヘ報知スヘシ

但到著時日ヲ期シ難キ島嶼ノ如キハ臨機ノ扱ヲナスコト本條ノ限ニ非ス

第百十五條 新兵入營以前番號制符ヲ損傷遺失スル者ハ其趣ヲ速カニ戶長ヘ届出テ戶長ハ其事由ヲ取糾シ全ク過失ニ係ル者ハ事由書ニ本人口書ヲ添ヘ郡區長ヲ經テ鎮臺或ハ營所ヘ差出シ又途中或ハ滯在中ニ在テハ附添人其事由ヲ詳カニ書テ本人口書ヲ直ニ鎮臺或ハ營所ヘ差出シ制符ノ新製ヲ願フヘシ鎮臺或ハ營所ニ於テハ事由書並ニ本人口書ヲ審察シ事實相違ナキトハ更ニ新製ノ制符ヲ附與スヘシ

第百十六條 新兵入營ノ期ニ臨ミ父母ノ重病或ハ死没等已ムヲ得サル事故ヲ生シ入營猶豫ヲ願フ者ハ親族ノ者ヨリ其事實ヲ詳記シ病氣ノ者ハ第一書式ノ最寄地地方醫師診斷書ヲ添ヘ戶長ノ與書證印ヲ以テ郡區長ヲ經テ鎮臺或ハ營所ヘ願ヒ出ルニ於テハ詮議ノ上二週日以内ノ延期ヲ許スヘシ

第百十七條 新兵入營ノ期ニ臨ミ徵兵令第五十六條ノ疾病犯罪等ニテ入營シ難ク鎮臺或ハ營所ヘ

届出ル者快氣又ハ事故已ニ止ムトモ最前ノ手續ヲ以テ届出ヘキハ勿論其年十月一日ニ至ルモ事故猶止マサル者ハ本人所持ノ番號制符ヲ添ヘ同月十五日限リ郡區長ヲ經テ使府縣徵兵支署ヘ届出ヘシ

但番號制符ハ使府縣廳ヨリ第五十六條ニ示シタル諸名簿送達同時ニ所管鎮臺ヘ送ルヘシ

第十六章 常備兵在營中除隊

第百十八條 徵兵令第二十七條乃至第三十條ノ除役免役及ヒ徵集猶豫ノ項目ニ當ル者ハ總テ徵兵検査以前ノ規則ニシテ入營後ノ法ニ非ス是故ニ常備兵在營中ハ其項目ニ當ル事故生スト雖モ一切之ヲ許サス然レモ同令第五十八條及ヒ左之三項ニ當ル者ハ詮議ノ上郷里ニ歸休セシメ或ハ之ヲ除役スヘシ

- 第一項 軍律徒刑以上ノ罪ヲ犯ス者
- 第二項 嘗テ犯罪アリ入營後其罪發覺シ常律ニ於テ懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ヲ受クル者
- 第三項 父或ハ兄死シ又ハ失踪又ハ廢疾不具等ニテ產業ヲ營ムコト能ハスニ在役者ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ失フカ如キ已ムヲ得サル事故生スル者

第百十九條 第百十八條第一項ニ當ル者ハ軍法會議ニ附シ裁決ノ後之ヲ除役スヘシ

第百二十條 第百十八條第二項ニ當ル者ハ地方裁判所ニ送致シ刑名宣告ノ後之ヲ除役スヘシ

第百二十一條 第百十八條第三項ニ當ル者ハ第十九書式ノ家族書又病氣ノ者ハ第一書式ノ最寄地地方醫師診斷書並ニ同郡區徵兵ノ戶主タル者二人以上ヲシテ事實ヲ證セシメ郡區長及ヒ戶長證印ノ上其管轄廳ヘ願出ヘシ管轄廳ニ於テハ之ヲ後備軍使府縣駐在官ヘ移シ駐在官署名押印シ更ニ管轄廳ヨリ近衛或ハ鎮臺ヘ申牒スヘシ尤地方醫師診斷書ハ近衛及ヒ東京鎮臺ニ在テハ陸軍本病

院其他ハ鎮臺病院醫官ニ於テ其診斷書ノ當否ヲ判定調印セシメ願書ト共ニ陸軍省ヘ差出シ許可ヲ請フヘシ

但戰時ニ在テハ本條ニ適當スル事故生スル者ト雖モ詮議ニ及ハサルヘシ

第百二十二條 第百十八條第三項ニ當ル者生兵術科卒業ノ後ナレハ常備服役年限中郷里ニ歸休セシメ滿期ノ上豫備軍ヘ編入シ又生兵術科未タ卒業ニ至ラサル者ハ之ヲ第一豫備徵兵ニ移スヘシ
第百二十三條 近衛兵ニシテ第百十八條第三項ニ當ル者ハ近衛局ニ於テ事由ヲ詳記シ名簿ト共ニ本人在籍地方ノ所管鎮臺ヘ引渡シ鎮臺ニ於テハ常備服役年限中郷里ニ歸休セシメ滿期ノ上之ヲ豫備軍ヘ編入スヘシ

第百二十四條 第百十八條第一項及ヒ第二項ニ當ル者ハ最前附與シタル番號割符ヲ近衛或ハ鎮臺ヘ引揚ケ同條第三項ニ當ル者ハ番號割符ノ裏面ニ事由ヲ記註シ更ニ之ヲ附與スヘシ

第十七章 補充兵

第百二十五條 徵兵令第五十一條ノ補充兵入營ハ各鎮臺ニ於テ毎年九月一日常備兵ノ缺員ニ應シ十一月一日ヨリ同月十日迄ニ第百條ニ示シタル順序ニ從ヒ入營セシムヘシ

第百二十六條 前條補充兵入營ノ後ハ本年常備兵入營延期ノ者及ヒ補充兵ヨリ常備軍編入ノ者ヲ每使府縣ニ兵種ヲ分チ番號姓名ヲ記シ十一月二十日限リ陸軍省ヘ差出スヘシ

第百二十七條 補充兵入營ノ期ニ臨ミ疾病犯罪等ニテ入營シ難キ者アルキハ其使府縣廳ニ於テ補充當籤番號ノ順序ニ從ヒ次番號ノ者ヲ操揚ケ召集人員ヲ充實シ入營セシムヘシ

但本條入營延期ノ者ハ徵兵令第五十六條ニ準シ翌年徵集ノ期ニ於テ更ニ檢査ヲ遂ケ尋常ノ徵兵ニ先タチ入營セシムヘキヲ以テ使府縣廳ニ於テ其名簿ヲ作り第五十六條ノ名簿送達同時ニ番號割符ヲ添ヘ所管鎮臺ヘ差出スヘシ

第百二十八條 補充兵服役中ハ其管内ヲ出ルヲ禁ス然レモ已ムヲ得サル事故ヲ生シ管地ヲ出ントテ欲スル者ハ其事實並ニ往ク所ノ地名ヲ詳記シ出願スルキハ該兵召集ニ支障ナキヤ否ヲ調査シ往復日數ヲ合セ二週日以内ハ其使府縣廳ニ於テ之ヲ許可シ二週日以外ハ所管鎮臺ノ許可ヲ請フヘシ

第百二十九條 補充兵服役中常備軍服役志願ノ者ハ本人並ニ親族ノ願書ニ戶長證印ノ上郡區長ヲ經テ所管鎮臺ヘ出願スル時ハ詮議ノ上當籤番號ノ順序ニ拘ハラヌ第百二十五條ノ補充兵召集ノ時之ヲ入營セシムヘシ

第百三十條 補充兵服役中身上ニ異動ヲ生スルキハ本人或ハ親族ノ者ヨリ郡區長ヲ經テ之ヲ後備軍使府縣駐在官ヘ届出ヘシ

第十八章 豫備徵兵

第百三十一條 徵兵令第二十六條ノ第一豫備徵兵ハ戰時或ハ非常ノ事故アリ兵員ヲ要スル時ハ其人員ニ應シ當籤番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ召集スヘシ

第百三十二條 徵兵令第五十一條但書ニ當ル補充兵ヨリ第一豫備徵兵ヘ編入スル者ハ曾テ附與シタル番號割符ノ裏面ニ該兵編入ノ事由ヲ記註シ更ニ之ヲ附與スヘシ

第百三十三條 第一豫備徵兵服役中身上ニ異動ヲ生スルキハ本人或ハ親族ノ者ヨリ郡區長ヲ經テ直ニ後備軍使府縣駐在官ヘ届出ヘシ

第百三十四條 第一豫備徵兵服役中旅行セント欲スル者ハ其往先ヲ詳ニシ戰時或ハ非常召集ノ命アルニ當リ速カニ歸家シ召集ニ應スヘキ後證ヲ以テ後備軍使府縣駐在官ヘ届出テ然ル後旅行スヘシ

但本人旅行中召集ノ命アルキハ直ニ之ヲ通報スヘキ親族ノ者ヲ定メ電キ其姓名住所ヲ記シ本

條屆書ト共ニ駐在官ヘ差出スヘシ

第三百二十五條 徵兵令第三十六條ノ第二豫備徵兵ハ戰時或ハ非常ノ事故アルニ當リ第一豫備徵兵

ヲ召集シ尙兵員ヲ要スルキハ其人員ニ應シ之ヲ召集スヘシ

第三百二十六條 第二豫備徵兵ハ平時ニ在テハ一般人民ト異ナルコトナシト雖モ他行ノ者ハ戰時或ハ

非常召集ノ命アルニ當リ速カニ歸家スヘシ

第三百二十七條 凡豫備徵兵ハ年齡三十一歳ニ至レハ別ニ命ナクシテ豫備徵兵ノ籍ヲ除セラレタル者ト心得ヘシ

第十九章 雜則

第三百二十八條 徵兵令第二十八條第一項但書第三項乃至第五項及ヒ第二十九條第一項ノ年齡五十歳云々ノ五十歳ハ其子弟等ノ徵集ニ應スヘキ年ノ一月ヲ以テ丹界ト爲スヘシ

第三百二十九條 府縣並ニ開拓使函館支廳管下ヨリ同使管下未タ徵兵ヲ行ハサル土地ヘ單身寄留ノ

者ハ本籍地ニ歸リ徵集ニ應シ全戸寄留ノ者ハ平時免役ニ屬スヘシ又同地ヨリ府縣並ニ函館支廳

管下ヘ單身寄留ノ者ハ平時免役ニ屬シ全戸寄留ノ者ハ府縣並ニ函館支廳管下本籍ノ人民ト同ク

徵集ニ應セシムヘシ

但府縣並ニ函館支廳管下ヘ全戸寄留ノ者ハ徵兵令第六十一條ノ屆書ヲ其寄留府縣廳又ハ函館支廳ヘ差出スヘシ

第三百四十條 徵兵令第二十八條及ヒ第二十九條ノ項目ニ當ル者ニシテ兵役志願ノ者ハ服役中一切

苦情申立テサレ後證ヲ以テ戸主(本人戸主ナレハ親族)ノ願書ヘ戸長與書證印ノ上郡區長ヲ經テ徵兵検査

所ヘ出願スルキハ詮議ノ上之ヲ採用スヘシ

但本年徵兵相當ニ非サル者ト雖モ年齡二十一歳以上二十五歳迄ニシテ兵役志願ノ者ハ本條ノ

例ニ準ス

第三百四十一條 徵兵令第六十四條ノ免役料ハ検査ノ上合格者而已之ヲ徵收スヘシ尤其免役料ハ使

府縣廳ニ取纏メ五月中ニ陸軍省ヘ納ムヘシ

但本條免役料上納願書ハ第二十書式ニ準シ徵兵令第六十五條ノ手續ヲ以テ徵兵検査所ヘ差出

スヘシ

第三百四十二條 前條免役料上納ノ者一使府縣内ニ幾人アルモ之カ爲メ其使府縣徵兵區内ノ定員ヲ

減スルコトナシ

第三百四十三條 第四十五條ニ示シタル徵集規避ノ嫌疑アル者ハ下検査官員ノ意見書ニ因リ使府縣

徵兵署ニ於テ本人ヲ審査シ其情狀全ク嫌疑ナキハ除役スヘシト雖モ嫌疑猶判然セサルキハ事

由ヲ詳記シ地方裁判所ヘ送附シ同所ニ於テ審判ノ上之ヲ處分スヘシ

第三百四十四條 徵兵令第六十七條ノ徵集規避ノ者並ニ定規ノ届出ヲ怠ル者ハ同令第二十八條及ヒ

第二十九條ノ項目ニ相當スト雖モ一切之ヲ免役セス然レトモ父或ハ兄死シ又ハ失踪又ハ癡疾不具

等ニテ產業ヲ營ムコト能ハス本人ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ失フカ如キ事實已ムヲ得サル

者ハ第三百二十一條ノ手續ヲ以テ其使府縣廳ヨリ所管鎮臺ヘ申牒シ鎮臺ヨリ陸軍省ヘ開申スルキ

ハ詮議ニ及フヘシ

第三百四十五條 常備新兵ハ徵兵令第五十五條ニ據リ四月二十日ヨリ五月一日迄ニ入營セシムルヲ

以テ各自入營ノ時日ニ不同アルモ服役年期ノ計算ハ其入營年ノ四月二十日ヨリ起算スヘシ

第三百四十六條 常備軍滿期ニテ豫備軍ヘ編入スル者又豫備軍滿期ニテ後備軍ヘ編入スル者ノ服役

年期ノ計算ハ其編入年ノ四月二十日ヨリ起算スヘシ

第三百四十七條 凡使府縣徵兵署又ハ徵兵検査所ヘ差出スヘキ願書並ニ屆書ハ使府縣徵兵署ニ宛テ

願書ハ三通ヲ出サシメ二通ハ徵兵使及ヒ使府縣徵兵事務長ノ後證トシ一通ハ之ニ指令シテ本人ヘ下附スヘシ又屆書ハ二通ヲ出サシメ徵兵使及ヒ使府縣徵兵事務長ヘ領收スヘシ
第一書式地方醫師診斷書其一

使府(縣)郡區(町)村番地住族及ヒ職業

姓 名

年號月日生

右ハ天資強實ニシテ嘗テ病患ニ罹リシコナシ(實)本年何月何日田圃耕作中忽然惡寒發熱歸家直ニ臥褥ニ就キ某ニ診察ヲ乞フ爾來水瀉日ニ三四行舌乾口渴熱度隨テ昇進四十度ヲ越ヘ一周ノ後胸腹ニ於テ紅疹ヲ發シ肝脾ノ濁音廣大シ耳鳴重聽飲食ヲ思ハス(症候經)室扶斯熱ト(病)診察シ規尼涅頓挫法酸類リモナラズ滋養飲料醋水ノ洗身法等ヲ施シ(注)已ニ四周ヲ經過シ諸證漸次ニ快癒ニ赴キ候得共全身衰弱復セサルニ付(後)步行ナシ難ク及診斷候也或ハ何々症ヲ繼發シ所詮治癒ス可カラサル者ト及診斷候也

使府(縣)郡區(町)村番地住

治療主任

何 某 印

右診斷書及調査候也

使府(縣)某病院長(衛生掛)

何 某 印

第一書式地方醫師診斷書其二

使府(縣)郡區(町)村番地住族及ヒ職業

姓 名

年號月日生

右ハ天資虛弱ニ幼穉ノ時腺病ニ罹リ數年ノ醫治ニ由テ全治ス五年來壯健ナリト雖モ體質ハ中等ノ者タリ(實)明治何年何月何日山林撿伐ノ時左膝關節ヲ打撲シ右ノ脛骨ヲ折斷ス即時不動繃帶冷卷法ヲ施シ疼痛已基ナルニ由テモルヒ子少許ヲ與ヘテ之ヲ緩解ス顯今腫脹ハ減スレモ折骨癒合ヲ得サルヲ以テ更ニギブス繃帶ヲ施シ安臥靜養セシム(經過病名)以往何個月モ相立候ハ、平癒ニ至ル可ク(後)及診斷候也或ハ膝關節強直ヲ遺殘シ所詮治癒ス可カラサル者ト及診斷候也

使府(縣)郡區(町)村番地住

治療主任

何 某 印

右診斷書及調査候也

使府(縣)某病院長(衛生掛)

何 某 印

第二書式

明治何年何使府(縣)徵兵下檢査身幹表

徵兵(軍)務官 官姓名印

郡區	五尺四寸以上	五尺三寸以上	五尺二寸以上	五尺一寸以上	五尺以上	五尺未満	計
度							

考	備	總計							
---	---	----	--	--	--	--	--	--	--

本表ハ身體下検査ヲ遂ケ本検査ニ出頭スヘキ者ノミヲ記載スヘシ

第二書式除役名簿

用紙美濃紙 (△印ハ朱書)

在所	本人姓名	備考	徵兵令第二十七條ノ者	族職業	生年	何郡區何町何丁目何番地	何村何番地	何町何丁目何番地	何村何番地
			右眼失明	何族農	何年 何月 何日	何郡區何町何丁目何番地	何村何番地	何町何丁目何番地	何村何番地
				平民工	何年 何月 何日	何郡區何町何丁目何番地	何村何番地	何町何丁目何番地	何村何番地
				平民農	何年 何月 何日	何郡區何町何丁目何番地	何村何番地	何町何丁目何番地	何村何番地

在所	本人姓名	備考	徵兵令第二十七條ノ者	族職業	生年	何郡區何町何丁目何番地	何村何番地	何町何丁目何番地	何村何番地
			徵役 何年						

△年號何事故	同	何使府縣
何町平民工	同	
△年號何病氣	同	
何町平民農	同	
△身體毀傷	同	
何町平民商	同	
△疾病作為	同	
以下倣之		
合計幾人		
第七書式 徵集名簿	用紙使府縣款名ノ美濃野紙	
何郡(區)		
身體下検査濟之部	戶主名何男兒(弟(伯)叔)總	
何村士族農	何 某	
	年號月日生	

何町平民商	同	何使府縣
疾病ニテ身體下検査未濟之部		
何村平民農	同	
何事故ニテ下検査未濟之部		
何村平民工	同	
以下倣之		
合計幾人		
第八書式 國民軍名簿	用紙美濃野紙 (△印ハ朱書)	
本人姓名	△同	
	某	
	△同	
	年號月日生	

明 治 年 第 何 軍 管									
常 備 軍									
師 管	使 府 縣	兵 種	步 兵	騎 兵	砲 兵	工 兵	輪 重 兵	計	步 兵
△第									
一									
△第									
二									
△第									
三									
△計									

表中兵種隊數ノ區畫ハ各鎮守所要ノ兵種隊數ニ應シ之ヲ増減スヘシ
第十一書式

用紙美濃紙 (△印ハ朱書)

徵 兵 員 配 當 表					
考 備	補 充 兵				
	騎 兵	砲 兵	工 兵	輪 重 兵	計

第十二書式

用紙美濃紙

徵 兵 巡 回 日 割 表									
地 類 名 別	府	同 檢 查 場	同 檢 查 場	同 檢 查 場	何 縣	里 數	行 程	發 著 月 日	何 月 何 日 何 時 發 下 發
	何	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何	何
	何	何	何	何	何	何	何	何	何

第十八書式

用紙額登錄名ノ美濃野紙

第何軍管徵兵書類目錄

使府縣	除役名簿	免役名簿	免役料上納名簿	第二豫備徵兵名簿	整年回名簿	先入兵名簿	前年送名簿	入管延期前年送名簿	前年送先入兵名簿	徵集名簿
何冊	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
計										

兵卒明細名簿 補何冊

外 何鎮臺

兵卒檢査名簿	第一豫備徵兵名簿	籤簿	諸願屆並證書	第何軍管徵兵表	同 徵兵職業表	同 徵兵身幹表	同 徵兵巡回日誌	同 何使府(縣)徵兵景況書	年號月日
補何冊	何冊	補何冊	何括	四葉	一葉	一葉	何冊		

第十九書式 家族書

使府(縣郡)區町(村)番地住族及上職業

戶主 姓 名

年號月日 明治年月何年何ヶ月 日生

父 某

母 某 同同

右之通相違無御座候也

年號月日入營

祖父	某	同同
祖母	某	同同
長男	某	同同
次男	某	同同
長女	某	同同
次女	某	同同

年號月日 日生
明治年月何年何月

使(府)縣(郡)區(町)村

戶長 姓 名 印

第二十書式 免役料上納出願書

戶主名何男(兄)弟(伯)叔(甥)附籍

右本年二十歳ニ相成徵集ニ可應之處家事故障有之免役料金二百七十圓上納仕候間何卒國民軍ノ外兵役御免除相成度此段奉願候也

年號月日

何使(府)縣(郡)徵兵署

御 中

何使(府)縣(郡)區(町)村何族職業

姓 名 印

前書出願之通相違無御座候也

年號月日

何郡(區)町(村)戶長

姓 名 印

達

○達甲第一號 (二月十七日)

各鎮臺各軍管徵兵使并府縣

本年徵兵人員別表之通致徵募候條此旨相達候事 (別表)

明	軍	管	第一軍管	第二軍管	第三軍管	第四軍管	第五軍管	第六軍管	第七軍管	計
常	兵	種	管	管	管	管	管	管	管	管
步	二	千	九	千	二	千	三	千	三	千
四	百	七	百	十	五	十	十	十	十	十
八	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
○										
七										
人										

第二條 近衛鎮臺或ハ營所ニ於テ前條ノ稟請ヲ受タル時ハ其官等若クハ勳等ニ應シ定則ノ兵員ヲシテ之ニ從ハシムヘシ

但此葬式ニ從フヘキ者ハ正服着用ノ例ニアリ

第三條 鎮臺若クハ營所ノ外ト雖ヒ兵員常屯スル地方ニ在テ此式ヲナシ得ヘキ時ハ前條ニ準シテ施行スルヲ許ス

第四條 士官學校及教導團隊附將校以下ノ葬式ニ在テハ會葬式第十條ヨリ第十三條ニ至ル例ニ準據シ該隊ニ於テ之ヲ行フヘシ

(改)第四條 士官學校教導團隊附將校ノ葬式ニ在テハ會葬式第四條ヨリ第八條ニ至ル例ニ準據シ之ヲ行ヒ東京憲兵隊軍用電信隊將校以下ノ葬式ニ在テハ同式第十條ヨリ第十三條ニ至ル例ニ準據シ該隊ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五條 准士官ニハ少尉ニ準テ之ヲ行フヘシ隊外下士以下ニハ總テ此式ヲ行フ事ナシ

第六條 會葬式第二十二條吊銃ノ法ハ其兵員ヲ定メスト雖ヒ概シ其葬式ニ從フ所ノ兵員三分一以下タルヘシ

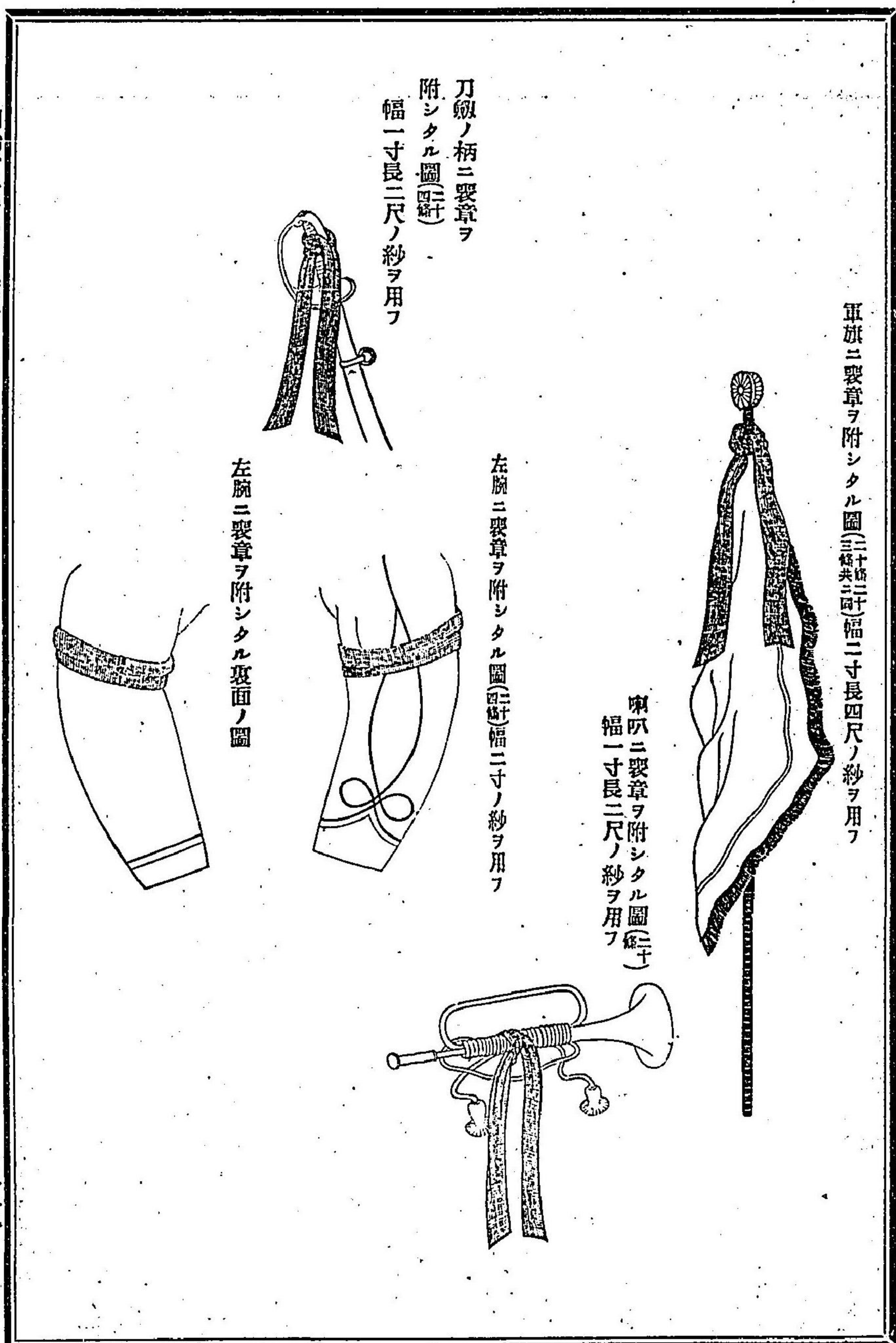
第七條 會葬式第二十條軍旗並喇叭ノ蓋ヒ同第二十三條軍旗ノ喪章同第二十四條將校ノ喪章等ノ黒布其製左ノ圖ノ如シ

但死者ノ何人タルヲ問ハス其葬式ニ會スル武官准士官以上並ニ喇叭ニハ必ス此喪章ヲ附スル者トス

(追)第八條 此禮遇ヲ受クヘキ者死亡シ特ニ葬祭掛ヲ置レタルキハ其掛長ヨリ儀仗兵ノ派遣ヲ東京ニ在テハ陸軍省各地ニ在テハ鎮臺ニ稟請スルモトス

十五年陸軍省達乙
第十四號改正十七
年同達甲第四十七
號達ヲ以テ再改正
二十年陸軍省達
第六十四號達ヲ以
テ軍用電信隊廢止

十七年陸軍省達甲
第四十四號達ヲ以
テ第八條追加



○達甲第四號 (三月十二日 輪廓附)

府 縣

去ル十年鹿兒島賊徒征討之際戰死或ハ陣中傳染病ニ罹リ死亡スル軍人之寡婦孤兒等ヨリ陸軍恩給令ニ依リ扶助出願之儀昨十一年一月十四日附達甲第一號ヲ以テ相達置候處今以出願不致向モ有之不都合不少候右扶助出願之儀ハ恩給令第六十五條未款揭示之通其死亡ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ願書ヲ呈スヘキ成規ニ候ヘ此回ノ儀ハ別段ノ詮議ヲ以テ本年六月二十日マテ猶豫候條右日限マテニ恩給令ニ依リ出願可致者ハ無遲滯其筋ヘ願書可差出此旨更ニ相達候事

但恩給令附錄第一條ニ適當ノ者一時ノ扶助ヲ願出候期限並去ル九年熊本ノ役戰死軍人ノ遺族扶助出願期限之儀モ亦タ本文同様可相心得事

○達甲第五號 (三月十五日 輪廓附)

鎮臺府縣

常備各種兵ノ中去ル十年西南之役戰死又ハ負傷者ノ爲メ夥多ノ缺員ヲ生シ同年徵募兵ヲ以其際臨時ニ致補缺候付テハ本年四月新兵入營之上ハ常備兵定額ニ若干ノ過員ヲ生スヘク候條右過員ノ分ハ十年徵募兵ノ中ヨリ別冊ニ照準歸休可申付候此旨相達候事

明治十年徵募常備兵歸休概則

第一條 明治十年徵募ノ常備各種兵中技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ本年ノ新兵入營以前徵兵令中徵兵編成並ニ概則其第一七條ニ準シ歸休セシムヘシ

但在營ヲ希望スル者ハ本條ノ限ニアラス

第二條 歸休ヲ命スル人員ハ其鎮臺ヨリ之ヲ各聯隊(聯隊ヲナサハル隊ニ在テハ大隊又ハ中隊以下聯隊トアル者皆例之)ニ布達シ聯隊ニ於テ人名ヲ調査シ該臺司令長官ニ申告スヘシ

第三條 歸休ヲ命スルニ先テ左式ノ歸休證書ヲ製シ各自出營ノ時之ヲ授與セシムル爲

メ聯隊ニ下付シ又其住所姓名ヲ每府縣ニ區別シ所管後備軍司令ニ送達スヘシ

五寸

常備兵歸休證書

明治十年徵兵		步兵第何聯隊第何大隊第何中隊或ハ砲工騎重兵第何大(中)(小)隊何等卒
何	何	府(縣)郡(區)町(村)戸主名何男(元)第(伯)(叔)(甥)(厄介)
何	何	兵種第何番
何	何	入營第何番
右入營以來勤務勉勵技藝熟練ニ付一ケ年間歸休申付候事		

歸休兵心得

- 一 歸休兵既ニ歸郷スレハ直ニ其地ノ戸長(區内ノ町村ニシテ區長ヲ以テ戸長ノ事務ヲ兼スルモノハ其區長)へ届出
- 一 戸長ノ與書印ヲ以テ若後三日以内ニ所管駐在官へ届出ツヘシ
- 一 歸休中ハ在營ノ心得ヲ以テ他出スルモ其府縣管内ヲ出ツルヲ禁ス
- 一 歸休中ト雖モ陸軍ノ法令ヲ違奉シ且地方ノ命令ニ服従スヘシ
- 一 召集ノ命アルハ其達書到着ノ時ヨリ二十四時間以内ニ郷里ヲ發程シ迅カニ歸營スヘシ

第四條 歸休ヲ命シタル兵卒ニハ豫テ支給スル被服ノ内前期ノ略帽夏冬衣袴短靴各一箇及ヒ手牒ヲ其儘附與シ別ニ桐油ノ雨衣一枚ヲ給シ銃器並右ニ掲クル品目ノ外服類靴背蓋等ハ悉皆聯隊ニ返納セシムヘシ

但返納セル銃器並背蓋當期ノ服類靴等ハ該隊ニ備置召集ノキ之ヲ附與スヘシ又歸休中終ニ召集ノ命ナクシテ第十三條ニ準シ郷里ニ於テ第一後備軍ニ編入スル者ハ其聯隊ヨリ銃器正服背蓋ヲ除クノ外之ヲ後備軍司令ニ送り復習ノ用ニ供セシムヘシ

第五條 歸休ヲ命セラレタル者ハ歸休證書ヲ所持シ歸郷旅中ハ官給ノ被服ヲ著シ靴ヲ穿ツヘシ而シテ召集ノ命アルニ當リ之ヲ著用シテ歸營セシムル者タルカ故ニ常ニ郷里ニ於テ著用スルヲ許サス

第六條 歸休兵既ニ歸郷スレハ直ニ其地ノ戸長(區内ノ町村ニシテ區長ヲ以テ戸長ノ事務ヲ兼ヘタルモノハ其區長以下戸長トアル者皆倣之)ニ届出戸長ノ與書證印ヲ以テ着後三日以内ニ所管駐在官ヘ届出ツヘシ

第七條 歸休中ハ在營ノ心得ヲ以テ他出スルモ其府縣管內ヲ出ルヲ禁ヌ而シテ召集ノ命アルキハ其達書到着ノ時ヨリ二十四時間以内ニ郷里ヲ發程シ迅カニ歸營スヘシ

第八條 歸休中同府縣内ニ其身元轉居スルキハ迅カニ左ノ第一書式ノ通り戸長ノ姓名與書證印ヲ以テ郡區長ヲ經テ所管駐在官ヘ届出該官ヨリ後備軍司令ヲ經テ鎮臺及ヒ其本隊ヘ報告スヘシ若シ他府縣ヘ身元轉籍スルキハ同軍管ナレハ左ノ第二書式ノ通り他軍管ナレハ同式中兵籍御送方ノ字ヲ第何軍管常備軍ヘ御編入替ト認メ前手續ヲ以テ願出ツ可シ

但第二書式ニ準シ願出ル者ハ後備軍司令其本臺ヘ具狀シ之ヲ施行スヘシ

第一書式
私身元此度何郡區何町村ヘ轉居仕候間此段御届申上候以上

年號 月 日

年號 徵兵兵種

郡區町村任族職業
何 某 印

何府縣後備軍駐在官

官 姓 名 殿

前書之通相違無御座候以上

郡區町村戸長

何 某 印

第二書式

私身元此度何府縣何郡區何町村ヘ轉籍仕候間兵籍御送り方相成度此段奉願候以上

年號 月 日

年號 徵兵兵種

府縣郡區町村任族職業
何 某 印

第何師管後備軍司令

官 姓 名 殿

前書之通相違無御座候以上

府縣郡區町村戸長

何 某 印

第九條 歸休中郷里ニ在テ死没等總テ身上ニ異動ヲ生スル時ハ前條第一書式ニ準シ迅カニ其戸主ヨリ戸長ノ與書證印ヲ以テ郡區長ヲ經テ所管駐在官ヘ届出該官ヨリ後備軍司令ヲ經テ鎮臺及ヒ其本隊ヘ報告スヘシ

第十條 歸休兵ヲ召集スルキハ鎮臺ヨリ直ニ所管後備軍司令ニ達シ司令ハ之ヲ其府縣駐在官ヘ達

スヘシ

但歸休兵召集ノ旅費ハ徵兵參考第三十一條ニ準シ支給スヘシ

第十一條 駐在官ハ前條後備軍司令ノ命ヲ受クレハ後備軍召集條例第十三條ノ例ニ準シ直ニ召集ノ達書ヲ作リ其歸營スヘキ人員ニ應シ通行免狀ヲ併セ其郡區長ニ送達スヘシ而シテ郡區長直ニ之ヲ歸休兵ニ通達シ通行免狀及ヒ旅費ヲ渡シ其兵卒ヲシテ第七條ニ準シ召集ノ達書到著ノ時ヨリ二十四時間以內郷里ヲ發程セシムヘシ

但通行免狀ハ各兵歸營ノ上其聯隊ニ取纏メ後備軍本部ニ返付スヘシ

第十二條 前條召集ノ命アルニ當リ本人病氣ニテ歸營シ難キ者ハ迅カニ本人ノ願書ニ最寄地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ戸長ヘ差出スヘシ而シテ戸長其事實ヲ取糺シ相違ナキニ於テハ與書證印ノ上郡區長ヲ經テ所管駐在官ヘ届出該官ヨリ後備軍司令ヲ經テ鎮臺及ヒ其本隊ヘ報告スヘシ

第十三條 歸休中終ニ召集ノ命ナクシテ常備服役期限滿ル者ハ後備軍官員服務概則第八條ニ照準シ郷里ニ於テ直ニ第一後備軍ニ編入スヘシ

但本文第一後備軍ヘ編入スル者歸郷ノ節附與セシ所ノ被服ハ徵章ヲ除去シ其他雨衣靴等本人ノ私有トスヘシ

第十四條 歸休兵郷里ニ在テ罪ヲ犯ス者ハ後備兵ノ郷里ニ在テ罪ヲ犯ス者ノ扱ト總テ異ナルヲナシ

達甲第二十三號達ヲ以テ改正

○達甲第六號 (四月八日 輪原附)

府 縣

共武政表編纂之儀ニ付明治九年達第五十五號ヲ以相達候處今般別紙雜形並説明書之通改正候條明治十一年分即チ本年一月一日調ヨリ右改正之通調製シ可差出此旨相達候事
但明治十一年分調査済既ニ差出候向モ更ニ本文之通改正可差出事

(別紙)

郡名		何		何		何		合計							
編日	人	女	男	女	男	女	男	女	男						
口	口														
物産	物産														
牛	牛														
馬	馬														
荷車	荷車														
人力車	人力車														
船舶	船舶														
電線	電線														
郵便局	郵便局														
何郡人口一百以上幅輳地															
地名	人	口	戸數	官廳	寺院	學校	屠場	水車	物産	牛	馬	車	輻	船	船
○何	女	男													
△何	女	男													
□何	女	男													
×何	女	男													

凡ソ市街村落等ニシテ電信局及ヒ郵便局アル者及ヒ電信線路ニ當ル者ハ雜形ノ通其地名ノ傍ニ左

明治十二年五月六月 陸軍省 達 達甲第八號 達甲第九號 達甲第十號 達甲第十一號

八四八

本表ハ毎年二月八月ノ兩月一日調ニシテ只當時充分ニ實用ニ差支ナキモノノミヲ掲ケ可シ

達甲第十九號達ニ依リ消滅

○達甲第八號 (五月十五日 輪廓附)

府 縣

補充兵服役之儀徵兵令第五章第十一條但書揭示之通九十日之定期ニ有之候處本年之徵兵各府縣其一般寡少ニシテ殊ニ第一及第四軍管ノ如キハ常備徵員夥多之缺員ヲ生シ定尺未滿ノ者ニ至ルマテ之ヲ徵募シ猶不足ノ分ハ最寄軍管ニ於テ交互補缺ノ法ヲ行ヒ漸ク常備徵員ノミ充實致候次第ニ付爾後此常備兵中缺員ヲ生スルキハ之ニ充ツヘキ補充兵無之候條追テ何分ノ儀相達候迄本年補充兵服役延期候様可取計此旨相達候事

○達甲第九號 (六月十二日 輪廓附)

府 縣

明治十年賊徒征討中負傷療養ノ末(同十一年七月臨時招魂祭ノ後)死没候者並去ル戊辰ノ役ニ非命ノ死ヲ遂ケ候舊米澤藩士堀尾啓助松本誠藏等來ル廿四日東京九段坂上ニ於テ招魂祭被爲行自今同所靖國神社へ合祀相成候條爲心得此旨相達候事

但死者有之府縣ハ本文之趣其遺族へ厚ク可申開候事

○達甲第十號 (六月十四日 輪廓附 內務卿海軍卿連署)

府 縣

東京招魂社之儀今般靖國神社ト改稱別格官幣社ニ被列候ニ付テハ來ル廿五日臨時祭典被爲行爾後祭日左ノ通被相定候條此旨相達候事

五月六日 十一月六日

○達甲第十一號 (六月二十六日 輪廓附)

府 縣

本年四達甲第七號ヲ以各廳ノ官有立會社或ハ人民所持之船舶取調方之儀相達候處雜形中不明瞭之廉モ有之調査區々相成候ニ付今般別紙雜形之通改正候條左之ケ條ニ照準シ取調可差出此旨更ニ相達候事

十六年陸軍省達甲第十號達ニ依リ消滅

但本年八月一日調ヨリ本文ニ準シ候儀ト可心得事

(別紙)

一 毎年二月八月ノ兩月一日調ヲ以四月十月ノ兩度ニ差出スヘシ但其時實用ニ差支ナキ船ノミヲ掲ケヘシ

一 河海沼湖ヲ論セス運漕ノ用ニ適スル船ハ悉皆掲ケヘシ

一 確タル定繫地無之カ或ハ散在セル村落ニ屬スル分ハ沿岸凡ソ三四里毎ニ取纏メ其首立タル地名ヲ掲ケヘシ

一 河海沼湖ニ在テ耕作一途ニ用ユル免税船ノ如キモ有事ノ際物品運漕ニ差支ナキ者ハ之ヲ掲ケヘシ

一 五十石未滿ノ船ハ船數ノミヲ調其石數間數ハ掲クルニ及ハス

一 表中區畫ノ内其種類ノ船舶無之分ハ雜形ノ如ク○ヲ記スヘシ

(△印ハ米惠)

日	形	西		船名	噸	數	馬	力	所持人姓名	定繫地名
		蒸	氣							
五百石以上	走	帆	氣	△何々々	△幾	何	△幾	何	△在	△何
二百石以上	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△
定繫地名	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△
船數	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△
總石數	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△	△△

明治十二年六月 陸軍省 達 達甲第十一號

八四九

本		形	
百石以上	△	百石以上	△
五十石以上	△	五十石以上	△
五十石未満	△	五十石未満	△
二十石以上	△	二十石以上	△
十石以上	△	十石以上	△
十石未満	△	十石未満	△

十四年陸軍省達甲第十三號達三依リ

○達甲第十二號 (七月五日 輪廓附)

陸軍軍人結婚ノ節出願ノ儀別紙ノ通相定候付テハ自今後備軍籍ニ在ル者結婚ノ節ハ郡區長及ヒ戸長ノ奥書照印ヲ以テ直ニ其府縣駐在官ヘ差出候様可取計此旨相達候事
但離婚若クハ其婦ノ死去スルハ亦本文ニ準シ速ニ駐在官ヘ届出候様可致事

(別紙)

陸軍武官恩給令發行相成候ニ付テハ自今軍人結婚ノ節ハ願書差出可得許可事
但准士官以上ハ各所管長官ヲ經テ本省ヘ差出シ下士以下常備服役ノ者ハ所管長官ニ於テ開届ケ後備軍籍ニ在ル者ハ駐在官ヘ願書差出シ後備軍司令ヲ經由シ本臺司令長官ニ於テ可開届尤準士官以上以下トモ追テ婚姻相整候節本人ヨリ爲届出下士以上ハ報告規則ニ依リ報告可致事

○達甲第十三號 (七月五日 輪廓附)

(本文ハ東京鎮臺元豫備砲兵第一大隊第二小隊生兵太田浦次郎捕縛ノ件略ス)

○達甲第十四號 (七月三十一日 輪廓附)

明治九年太政官第六十號道路改定御達以來各府縣下ニ於テ道路之方向ヲ變換シ或ハ是迄之渡船場へ橋梁ヲ架設シ又ハ山路ヲ鑿開シ河渠掘割等致シ候箇所別紙雛形ニ準シ夫々取調可差出尤自今變換改設等之節ハ其都度同様取調可差出此旨相達候事

(別紙)

一何國何郡經過之國縣里道何町村字某所ヨリ何町村字某所マテ何里何町何間幅何間圖面之通新道開設

但圖面ハ適宜ニ製シ新舊道路共記載候事

一何國何郡何町村ヨリ何村ヘ亘ル國縣里道何川渡船場ヘ長サ何間幅何間(木橋石橋釣橋鐵橋土橋舟橋等)架設

但其地ノ畧圖ヲ添ヘ車馬之通否等ヲ記載候事

一何國何郡何町村ヨリ何町村ニ至ル國縣里道何山道何里何町何間幅何間新道鑿開或ハ故道修理

但其地ノ畧圖ヲ添ヘ車馬ノ通否等ヲ記載候事

一何國何郡何町村字某所ヨリ某所マテ長サ何間幅何間通船之爲メ或ハ耕事用水之爲メ圖面之通掘割

○達甲第十五號 (八月五日)

府 縣

(本文ハ元教導團工兵中隊第一小隊二等生徒服部邦雄人相書略ス)

○達甲第十六號 (十月三日 輪廓附)

今般陸軍士官學校生徒入學差許候ニ付華土族平民中志願ノ者ハ來ル十月五日ヨリ十一月五日迄東京ニ於テ陸軍士官生徒検査官ヘ入學心得書第五條ニ揭示スル願書ヲ差出スヘク尤志願者心得書並本年ノ検査格例別紙ノ通候條此旨布達候事
但校中諸規則等ノ詳細ヲ承知致度者ハ士官學校ヘ出願可承合事

(別紙)

明治十二年士官學校生徒検査格

第一條 検査ヲ分テ五則トス

第一則 年齢

第二則 體格

第三則 文學

第四則 算術

第五則 外國學

第二條 第一則即年齢ハ滿十六歲以上滿二十二歲以下タルヘシ

但シ年齢ヲ算スルニハ本年十二月ヲ以テ期トス

第三條 第二則即體格ノ検査ハ軍醫之ヲ掌リ検査官之ニ參座ス其陸軍部内ノ者ト雖モ更ニ此検査

ヲ行フヘシ軍人ニシテ各地方ニ在ル者ハ其長官隊附軍醫ヲシテ之ヲ診斷セシム

但シ身長五尺以上タルヘシ

第四條 第二則即文學ノ検査ハ其科目ヲ分テ二トス

其一 讀書

甲 漢文 有^八點^八外^八史^八政^八記^八

乙 同 無^八點^八外^八家^八大^八本^八史^八

其二 作文

甲 往復文真片假名文

乙 漢文

但シ検査場ニ會スル者字書ハ勿論一切ノ書籍ヲ携帯スルヲ許サス

第五條 第四則即算術ノ検査ハ左ノ科目トス

甲 整數分數

乙 比例

丙 代數

丁 幾何平面

第六條 第五則即外國學ノ検査ハ英佛學ヲ修學セシ者ニ限り左ノ科目ヲ以テ之ヲ試ム

甲 會話

乙 和譯

丙 復譯

右三件中會話ノミヲ解シテ作文ヲ能セサル者若クハ作文ヲ能シテ會話ヲ解セサル者ハ共ニ其能

スル所ノ者ノミヲ検査ス

第七條 検査ノ順序ハ幾百人ニ限ラス志願ノ者ハ總テ第一則第二則合格ノ上第三第四ノ二則ニ及

フ而シテ第五則即外國學ノ検査ヲ請フ者ハ又其検査ヲ爲ス

第三第四及第五則中其検査ヲ受ル者ノ各科毎ニ若干ノ點數ヲ與ヘ其難易ニ從ヒ值數ヲ乘シ總點

數ヲ比較シテ總人員ノ優劣表ヲ作り其上等ノ者ヲ選ヒ更ニ之ヲ審査シ定員丈ケヲ採用スヘシ

但シ若シ検査目中ノ一科ニ於テ其點數合格セサルアレハ縱令總點數ニ於テ優等ナルト雖モ採

用セス

陸軍士官學校生徒入學心得書

第一條 本校生徒ハ入學當日ヨリ衣服及ヒ一切ノ費用悉皆官給ノ事

第二條 修學ノ期限ハ兵種ニヨリ同シカラス歩兵騎兵科ハ三ヶ年砲兵工兵科ハ四ヶ年トス

第三條 入學生徒検査ノ科目ハ別紙格例ニ示スカ如シ
 第四條 入學志願ノ者ハ終身陸軍ニ従事スルノ志望ヲ有スル者ニシテ其入學ノ日敢テ他志ナキノ誓書ヲ爲サシム故ニ入校ノ後ハ自己ノ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス但シ病ニ依リ修學ニ堪ヘ難キ者ハ軍醫ノ診断ニ依リ之ヲ處分ス若シ學術不勉強品行不正等ノ者アルキハ詮議ノ上之ヲ退校セシメ在校中ノ費用ヲ辨償セシムル者トス
 第五條 入校志願ノ者ハ身元引受人ヨリ學校長ヘ宛テ左式ノ願書並ニ當人履歷書ヲ添ヘ検査官ヘ差出スヘシ
 第六條 身元引請人ハ二名ニシテ父兄親族或ハ判任以上ノ官ニ奉仕セル者又ハ戸主ニシテ一家ヲ爲ス者ニ限ル
 但シ本文引受人ノ内壹名ハ必ス在東京ノ者タルヘシ

士官學校入學願

何府縣華土族平民

父(兄)何男(弟)

姓

名

年號何年何月何日生

明治十二年十二月何年何ヶ月

右之者此度士官學校へ入學奉願候間御検査之上御採用被下度入校ノ上ハ御規則嚴重ニ爲相守若シ學術不勉強又ハ品行不正等ヨリ退校相成候節ハ當人在校中ノ費用ハ私共ヨリ上納爲致可申且當人身上之儀ハ何事ニ寄ラス私共引受可仕候依而此段奉願候以上

身元引請人

何府(縣)何族(平民)

年號 月 日

何國何郡何町何番地任寄留

姓 名 印

陸軍士官學校長

官 姓 名 殿

何府知事

姓 名 印

何縣令

前書之通相違無之候也

○達甲第十七號 (十月七日 陸軍省)

常備歸休兵後備兵及ハ教導團生徒旅費概則左ノ通相定候條該則ニ照準シ繰換給與可取計此旨相達候事
 但明治十年當省達甲第十三號同十一年達甲第十四號達ハ廢止トス

常備歸休兵後備兵及ハ教導團生徒旅費概則
 第一條 常備歸休兵召集及ハ後備兵召集ノ節並ニ教導團生徒入團ノ旅費ハ十里詰金四拾錢滞在日當金貳拾貳錢ヲ給スヘシ

第二條 但十里以上ノ端里數一里以上六里未滿ハ日當ノ半數六里以上二日ノ額ヲ給ス

第三條 教導團生徒志願ノ者検査場ヘ往復ノ旅費ハ十里詰金貳拾四錢滞在日當金貳拾貳錢ヲ給スヘシ

但十里以上ノ端里數ハ前條ニ準ス

第二條 近方片道六里以上十一里未滿ハ日當金貳拾四錢三里以上六里未滿ハ日當ノ半數ヲ給シ二里未滿ハ之ヲ給セス若シ一泊スルキハ三里以上一日ノ額ヲ給シ三里未滿ハ旅籠料トシテ金拾六錢ヲ給スヘシ

十四年陸軍省達甲第二十二號達ヲ以テ改正

十三年陸軍省達甲
第二十八號達ヲ以テ第
十五號改正

十六年第四十六號
布告十七年第十八號
達布達ニ依リ消滅

十三年陸軍省達甲
第六號達ヲ以テ第
一項中改正

十三年陸軍省達甲
第六號達ヲ以テ第
二項中改正

者

- 第十二號 手足ノ全失左右ヲ論セス一肢ヲ缺損スル者
- 第十三號 右手若クハ左手拇指ヨリ第三指以上缺損スル者
- 第十四號 四肢ノ甚シキ癒著或ハ四肢ト軀幹ト癒著スル諭ヘハ火傷後ニ於ケルカ如シ
- 第十五號 身軀五尺尺曲未滿ノ者(徵兵事務條例第八十二條乃至第八十四條ノ職)
- 第四條 前條ニ掲ケル所ノ顯著ナル病症缺損アルモ托偽疑似過實作爲等ニ出ル者ハ其事由ヲ詳記シ徵兵事務官及ヒ使府縣徵兵事務官ヘ開申スヘシ
- 第五條 地方徵兵醫員已ニ徵兵下檢査所ニ於テ除役ノ部ニ鑒別シタル者ト雖モ時宜ニ由テハ徵兵醫官其家ニ就キ又ハ本人ヲ呼出シ查覈スルコトアルヘシ
- 第六條 地方徵兵醫員ハ徵兵事務條例中其職務ニ關スル所ノ成規ハ總テ之ヲ遵守スヘシ
- 達甲第二十二號 (十一月十七日 輪附)
- 鎮臺府縣
- 今般第四十六號布告徵兵令改正ニ付取扱方別紙之通相心得調査致候様可取計此旨相達候事
- (別紙)
- 第一項 徵兵令第二十八條項目中第一項第三項及ヒ第四項但書並ニ第二十九條第一項但書ニ當ル者ハ徵兵令改正布告即チ本年十月二十七日ヲ以テ區分トナシ同日以前已ニ戸主トナリ或ハ年齢五十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫又ハ五十歳以上ニシテ嗣子ナキ者ノ養子或ハ相續人トナリ又ハ年齢五十歳未滿ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫トナリタル者ハ國民軍ノ外兵役ヲ免シ或ハ平時ニ於テ兵役ヲ免シ同日以後ニ係ル者ハ總テ徵集ニ應セシムヘシ
- 第二項 徵兵令第三十三條ニ揭示ノ同令第二十八條第四項第六項第八項第二十九條第四項乃至第十項及ヒ第三十條第六項第七項ニ當ル者ハ徵兵令改正布告即チ本年十月二十七日ヲ以テ區分ト

十三年陸軍省達甲
第六號達ヲ以テ第
三項中改正

- ナシ同日以前ニ係ル者ハ該項ニ據リ免役又ハ猶豫トシ同日以後ニ係ル者ハ徵集ニ應セシムヘシ
- 第三項 從來翌年回徵兵ハ徵兵令第三十四條ニ準シ之ヲ調査スヘシ但徵集規避ノ見認アル者ハ本條ノ限ニ非ス
- 第四項 徵兵令第六十七條ノ定規ノ届出ヲ怠ル者ハ本年其届出ノ時限既ニ經過スルヲ以テ之ヲ同條ニ當テスシテ尋常ノ徵兵同様取扱フヘシ
- 第五項 本年國民軍籍ニ入ル者ハ文久二壬戌年二月ヨリ文久三癸亥年正月迄ニ出生ノ者ヲ相當トス此人員中文久二年二月ヨリ十二月迄ニ出生ノ者ハ昨十一年已ニ管轄廳ニ於テ調査済ナルヲ以テ文久三年正月出生ノ者ノミ本年之ヲ調査シ而シテ來十三年同軍籍ニ入ル者ハ文久三癸亥年二月ヨリ元治元甲子年正月迄ニ出生ノ者ヲ以テ相當トシ爾後年々此例ニ依リ調査スヘシ
- 第六項 來十三年ノ徵兵ハ安政六己未年二月ヨリ萬延元庚申年正月迄ニ出生ノ者ヲ相當トス此人員中安政六年二月出生ノ者ハ已ニ本年ノ徵集ニ應セシヲ以テ同年三月ヨリ萬延元年正月迄ニ出生ノ者ヲ調査シ而シテ明治十四年ノ徵兵ハ萬延元庚申年二月ヨリ文久元辛酉年正月迄ニ出生ノ者ヲ以テ相當トシ爾後年々此例ニ依リ調査スヘシ
- 第七項 來十三年徵兵相當ノ者ハ本年三限リ郡區長ニ於テ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ調査シ徵兵事務條例第二十二條ニ示シタル壯丁名簿ヲ成規ノ如ク調整シ來ル十二月二十日限リ使府縣徵兵支署ヘ差出スヘシ但徵兵事務條例第十二條乃至第十五條ニ示シタル諸書類ハ成ルヘク取揃ヘ本文名簿送達同時ニ徵兵支署ヘ差出スヘシ
- 第八項 徵兵支署開設ノ時限ハ本年ニ限リ其使府縣ノ適宜ヲ以テ之ヲ定メ成規ノ如ク調査スヘシ但成規ノ如ク調査シ難キ事件ハ其由ヲ詳記シ第九項ニ示シタル徵兵諸名簿送達同時ニ使府縣廳ヨリ所管鎮臺ヘ差出スヘシ

第九項 徵兵令第六十一條ノ徵兵諸名簿ハ本年ニ限り來十二年一月三十日迄ニ使府縣廳ヨリ所管

鎮臺へ差出スヘシ

第十項 徵兵令第三十八條ノ人別表及ヒ同令第三十九條ノ検査表ハ使府縣廳ニ於テ別紙雛形ノ如ク美濃紙半葉ニ之ヲ調製スヘシ又別紙圖面ノ身幹度尺ヲ製造シ各検査所ニ備ヘ置ヘシ(別紙略ス)

○達甲第二十三號 (十一月十八日 輪傳附)

府 縣

共武政表編纂之儀ニ付明治九年達第五十五號及ヒ本年達甲第六號ヲ以テ相達置候所令般別紙之通雛形竝ニ説明書共改正致候條來明治十二年調ヨリ右ニ準據シ調製可差出此旨更ニ相達候事

(別紙)

説明書

第一條 郡名ノ條ニ載スル人口以下ハ各郡ニ就テノ總數及ヒ其名目(物産等)ヲ載セ之ヲ細別シ又人口一百以上ノ部ニモ再記スヘシ

第二條 人口一百以上ノ輻輳トハ連橋橋比群居スル者ヲ指ス點々散居スル者ヲ合算スルニ非ス

第三條 人口一百以上ニ上レル地ノ二三村ニ跨ル者ハ土俗ノ稱呼最多キ方ニ從テ之ヲ舉ケ其他ノ人口戸數等ヲ之ニ合算シ其傍ニ但何村何戸何人何村何戸何人合何戸何人是ヲ土俗何驛(町村)ト唱フル等ノ意ヲ記スヘシ(附箋若クハ欄外ニ書スルモ妨ナシ)

但舊藩ノ著名ナル者及ヒ何人ニモ知得セルト認定スル宿驛等ハ此限ニ非ス

第四條 人口一百以上輻輳地中ニシテ電信局及ヒ郵便局アル者及ヒ電信線路ニ當ル者ハ雛形ノ通其地名ノ上ニ左ノ符號ヲ記スヘシ

郵便局

電信局

○一等

×二等

一線路

△三等

□四等

□五等

第五條 物産ノ區ニハ米麥雜穀蔬菜食獸魚類乾物及ヒ木材薪炭等ノ如キ兵事ニ必要ナル者

ニシテ多量ニ産スル者悉ク舉テ密ニ其名ヲ記スヘシ

第六條 戸數人口其他ノ件々ハ凡テ一月一日ニ於テ前年ノ分ヲ調査シ其年三月限り差出スヘシ

明治十二年分ヲ同十三年一月一日取調十三年三月限り差出スヲ云フ年々皆同シ

第七條 電線ヲ除クノ外ノ計算ハ凡テ數字ヲ用ユヘシ而シテ千位ニハ位點ヲ施スヘシ

但第三條ニ當ル付箋若クハ欄外若クハ但書等ハ此限ニアラス

第八條 三都及ヒ其外ニテ區ノ名稱ニ係ル者ニ區以上アルトキハ區毎ニ之ヲ別ツヘシト雖モ第三條ノ例ヲ用ユルニ及ハス唯一區ニ止ル者モ亦然リ

第九條 區ノ一郡若クハ兩郡ニ係ル者ハ郡中ニ就キ區ヲ引キ去リ其區ヲ人口一百以上ノ部ニ記シ

尙區外ノ鄉村ニ於テ別ニ人口一百以上ノ地アラハ之ヲ並記スヘシ

第十條 物産以下空白ニ屬スヘキ區畫ニハ〇ヲ附スルニ及ハス

第十一條 料紙ハ美濃紙ヲ用ユヘシ

國名 東西何里何丁 南北何里何丁

各郡幅員人口物産牛馬車船電線郵便表

郡名	幅員	人口	物産	牛	馬	荷車	人力車	船	電線	郵便局
----	----	----	----	---	---	----	-----	---	----	-----

明治十二年十一月 陸軍省 達 達甲第二十三號

達甲第二十七號達ヲ以テ戸數ノ一區ヲ増ス

地名	戸數	人口		口物	産官	厩寺	院學	校居	場水	車牛	馬	乘	車	輪	船	
		男	女													
何	東西二里八丁 南北五里十丁	男 1,334	女 1,331	2,555	何々											一里二十 四尺五間
何	東西三里六丁 南北四里十二丁	男 348	女 345	693	物産多キ其ハ區畫ヲ廣ク スルモ妨ケナキヲ示ス											三三三三 三三三三
何	東西五里三丁 南北三里三十二丁	男 1,033	女 1,033	2,066	何々											一里八丁 十九間
合計	合算スルニ及ハス	男 2,585	女 2,569	5,264	合算スルニ及ハス											合算スル ニ及ハス
人口一百以上輻輳地																
何 郡																
地名	戸數	人口		口物	産官	厩寺	院學	校居	場水	車牛	馬	乘	車	輪	船	
何	八三三	男 633	女 563	1,175												
但何町(村)何戸何人何村(町)合何戸何人土俗何ト唱フ																
何	二五	男 803	女 700	1,503												
何 郡																
地名	戸數	人口		口物	産官	厩寺	院學	校居	場水	車牛	馬	乘	車	輪	船	
何	八三三	男 633	女 563	1,175												
何 郡																
地名	戸數	人口		口物	産官	厩寺	院學	校居	場水	車牛	馬	乘	車	輪	船	
何	二五	男 803	女 700	1,503												

地名	戸數	人口		口物	産官	厩寺	院學	校居	場水	車牛	馬	乘	車	輪	船	
		男	女													
何	八三三	男 633	女 563	1,175												
何	二五	男 803	女 700	1,503												
何 郡																
地名	戸數	人口		口物	産官	厩寺	院學	校居	場水	車牛	馬 <td>乘</td> <td>車</td> <td>輪</td> <td>船</td>	乘	車	輪	船	
何	八三三	男 633	女 563	1,175												

○達甲第二十四號 (十一月二十日)

東京警視本署
府 縣 東京府
ヲ除ク

(本文ハ元東京鎮臺輻輳重兵中隊第一小隊生兵小山龜吉人相書略ス)

府 縣

○達甲第二十五號 (十二月十六日 輪原附)

陸軍ニ從事シ西南ノ役ニ於テ功勞アル者ヘハ追々相當御賞與可相成ノ處右ハ凱旋ノ後軍律將校
ハ降官以上上下ハ降等以上兵卒ハ答以上ノ刑ヲ被リタル者及國事犯又ハ除族並懲役實決ノ刑ニ
該ル歟或ハ舊惡滅免贖罪收贖セラルト雖モ其罪破廉恥甚ニ係ル等ノ罪ヲ犯シ法衛ノ處分ヲ受ケ
タル者ヘハ一切賞與不相成候就テハ追々傳達方其府縣ヘ相達候節ハ傳達ノ以前詳細取調若右刑ヲ
被リタル者有之時ハ返納候儀ト可相心得此旨相達候事

府 縣

○達甲第二十六號 (十二月二十日 輪原附)

各兵隊下士兵卒共徵兵令ニ照シ召募スル者ヲ除ノ外府縣貫屬替或ハ養子及ヒ離縁並族籍變換改姓
名等有之節ハ其管轄廳ヨリ本人所管廳ヘ准士官以上並文官ハ本省ヘ可届出旨去ル明治六年布第二
百二十六號同九年達第六十九號ヲ以テ相達置候處右ハ本人ヨリ夫々其所管ヘ直ニ可届出旨ニ付自

明治十二年十一月 陸軍省 達 達甲第二十四號 達甲第二十五號 達甲第二十六號

今府縣廳ヨリ別段届出ニ不及候條此旨相達候事

○達甲第二十七號 (十二月二十日 輪廓附)

府 縣

本年十一月達甲第二十三號ヲ以テ相達置候共武政表雜形ノ各郡幅員人口物産牛馬車船電線郵便表中幅員ノ下人口ノ上戸數ノ一區畫致増加候條此旨更ニ相達候事

○達甲第二十八號 (十二月二十七日 輪廓附)

陸軍各局各官廳 府 縣

陸軍蹄鐵工生徒概則別冊之通相定候條此旨相達候事

(別冊)

陸軍蹄鐵工生徒概則

第一條 蹄鐵工生徒ハ蹄鐵工ニ要用ナル學術ヲ教授シ卒業ノ上蹄鐵工トナシ騎砲工輜重兵ノ諸隊

並ニ調馬厰等ニ分屬シ其職務ヲ奉セシムル者ナリ

第二條 蹄鐵工生徒ハ華土族平民並ニ鎮臺ノ兵卒中志願ノ者ニシテ檢査定格ニ合スル者ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 生徒修業ノ期ハ概テ滿二ケ年トシ卒業ノ者ニハ其證狀ヲ附與シ諸隊並ニ諸厰ニ於テ欠員

アル毎ニ始メテ二等蹄鐵工ヲ命シ之ニ分屬セシムル者トス

第四條 凡蹄鐵工服役期限ハ二等蹄鐵工ヲ命スル日ヨリ十ケ年トシ前七ケ年ハ現役ニ服セシメ後

三ケ年ハ後備役ニ服セシム

第五條 現役滿期ニ至リ再役セシムヲ請願スル者ハ詮議ノ上更ニ三ケ年ノ役ニ服スルヲ許シ後備

役ヲ免ス

第六條 蹄鐵工中學術ニ長シ才能拔群ナル者ハ下士ニ任ス而シテ其服役年期ハ前役ト通算シテ十

十三年陸軍省達甲第三十一號達ヲ以テ廢止
十九年陸軍省達第十七號達第十七號達參看
二十一年勅令第四十二號ニ依リ消滅

十八年陸軍省達第三十九號達參看

ケ年トシ後備役ヲ免ス

第七條 服役已ニ其期限ニ滿ルト雖ヒ戰時若シクハ非常戒嚴實地演習等ノキハ之ヲ延期スルコトアルヘシ

第八條 生徒中別チテ一級二級ヲ置ク其二級ヨリ一級ニ進ムハ學術進歩ノ景況ニ依リ伸縮スルコトアルヘシト雖ヒ概テ十二ケ月以上修業セシ者ニ非レハ昇級セシメサルヲ例トス

第九條 生徒授業ノ科目ハ蹄鐵工生徒教則表ニ掲載スル所ノ如シ

第十條 生徒中ハ被服食料及ヒ諸器械等總テ官費トシ且手當金若干ヲ給ス

第十一條 生徒中ハ定例日ノ外一切休暇歸省ヲ許サス

第十二條 生徒中ハ退舍ヲ許サス然レハ卒業ノ日途ナキ者又ハ病患ニテ其業ニ堪ヘ難キ者ハ檢査

ノ上退舍セシムヘシ

但兵卒ヨリ入舍セシ者卒業ノ日途ナキキハ營隊ニ復歸セシム而シテ入舍年限ヲ通算シ常備服

役ヲ終ル者ハ直ニ豫備軍ニ入ラシムヘシ

第十三條 脩業中行狀不正ニシテ罰科多キ者ハ脩業ヲ差止メ更ニ三ケ年間軍馬局ノ小使等ニ使役

スルコトアルヘシ

第十四條 蹄鐵工生徒志願ノ者檢査ノ項目左ノ如シ

其一 年齡 自十八年至二十五年

其二 身長 四尺九寸以上

其三 體質 強壯ノ者

其四 作文 通常書翰往復ヲナシ得ル者

其五 讀書 眞假名交リノ文ヲ讀ミ得ル者

其六 數學 加減乗除ヲナシ得ル者
 第十五條 前條其一其二其四其五及其六ハ検査官之ヲ檢シ其三ハ醫官之ヲ檢シ合格ノ者ハ更ニ一週間通學セシメ實試ノ上入舍スルヲ許ス
 第十六條 入舍志願ノ者ハ二人東京居住ノノ身元引請人ヲ以テ左式ノ願書ヲ陸軍軍馬局ニ差出ス
 ヘシ

華土族平民願書式
 蹄鐵工生徒入舍願

使府(縣)何族(平民)職業
 戶主名何男(兄)弟(伯)叔(甥)附籍

何國何郡何所産
 何國何郡何町何番地住寄置

姓 名
 年齡 當何月 何年何ヶ月

右之者此度蹄鐵工修業奉願候間御検査ノ上御採用被下度入舍ノ上ハ御規則嚴重ニ爲相守可申且又當人身上ニ於テハ何事ニ依ラス私共引受可申依テ此段奉願候以上
 身元引受人

使府(縣)何族(平民)
 東京府下何郡區何町何番地住寄置

姓 名 印

年 號 月 日

同

陸軍軍馬局長

同

前書之通相違無之候也
 官 姓 名 殿

使府(縣)長官知事令姓名印

兵卒願書式

蹄鐵工生徒入舍願
 等級

姓 名
 何年何ヶ月

同

同

合何人

右當隊兵卒蹄鐵工修業志願者ニ付名簿寫相添エ差出候間御検査ノ上入舍御差許相成度候也
 所管兵種隊號隊長

年 號 月 日

官 姓 名 印

軍馬局長

官 姓 名 殿

第十七條 華土族平民中志願ノ者検査合格ノ上ハ入舍シテ軍人トナリ遂ニハ下士ノ任ヲモ蒙ルヘキヲ以テ入舍ノ時左ノ如ク誓文牒ニ署名捺印シ其志操ノ確實ヲ證セシム
 誓文

今般陸軍蹄鐵工生徒入舍御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且卒業ノ上御定則ノ服役年間ハ假令ヒ病氣ト雖モ陸軍醫官ノ診斷ニ依ラス免役ヲ請願致シ候等ノ儀

明治十二年十二月 陸軍省 達 達第百二十八號 (陸軍師範工生徒規則)

八六八

ハ毛頭任間敷候依テ誓文如件
年號 月 日

同 同 姓 名 印

十七年陸軍省達シ
第五十號達ヲ以テ
銃器以下七字ヲ以テ
銃器以下七字ヲ以テ
ニ改メ
器機作業ノ六字

考 備	科 補		科 本	
	徒 歩	騎 兵	鍛 冶	撰 鐵
補科ハ本科ノ餘暇ヲ以テ演習セシメ概テ本科ト共ニ卒業セシム可シ補科採練中銃器ノ使用技藝ヲナサレメス 表中科目卒業期月ヲ示スト雖モ進歩ノ遲速ニ從ヒ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ	生 兵 運 動	生 兵 運 動	各 種 造 蹄 鐵	尋 常 裝 蹄
	豫 行 運 動	乘 馬	蹄 鐵 提 要	各 種 裝 蹄
	加 減 乘 除 小 數 四 則	算 術	分 數 比 例	各 種 造 釘
	蹄 鐵 提 要	算 術	蹄 鐵 提 要	各 種 別 毛 髮 束

年次	初年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年
入 舍	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日
卒 業	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日
服 役	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日
免 役	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日	一 月 一 日

蹄鐵工生徒入舍卒業並服役期限概表

二十年陸軍省陸達
第六十七號達ヲ以
テ廢止

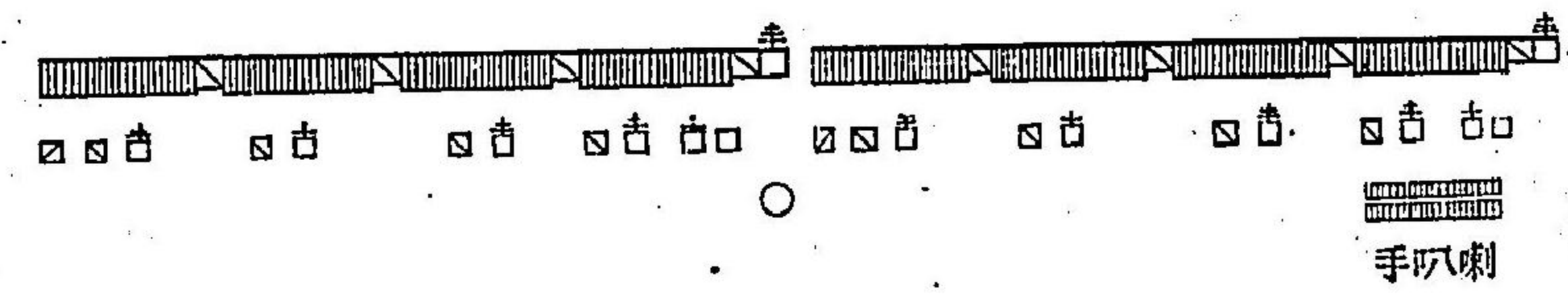
○達乙第一號 (二月十一日)
步兵大隊橫隊圖及中隊橫隊圖別表之通改正候條此旨相達候事
(別表)

陸軍全部

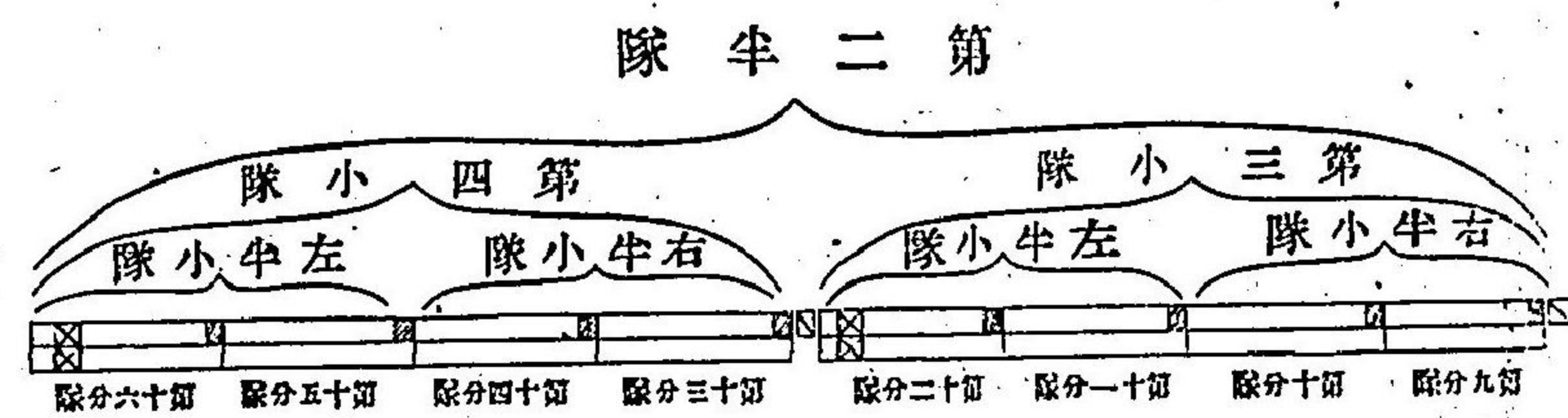
明治十二年一月 陸軍省 達 達乙第一號

八六九

隊之圖

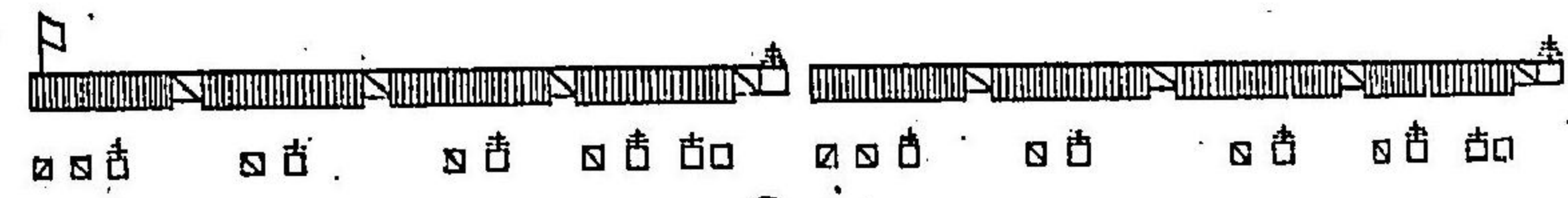


隊之圖



□ 隊長
 □ 炊事掛
 □ 隊卒

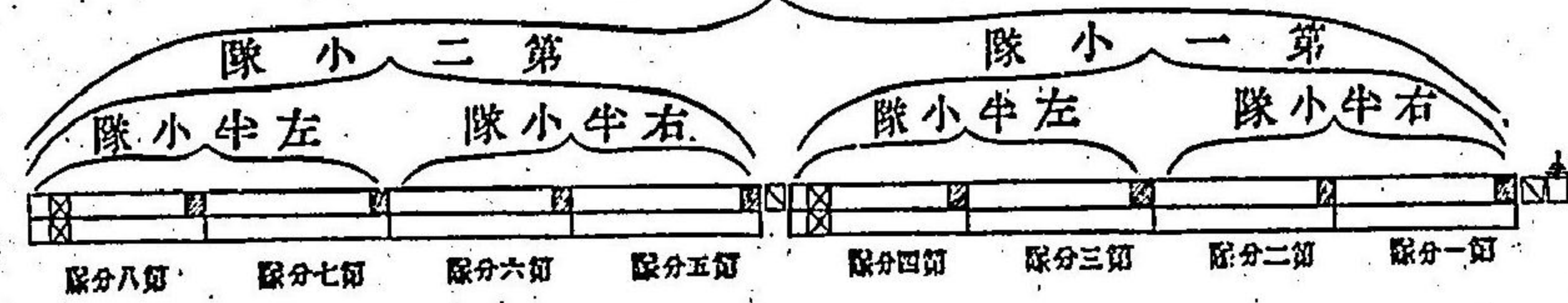
大 隊 橫



□ 大隊長
 ○ 副官
 ○ 下副官

中 隊 橫

第 一 半 隊



□ 中隊長
 □ 第二小隊長
 □ 第四小隊長
 □ 第一小隊長
 □ 第三小隊長
 □ 小隊副長
 □ 半小隊長
 □ 給養掛

二十年陸軍省達
第三百三十三號
依リ消滅
二十二年陸軍省達
第三百七十八號
達第七十八號
ヲ以テ重隊手帳控
廢止以下依之

○達乙第二號 (二月二十三日 輪廓附)
隊外下士以下手帖取扱規則別紙之通相定候條此旨相達候事

(別紙)

隊外下士以下手帖同控取扱規則

第一條 隊外下士以下手帖同控ハ華土族平民ヨリ陸軍ニ出身シタル下士以下ノ隊外及ヒ隊屬ニシテ列外ノ者 砲兵監以下火工致頭諸工長會計部書記者病人以下馬醫部馬之ヲ用フヘヤ者トス其受取方本省各局ニ在テハ局長ヨリ第五局長ニ照會シ其他各所管ニ在テハ所管長ヨリ其管セル(被服陣營課)ニ達シテ現品ヲ其(本局)ニ受取所管名族籍履歷等都テ步兵科手帖書式ニ倣ヒ手帖控(會計官)ニ記載シ但隊外手帖中日給食料宅料被服代金ヲ登記スルノ區儘ヲ設ケス故ニ月々其支給共同ニ記載シ高ヲ記スニ及ハス唯第四條以下轉任或ハ甲乙所管ヲ轉スルハ何月分迄給料其他支給消ノ旨ヲ末葉手帖ハ本人ニ附與シテ隨帶セシメ控ハ其本課ニ迴附スヘシ故ニ各課長或ハ一分課首官ニ於テ手帖控ヲ管理シ其事務ヲ取扱フ可シ

第二條 被服其他物品初度支給ノ應ニ於テハ該所管長官ヨリ通報ニ從ヒ本人ヲシテ其應ニ出願セシメ其隨帶ノ手帖中名稱品目ノ部分ニ給與品ノ員數及ヒ年月ヲ記注シテ之ヲ返附シ本人ハ其手帖ヲ所轄ノ本課ニ出シ該課ニ於テハ其旨ヲ手帖控ニ騰寫シテ手帖ハ直ニ本人ニ返附スヘシ

第三條 爾後被服諸品ハ保存期限ヲ逐ヒ定期ニ因テ順次之ヲ支給スルヲ以テ其支給ノ應ニ於テハ支給ノ毎度本人ヲシテ其應ニ出願セシメ其隨帶手帖中名稱品目ノ部ニ給與ノ員數及ヒ年月ヲ記注シ本人ハ之ヲ所轄ノ本課ニ出シ該課ニ於テ之ヲ手帖控ニ騰寫スル等都テ前條ニ同シ

第四條 同職務ヲ奉シテ甲乙所管ヲ轉スルハ其手帖控ヲ甲所管ヨリ乙所管ニ送附シ本人ハ隨帶手帖ヲ乙所管ニ出ス可シ乙所管ニ於テハ之ヲ甲所管ヨリ送附スル所ノ控ニ照合シ更ニ所管名及ヒ命課年月日等ヲ同一ニ記注シテ手帖ハ本人ニ返附シ控ハ其本課ニ迴附シ且其由ヲ被服諸品支給ノ應ニ通報ス可シ爾後給與ノ定期ニ至リ該應ニ於テ員數年月ヲ記注シ本課ニ於テ之ヲ控ニ騰寫スヘキハ亦前條ニ同シ尤同所管内ニ甲乙分課ヲ轉スルハ其手帖控ヲ甲課ヨリ乙課ニ迴附シ其他都テ本條ニ準ス可シ

第五條 隊付ヨリ其所管ニ轉任スルハ假令ヘハ步兵科下士ノ類 元所管ヨリ其手帖控ヲ新所管ニ送附シ及ヒ本人隨帶手帖ヲ新所管ニ出ス等前條ニ同シ而シテ新所管ニ於テハ其手帖ト控トヲ照查シテ手帖ハ其儘本人ニ附與シ控ハ其所管ニ留メ更ニ隊外手帖同控ニ第一條ノ如ク記載シテ手帖ヲ本人ニ附與シ控ヲ其本課ニ迴附ス可シ

第六條 各兵科ニシテ隊外ノ職務ヲ奉スル者ハ該兵科ノ手帖ヲ隨帶セシメ其手帖同控取扱方ハ隊外ニ異ナルコトナシ又隊外ノ手帖ヲ隨帶スル者隊屬トナルハ從前ノ手帖ヲ其儘隨帶セシメ取扱方ハ該隊同控ノ法ニ依ル可シ但諸工長同下長ニ在リテハ更ニ該隊附下士ノ手帖同控ニ換ヘ從前ノ隊外手帖ハ其儘本人ニ附與シ置ク可シ

第七條 後備軍駐在所及衛戍等ノ内各所懸隔ノ地ニ在ル者ハ被服其他ノ給與アル毎ニ之ヲ給與ノ應ヨリ其受領ノ期月並品目員數ヲ手帖記載ニ準シ別紙ニ記シテ給與品ト共ニ本人ニ附與ス本人ハ之ヲ手帖ニ粘貼シ置キ追テ本部ヘ差出シ手帖控共登記ヲ請ハシム可シ

○達乙第三號 (二月十八日 輪廓附)
燧室爐具永續料ノ餉十一年達乙第九十七號達雜具永續料同様一歳ノ金額壹圓貳拾錢ノ半減六拾錢ノ割ヲ以給與概則第九章第四條ニ照準シ支給可致依テ同章第九十五表備考中「第六十四表燧室爐焚方期限中」ノ十三字删除候條此旨相達候事

○達乙第四號 (二月十八日 輪廓附)
本省各局及諸官廳長次官官印別紙雜形之通相定候條此旨相達候事

十八年陸軍省達
第三號達ヲ以テ第
六條但書改正
十三年陸軍省達
第七十六號達ニ依
リ消滅
十六年陸軍省達
第一百八號達ヲ以
テ廢止

明治十二年一月 陸軍省 達 達七第三號 達七第四號

但調製ノ儀本省各局ハ第五局諸官辦ニ於テ彫刻印影可差出候事

(△印ハ朱書)

本省各局諸官辦長次官官印雛形

△方九分朱字

陸軍省	△他ハ總
第一局	テ長次
長	官共之
名	ニ準ス
印	

陸軍全部

【參照】〇二月十五日無號

長次官印章被定候ニ付テハ用方別紙之通決定相成候條爲御心得此段及御通知候也
但本文用方ニ付御問合ノ節及御答候件ノ内別紙ト抵觸候者ハ取消ト御心得有之度候也

(別紙)

長次官公印用法例

- 一長官印章ハ凡ソ陸軍卿へ進呈ノ文書其他職務ニ關シタル事件ニ付署名スルキハ此公印ヲ捺スヘシ
- 一各所轄内ノ顧問書面へ朱書ヲ以テ指令スルモノハ其日ノ下ニ捺印シ且陸軍部内各廳交互ノ往復及ヒ府縣等へ長官ノ名ヲ署シ往復スルキハ或ハ約定書交換調印受領證ニモ之ヲ用ユ
- 一本省各局並諸官辦ノ長官建議ノ文書及ヒ會同商議調印ヲ要スル類其他罪案會審若クハ長官ノ意見ヲ開陳スル等ハ長官ノ名ヲ署スルト雖モ一切此公印ヲ用ユルノ限ニテアラス如キ文書ニハ從前ノ自印ヲ用ユル者トス
- 一長官不在欠員等ニテ之ヲ代理スル次官及ヒ次官ノ職務上ニ關スル公印用法モ總テ前條項ニ準ス
- 一各營所司令官衛戍司令官後備軍司令官並聯隊長東京憲兵隊長及獨立ノ大中小隊長其職務上ニ就テノ公文書内外往復書及部内へ指令スル書面等ニモ又此印ヲ捺用スヘシ此條ハ十五年二月十日通部十

陸軍全部

〇達乙第五號 (一月二十八日 輪傳附)
隊附下士年功加俸表之通相定候條此旨相達候事

十三年陸軍省達乙第七十六號達乙三條ノ附録

但本年二月一日ヨリ施行可致事
(別表)

隊附下士年功加俸表			
曹長	金 八 錢	十一年	金 拾 錢
軍曹	金 五 錢	一年	金 七 錢
伍長	金 三 錢	一年	金 五 錢
考 備	此加俸ハ近衛鎮守及ヒ各兵科ノ別ナク本俸ニ增加シテ之ヲ給ス〇年功ハ下士ニ任スルノ日ヨリ算ス〇出征行軍ノ時給スル給與シテ或ハ病弱等ニテ俸給ヲ減却スルモ本給ニ算スシテ増減ス〇滿年賜金モ本給ニ算スシテ給ス〇此加俸ヲ給スルモノ隊外ニ轉スルキハ之ヲ止ム		

〇達乙第六號 (二月一日 輪傳附)

文官名簿用紙及書式別紙之通改訂候條此旨相達候事

但改訂名簿用紙下渡候條現今奉仕ノ者ハ各所管へ到達ノ日ヨリ二十日間取纏メ第一局へ可差出且以後入用ノ名簿紙ハ同局へ照會可受取事
(別紙)

(△印ハ朱)

文官名簿書式

- 一府縣族籍ハ何府縣何族或ハ平民ト記シ其下右側ニ細字ヲ以テ元何府縣縣ト記ス可シ
- 但シ元府縣縣ト云フハ明治二年六月改正ノ時ニ依ル
- 一産所ハ國郡及ヒ町村等ノ名ヲ記スヘシ
- 一住所ハ本籍ノ在ル所ノ國郡町村番地ヲ記載スヘシ
- 一誕生年月日

明治十二年二月 陸軍省 達乙第六號

一 姓名

一 父母養父母ハ其族籍姓名ヲ記シ其已ニ死スル者ハ亡ノ字ヲ記ス可シ

一 妻並嗣子ハ現ニ存スル者ノミ其姓名ヲ記スヘシ

一 兄弟姉妹男女子ハ現ニ戸籍中ニ在ルモノヲ記シ他家へ嫁シ或ハ養子トナル等他籍ニ在ル者ハ記セズ

一 賞典ハ維新後ノ賞典ニシテ何年月日何功ニ依リ何々下賜ルト記ス可シ

一 罰科ハ懲罰ヲ除クノ外一切之ヲ記スヘシ

一 奉職履歴ハ維新以來年月日ノ順序ヲ以テ一ヶ條毎ニ朱圈ヲ以テ區別シ辭令ノ全文ニ拘ラス簡畧ニシテ明瞭ナルヲ要ス其記載方大畧ヲ示ス左ノ如シ

明治何年月日任何官種何等出仕被仰付(免本官出仕被免)何年月日御用有之何地出張(在勤)歸京被仰付(出發)歸省(何年月日何官隨行附屬)被仰付(何年月日何局(課)出仕)被仰付(何年月日某官省府)被廢何月日追テ御沙汰候迄東京(何地)滞在(是迄之通事務取扱)被仰付(何年月日)被廢何月日追テ御沙汰候迄東京(何地)滞在(是迄之通事務取扱)

一 履歴中舊府藩縣等ノ命ニ係ルモノハ明治二年六月以後ヲ詳ニシ尤軍事ニ關スル勤務出張等ハ其以前ト雖ヒ悉皆記載スヘシ

一 前條ノ如ク履歴ハ維新以來ノ事ニ係ルト雖ヒ叙位ニ限リ其以前ニ在ルモノハ姓名ノ肩書ニ何々位ト記載ス可シ

一 發著ハ出征並海外派遣而已ヲ記シ其他細小ノ件ハ總テ記載セズ

一 任官出仕辭令中官解ノ名稱アル(任内務大録補海軍省何等出仕)ノ類又本省ニ在テ各官解出仕等被命如キハ註ヲ加ヘスシテ明ナリト雖ヒ其他ハ總テ被命シ所ノ各官解ヲ記註スヘシ尤口達ニ係

十九年勅令第二號
ニ依リ本項消滅
達七第十三號達參
看二十一年陸軍省
陸達第二百三十八
號達ヲ以テ廢止

ル者ハ何處ニ於テ口達ト記スヘシ

一 記載字體ハ成ル可ク楷書ニ認メ且明瞭ナルヲ要ス尤年月日ノ如キハ同年(月)日(日)等同ノ字ヲ用ヒス一々數字ヲ記載スヘシ

一 新任ノ者ハ拜命後五日間ヲ限リ各所管ヲ經由シ第一局へ差出スヘシ

一 姓名換及ヒ轉籍結婚家族ノ生死等ハ改正報告規則第二款ノ日報ニ準シ各所管ヨリ其時々報告スヘシ

一 御用掛及等外モ亦前文ノ如ク

○達乙第七號 (二月四日 陸軍省)

下士以下名簿用紙及書式別紙之通改訂候條此旨相達候事(紙製用)

(別紙)

改正下士兵卒名簿記載書式

第一 名簿番號ノ區畫ニハ第何軍管明治何年第何番ト記ス可シ

第二 府縣族籍ノ區畫ニハ何府(縣)華(土)族或ハ平民ト記ス可シ

第三 住所ノ區畫ニハ原籍ノ所在何國何郡何町(村)何番地ト記ス可シ

第四 産所記載ノ法何國何郡何町(村)何番地ト記ス可シ

第五 誕生年月ノ區畫ニハ年號月日ヲ記ス可シ

第六 兵種ハ何兵ト記ス可シ

第七 籤番號ハ第何番ト記ス可シ

但シ其後備ニ入ルモノハ第一後備軍(第二後備軍)第何番ト記ス可シ

第八 祖父母父母及ヒ養父母ノ區畫ニハ姓名存亡ヲ記シ其存スルモノハ誕生ノ年號月日ヲ記ス